

佐久市埋藏文化財調査報告書 第207集

西近津遺跡群

西近津遺跡Ⅷ
西近津遺跡Ⅸ

長野県佐久市長土呂西近津遺跡 第8・9次調査

2013.3

茂 木 義 秀
佐 久 市 教 育 委 員 会

西近津遺跡群では、中部自動車道・市道改良・集合住宅建築などに関わり700軒を超える弥生時代後期、古墳時代、奈良・平安時代の堅穴住居址等が発掘調査されています。

国内最大級の弥生時代後期の住居址、弥生時代の大きな溝、弥生時代の周溝墓、古墳時代前期の古墳、古墳～平安時代の墓、奈良・平安時代の掘立柱建物址群などがみつかりました。

遺物も弥生時代・古墳時代～平安時代の土器や鉄器・石器が大量に出土しました。古代銅印「鉾子私印」・「郡」と刻まれた須恵器・祭祀用の玉や鏡が発見され注目を集めています。

今回の西近津遺跡Ⅶでは、これらの時代よりさらに遡った縄文時代後期の深鉢や土偶・石棒・石剣が新たに検出されました。



土偶の顔面 (L3 G)

上向き顔面・帽子を被ったような頭部を持つ土偶 (L3 G)

扇形土製品 (D)

側面形が板状で頭が肩の真上に付かず、体部上端の前面についた土偶 (D10)

縮尺1:1

下の写真縄文時代深鉢など多くの土器と土偶や石棒・石剣も出土しました。

D2号土坑は、深鉢を正位に埋設し、内部に丸み帯びた礫と鉄平石、その上部に長さ29.5cmの大型石棒が納められていました。

石棒は住居址や墓坑・土坑等からも出土しますが、土器に埋納された出土状態は極めて稀であります。深鉢と20cm離れて鬲形土製品が出土しました。小さな石棒は、丸い小さな礫と並んで見つかりました。

土偶はほとんど女性像で大半が壊された状態で出土します。豊かな収穫を願う“まつり”に使われたり、生命の再生を願って作られたともいわれています。土偶を壊すという行為の目的が探られています。

大型石棒と石皿、または大型石棒と丸石が対で数多く確認されたり、石棒の形から神霊の強い活力・生殖力・生産力がイメージされ、石棒祭儀も論じられています。

今回の調査では、墓域と推定する一帯から深鉢内に土偶と丸みをおびた礫が納められた土坑、その近くから顔面と頭部の土偶が出土しています。何らかの“まつり”の場所であったと推測できましょう。



石棒
OK 509 1:3

大型石棒
D2 1:3

石剣
(3トレン9) 1:3



深鉢 (D3) 1:5

深鉢 (M3) 1:5

例 言

1. 本書は、茂木義秀が行う集合住宅建築に伴う西近津遺跡群西近津遺跡Ⅶ及び西近津遺跡Ⅷの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 佐久市塚原382番地1 茂木義秀
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫
4. 遺跡名及び所在地 西近津遺跡Ⅶ (NTⅦ) 佐久市長土呂1796-2、1796-4
西近津遺跡Ⅷ (NTⅧ) 佐久市長土呂1764-1、1764-15
5. 調査期間及び面積 西近津遺跡Ⅶ (NTⅦ)
発掘調査 平成22年 9月27日～平成22年11月26日
整理調査 平成23年12月26日～平成24年 3月18日
平成24年 4月10日～平成25年 3月 報告書刊行
開発面積 1,500㎡ 調査面積 598㎡
西近津遺跡Ⅷ(NTⅧ)
発掘調査 平成23年11月24日～平成23年12月08日
整理調査 平成23年12月 7日～平成24年 3月18日
平成24年 6月29日～平成25年 3月 報告書刊行
開発面積 407㎡ 調査面積170㎡
6. 発掘調査の担当
西近津遺跡Ⅶ(NTⅦ) 林幸彦・佐々木宗昭
西近津遺跡Ⅷ(NTⅧ) 上原 学
7. 本書及び関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址—H 掘立柱建物址—F 円形周溝墓—OT 土坑—D 溝状遺構—M ビット—Pである。
2. 挿図の縮尺は、遺構1/80・遺物1/4が基本である。挿図毎にスケールを示した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水系標高を標高として記した。
4. 土層の色調は1988年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
5. 遺物挿図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区は公共座標の区割りにしたが、間隔は4m×4mに設定した。
7. 遺構名は変更等により欠番が生じている。
8. 挿図中のスクリーントーンは、以下のことを示す。



9. 住居址の区割りは、右図のとおりである。

目 次

例言・凡例・目次

第I章 発掘調査の経緯

第1節 経過と周辺遺跡	1
-------------------	---

第2節 調査体制	2
----------------	---

第II章 西近津遺跡Ⅶ

第1節 調査体制	2
----------------	---

第2節 調査日誌	2
----------------	---

第3節 基本層序	2
----------------	---

第4節 検出遺構・遺物の概要	2
----------------------	---

第5節 竪穴住居址	2
-----------------	---

第6節 土坑	51
--------------	----

第7節 円形周溝墓	62
-----------------	----

第8節 溝状遺構	63
----------------	----

第9節 ビット	65
---------------	----

第10節 遺構外出土遺物	69
--------------------	----

図版

第III章 西近津遺跡Ⅸ

第1節 調査体制	137
----------------	-----

第2節 調査日誌	137
----------------	-----

第3節 発見された遺構・遺物	138
----------------------	-----

第4節 竪穴住居址	139
-----------------	-----

第5節 掘立柱建物址	145
------------------	-----

第6節 ビット	146
---------------	-----

図版

第1章 発掘調査の経緯

1.経過と周辺遺跡

西近津遺跡群は、佐久・小諸両市境を南西に流下する湧玉川左岸の田切り台地上に立地し、標高は700～713mを測る。台地の南・東側は、浅い低地で周防畑遺跡群と画されている。近津神社西からJR小海線に至る大きな遺跡群で、縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世の遺構や遺物が多く知られている。鷲林城跡が西端にある。

今回の調査地点に近接した長野県埋蔵文化財センターが行った中部横断自動車道に関わる発掘調査では、500軒を超える弥生時代後期、古墳時代、奈良・平安時代等の竪穴住居址をはじめ、国内最大級の弥生時代後期の住居址や古代銅印「銚子私印」が発見され注目を集めている。

付近の市道改良工事に先立つ発掘調査では、約100軒の竪穴住居址（弥生後期～平安時代）等が検出されている。本調査地点の西に接する西近津遺跡IVでは弥生後期～平安時代の多くの竪穴住居址や縄文時代中期末～後期の土坑と遺物が多数検出されている。

茂木義秀氏の行う集合住宅建築に伴い、平成22年度に西近津遺跡Ⅶ、平成22年度に西近津遺跡Ⅷの記録保存調査を実施した。



第1図 西近津遺跡Ⅶ・Ⅷ位置図 (1:50,000)



第2図 西近津遺跡Ⅶ・Ⅷ周辺遺跡 (1:10,000)

2.調査体制

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫 (平成21年7月就任)

事務局 社会教育部長 工藤 秀康(平成22年度) 伊藤 明弘(平成23・24年度)
 社会教育部次長 藤巻 浩(平成23年度)
 文化財課長 森角 吉晴(平成22年度) 吉澤 隆(平成23・24年度)
 文化財係長 三石 宗一
 文化財調査専門員 林 幸彦(平成22・23年度) 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也
 富沢 一明(平成23・24年度) 上原 学(平成23・24年度)
 文化財調査係 並木 節子 富沢 一明(平成22年度) 上原 学(平成22年度)
 神津 和明(平成23年10月～) 井山 泰章(～平成23年9月)
 出澤 力(～平成23年6月) 久保 浩一郎(平成24年度)

第Ⅱ章 西近津遺跡Ⅷ

1. 調査体制

調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭
 調査副主任 堺 益子
 調査員 赤羽根充江 浅沼 勝男 磯貝 律子 市川 光吉 岩崎 重子 岩松 茂年
 白田 絢佳 加藤ひろ美 狩野小百合 神津 和子 神津 千春 小林 節子
 小林 千勝 清水 律子 副島 充子 田中ひさ子 土屋 邦子 中山 清美
 花里佐恵子 広瀬梨恵子 堀籠 保子 依田 三男 柳沢 孝子

2. 調査日誌

平成22年 9月24日 器材搬入。 9月27日 重機による表土除去。遺構確認。
 10月 1日 測量基準杭打設、遺構掘り下げ開始・随時記録作業。
 11月24日 現場作業終了。 11月26日 器材撤収。
 平成23年 1月16日 室内整理調査開始。図面・写真等記録の整理及び修正。遺物洗浄・注記・接合
 平成23年 4月25日～平成24年11月26日 実測・写真撮影。原稿の執筆、報告書の作成。
 平成25年 3月 報告書刊行をもって調査終了。

3. 基本層序

古墳～平安時代の遺構は、第Ⅳ層の上面で確認された。第Ⅳ層・第Ⅴ層の上部は、縄文時代の遺物を包含する。調査区の北東部は、第Ⅰ層直下が遺構確認面であった。第Ⅵ層の上部5～10cmは黄褐色土以下にぶい黄褐色土さらに堅く締まるにぶい褐色土がみられた。

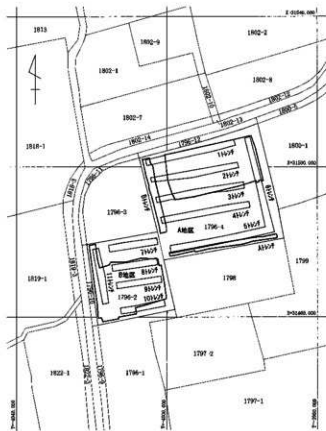
4. 検出遺構・遺物の概要

遺構 竪穴住居址25軒(縄文時代中期後半・後期前半、弥生時代後期、古墳～平安時代)
 円形周溝墓3基、土坑37基、溝状遺構3条、ピット202基
 遺物 縄文中期後半・後期前半土器、弥生後期土器、土師器、須恵器、土製品(円盤・土偶等)
 鉄製品(紡錘車・刀子等)、石製品(打製石斧・磨製石斧・打製石鎌・石棒・凹み石等)

5. 竪穴住居址

(1) H1号住居址

I区東端い・ラ-3・4Grにあり、P36～38、P63、P69～74、P77～83に切られ、P159を切る。炉は主柱穴P1の東脇と住居址中央に、2基ある。炉1は地床炉で10cm程度掘りこまれ、炉2は明確な掘り込みはない。ピットは8個検出され、P1～P3の主柱穴と棟持柱P4、さらにP6から五平状柱痕が確認された。P7・P8は床面下から確認され、旧い出入口施設で南側への住居拡張も考えられる。

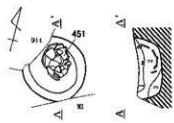


西近津遺跡調査範囲図(1:1,000)

こ け く き か お え う い あ 1



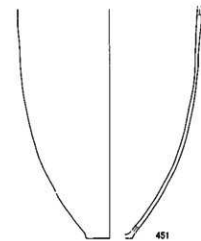
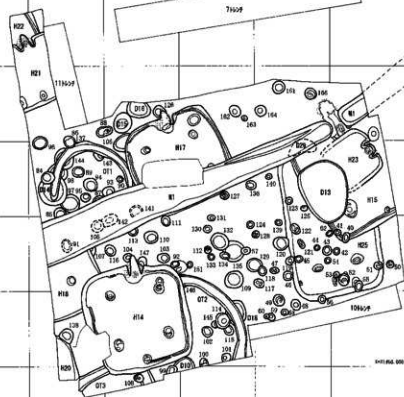
西近津遺跡調査全体図(1:200)



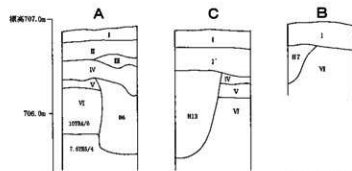
- 1層 黒色土(10792/1)主体、黒褐色土(10792/2)に少量の黒褐色土(10795/4)少量含む。
- 2層 灰褐色土(10794/2)に少量の黒褐色土(10795/4)ブロック黒色土(10792/1)を含む。

0 1.5m
(1:600)

せ す し き



P97号ピット
0 50cm
(1:160)

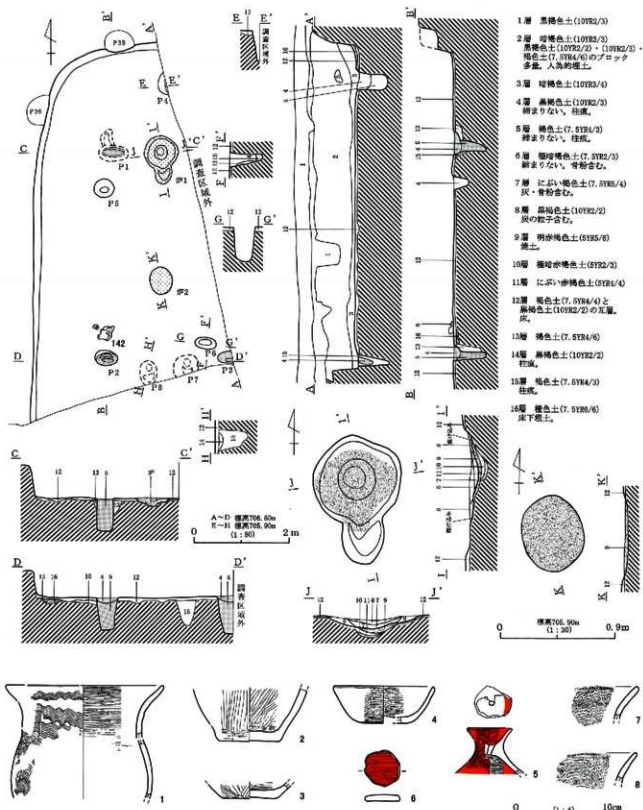


土層図(1:20)

- I層 黒褐色土(10792/3) 耕作土
- II層 黒褐色土(10792/3) ビール片等含む埋石層(埋石が階層に露出)
- III層 黒褐色土(10792/2) 小片露少量
- IV層 黒褐色土(10792/2) 粘土層に少量の黒土を含む
- V層 黒褐色土(10792/1) 粘土層に少量の黒土を含む
- VI層 黒褐色土(10792/1) 粘土層に少量の黒土を含む
- VII層 黒褐色土(10792/2)の粘土多量、黒褐色土(10795/4)の粘土少量
- VIII層 黒褐色土(10792/2)の粘土多量、黒褐色土(10795/4)の粘土少量
- IX層 黒褐色土(10792/2)の粘土多量、黒褐色土(10795/4)の粘土少量
- X層 黒褐色土(10792/2)の粘土多量、黒褐色土(10795/4)の粘土少量

第3図 西近津遺跡調査範囲図(1:1,000)・調査全体図(1:200)・土層図(1:20)

床は堅く平坦。覆土3層は人為的埋土。遺物は赤彩の壺・甕・無彩の鉢・赤彩の蓋・土製円板(赤彩の壺転用)等の弥生土器、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・ミニチュア土器・土製円板(深鉢等の転用)がある。多数出土した石器の時期は明確でない。本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



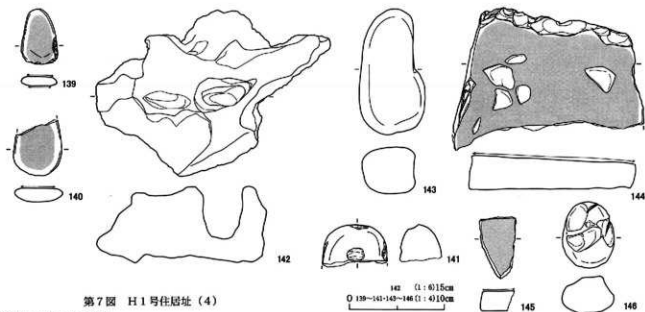
第4図 H1号住居址(1)



第5图 H1号住居址(2)



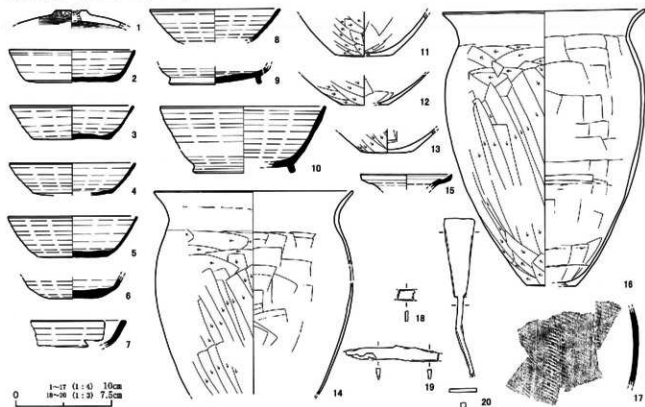
第6图 H1号住居址(3)



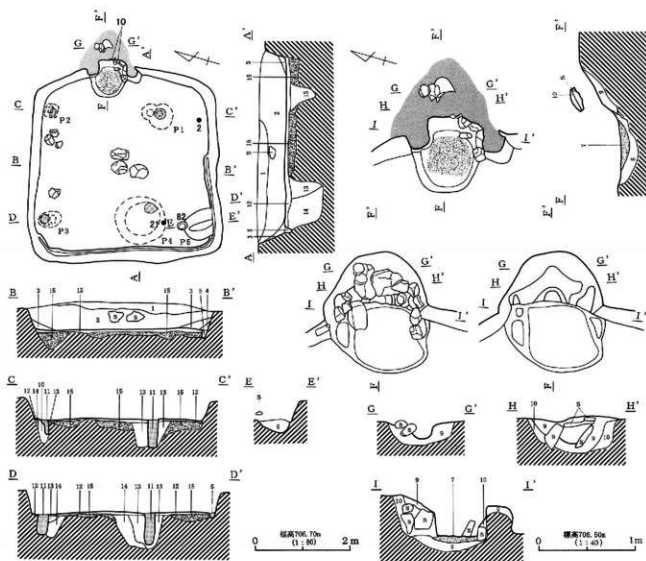
第7図 H1号住居址(4)

(2)H2号住居址

I区お・か・3・4Grにあり、H3・H7・H24・D25・P190・P195を切る。カマドは東壁中央に、粘土と面取軽石・安山岩・熔結凝灰岩等で構築されている。ピットは、柱痕が確認されたP1~P4の主柱穴等5個検出された。床は堅く平坦。南壁中央~西壁下を壁溝が巡る。覆土2層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器・鉄器、本址に伴わない縄文時代中期末~後期土器・弥生時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。底部すべてヘラ成形・調整痕ある須恵器坏(2~6)・高台坏(9・10)、口径と胴部最大径がほぼ等しい武蔵甕(14・16・23)、鉄器は刀子(19)、鎌身平面形斧箭で造込は平の鉄鎌がある(20)。本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅱ期-8世紀前半(第2四半期)に位置づけられる。

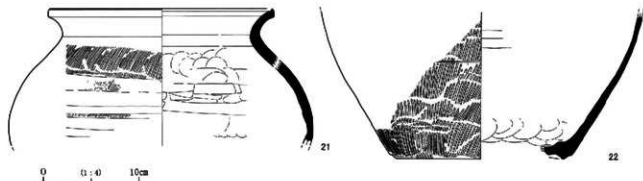


第8図 H2号住居址(1)

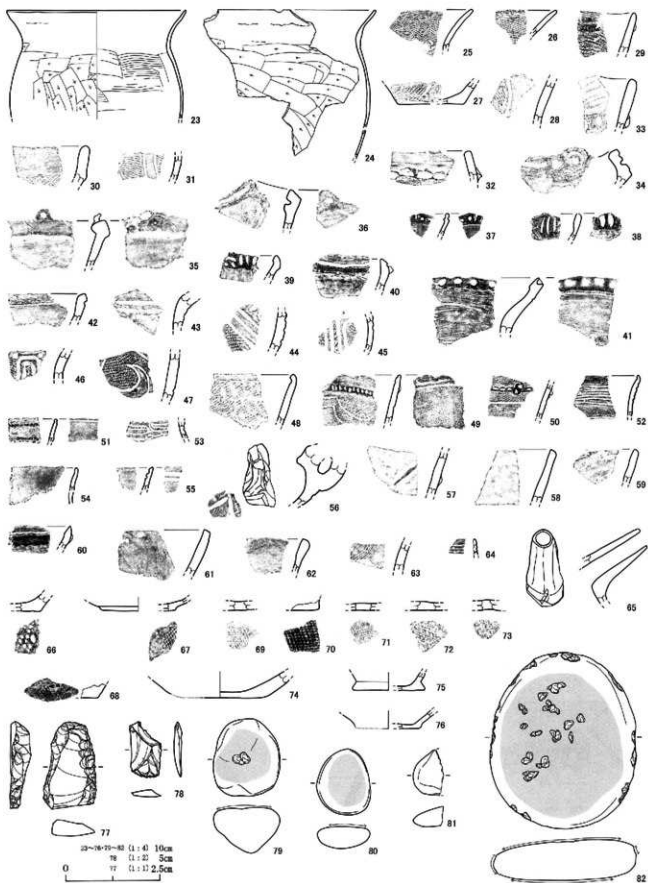


- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 砂質土多量。締まりない。自然堆積。
- 2層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/2)・黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。20~40cm大の磁器破片・安山岩7個を含む。人為的堆積。
- 3層 黒褐色土(10YR2/2) 粘土やや多い。
- 4層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)ブロック含む。
- 5層 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)ブロック多量。
- 6層 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。
- 7層 明赤褐色土(5YR5/6) 粘土。火灰。
- 8層 黒褐色土(5YR3/1) 褐灰色(7.5YR4/1)の粘土少量含む。

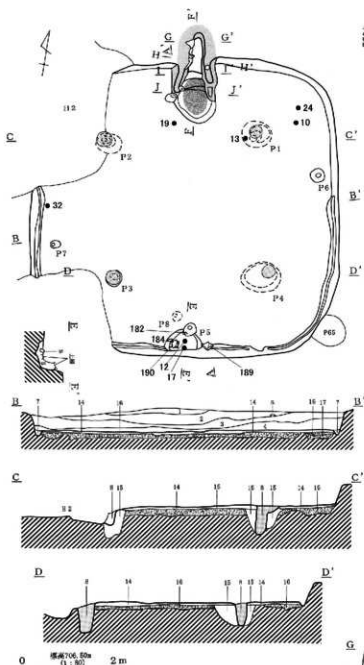
- 9層 黒褐色土(7.5YR3/1) 褐灰色(7.5YR4/1)の粘土が全て黒褐色土(10YR3/2)が占まれる。
- 10層 黒褐色土(10YR2/2) 締まりない。
- 11層 黒褐色土(10YR2/2) 締まりない。柱痕。
- 12層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR5/6)と黒褐色土(10YR2/3)が互層となる部分がある。置く跡がある。
- 13層 暗褐色土(10YR3/3) 暗褐色土(7.5YR5/6)・黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック多量。締まりない。ピットの痕土。
- 14層 暗褐色土(10YR3/2) 暗褐色土(7.5YR5/6)・黒褐色土(10YR2/3)の大ブロック多量。締まりない。
- 15層 明褐色土(7.5YR5/6)・暗褐色土(10YR3/2) 灰下の粘土。



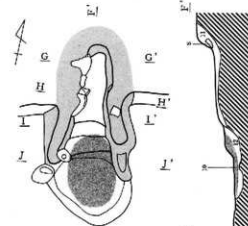
第9図 H2号住居址(2)



第10图 H2号住居址(3)

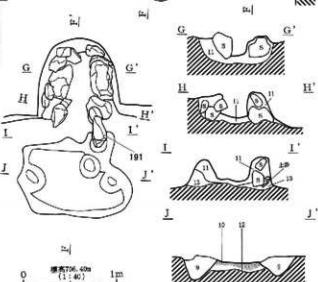


- H3
- 1層 黒褐色土(10YR2/2)
 - 2層 黒褐色土(10YR2/2) 褐色土(10YR4/6)・黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック多量。人為的堆積。
 - 3層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/2)・褐色土(7.5YR4/6)の小ブロック少量。人為的堆積。
 - 4層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/2) 人為的堆積。
 - 5層 黒褐色土(10YR2/2)
 - 6層 暗褐色土(7.5YR2/3) 褐色土(10YR4/6)・黄土・粘土の小ブロック多量。
 - 7層 暗褐色土(10YR3/4) 粘り足りない。黒褐色土(10YR2/2)・にぶい黄褐色土(10YR3/4)ブロック多量。
 - 8層 黒褐色土(10YR2/3) 粘り足りない。柱礎。
 - 9層 暗褐色土(7.5YR2/3) 黒褐色土(10YR2/2)・黄土・粘土の小ブロック多量。
 - 10層 暗褐色土(10YR3/4) 黄土。12層が柱礎したもの。火災。
 - 11層 極暗褐色土(7.5YR2/3) 粘土。
 - 12層 暗褐色土(5YR3/1) 黄土ブロック少量。
 - 13層 黒色土(10YR2/1) H17の黄土。カマド跡の直前。
 - 14層 黒褐色土(10YR2/3) 硬く締まる。灰。
 - 15層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/2)・にぶい黄褐色土(7.5YR3/4)のブロック多量。
 - 16層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/2) 褐色土(10YR4/6)の小ブロック少量。灰下埋土。
 - 17層 暗褐色土(10YR3/4) 柔らかく粘り足りない。
 - 18層 暗褐色土(5YR3/2) 灰・黄土埋土。

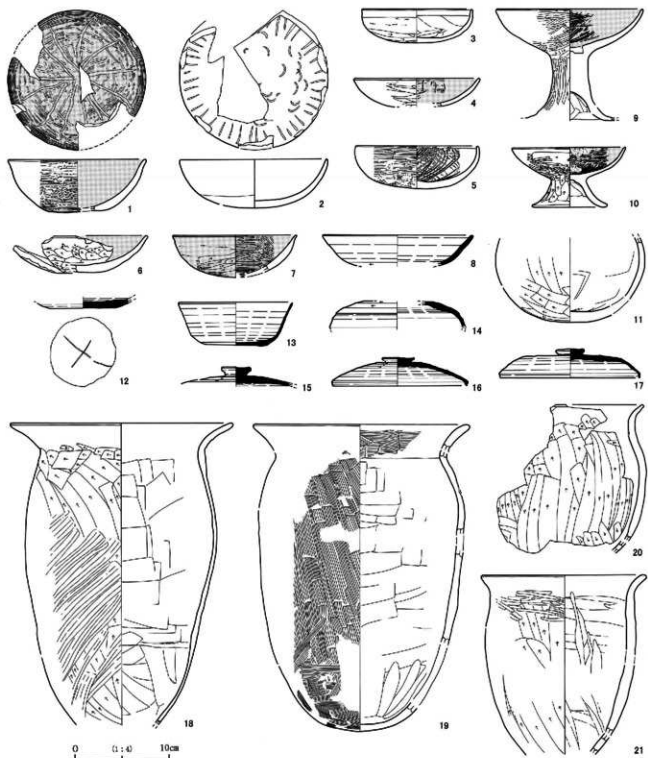


(3)H3号住居址

I区え・お・3・4Grにあり、H2・H4・P65・P75に切られH24を切る。カマドは北壁中央に、粘土と面取軽石・安山岩等で構築される。ピットは、柱痕が確認されたP1～P4の主柱穴等5個検出された。P5は、入り口施設と見られる。床は堅く平坦。東壁中央から南壁下に壁高が巡る。覆土2～4層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器・鉄器、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・土

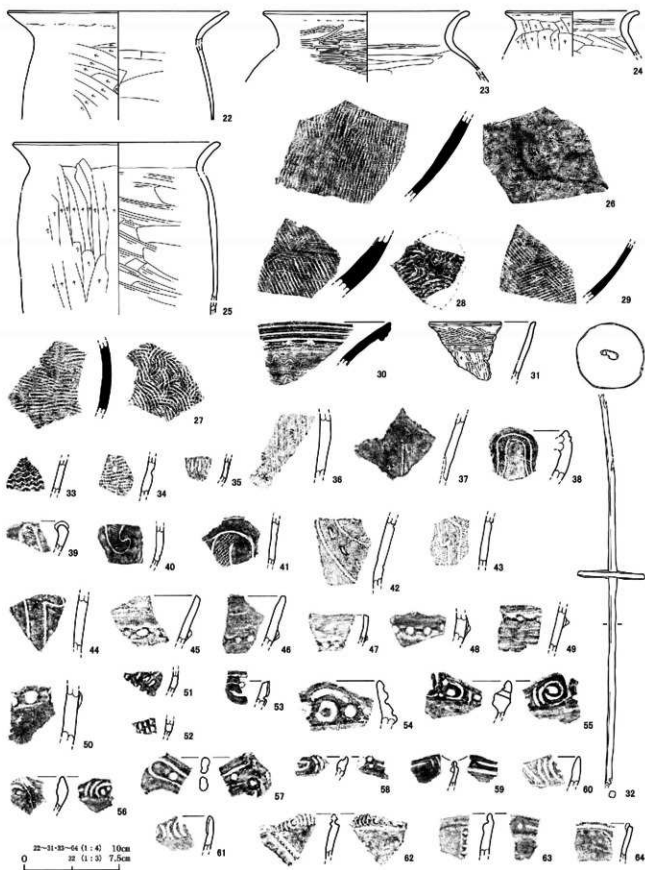


第11図 H3号住居址(1)

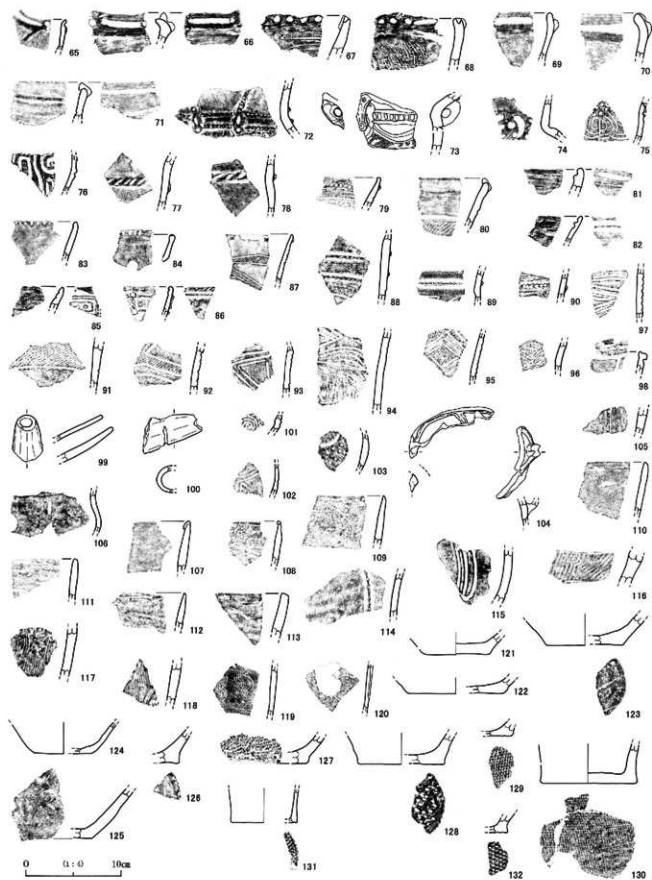


第12図 H3号住居址(2)

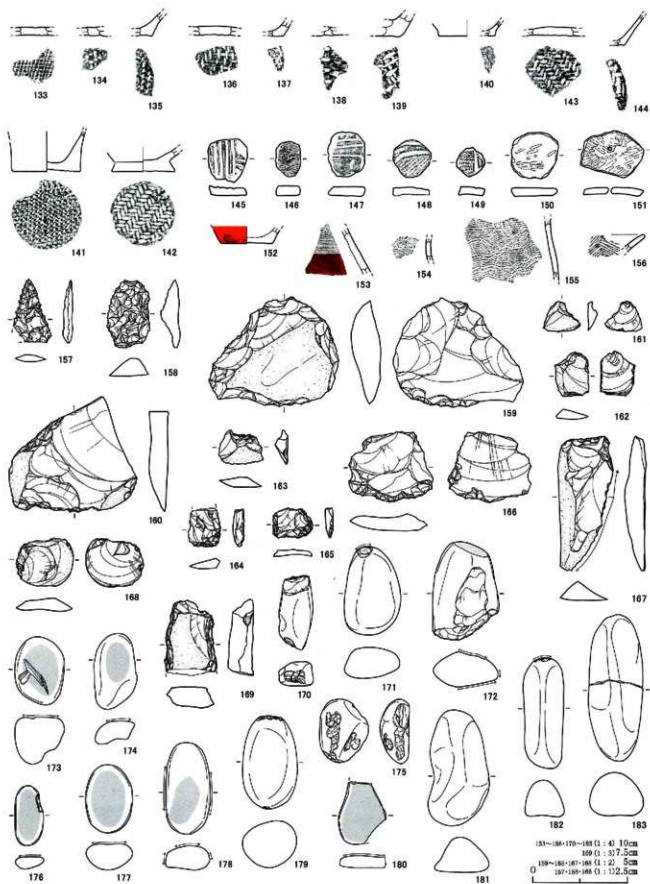
製品、弥生時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。ガラス小玉は弥生時代後期であろう。土師器には坏・高坏・武蔵甕・甕・甗・壺・壺・鉢が、須恵器には坏・蓋・甕がある。鉄器(32)は紡錘車である。須恵器坏(12・13)は底部へラ成形・調整痕、武蔵甕(19・22)は「く」字状口縁部に最大径がある。本址は、これらの遺物より小林眞寿の編年(2005型原)奈良・平安時代Ⅰ期・8世紀前半(第1四半期)に位置づけられる。



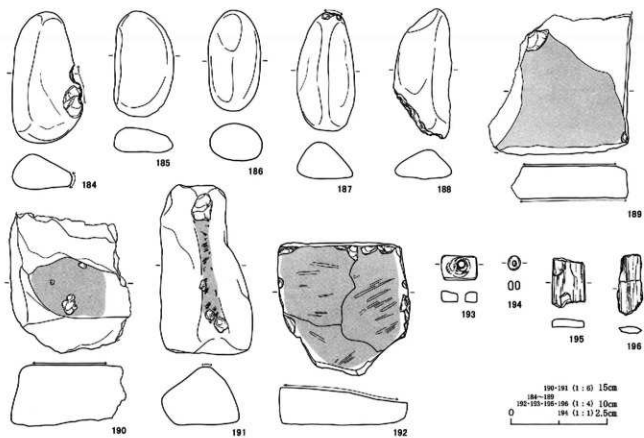
第13图 H3号住居址(3)



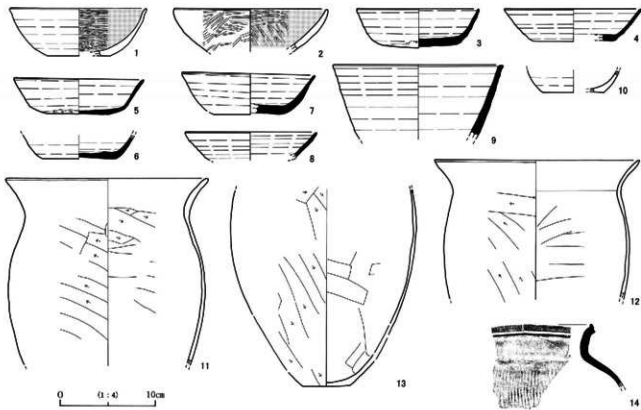
第14图 H 3 号住居址 (4)



第15图 H3号住居址(5)



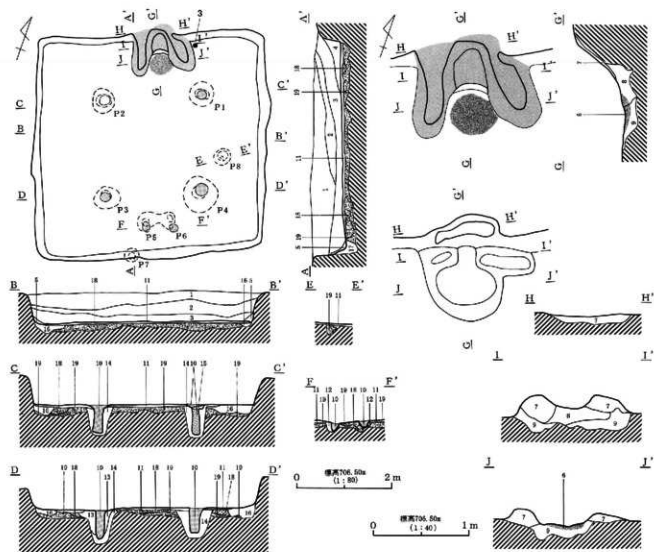
第16图 H3号住居址出(6)



第17图 H4号住居址(1)

(4)H4号住居址

I区お・か・4・5Grにあり、H3・H24・D19・P148を切る。四隅が角張る正方形でカマドは北壁中央に粘土等で構築された袖部・火床が残存する。ピットは、柱痕が確認されたP1~P4の主柱穴等8個検出された。P5・P6は入り口施設と見られP7は壁柱穴である。床は堅く平坦。覆土2・3層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器、本址に伴わない縄文時代中期末~後期土器・土製品、弥生時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。土師器は坏・武蔵甕・甕・ロクロ甕が、須恵器には坏・鉢・甕・甌がある。底部にヘラ成形・調整痕がある土師器坏(1)・須恵器坏(3~6)、回転系切りを見せる須恵器坏(7)、口径と胴部最大径がほぼ等しい武蔵甕(11・12)がある。本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期-8世紀後半(第3四半期)に位置づけられる。



H4

- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 砂質土。自然堆積。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR5/6)・黒褐色土(10YR2/2)・砂質土の小ブロック多数。人為的埋土。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR5/6)・粘土の小ブロック少量。黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック多数。人為的埋土。
- 4層 黄褐色土(10YR5/7) 粘土ブロック多数。土小ブロック少量。
- 5層 黄褐色土(10YR2/3) 黄褐色土小ブロック多数。
- 6層 明褐色土(5YR5/6) 粘土。塗り込み。

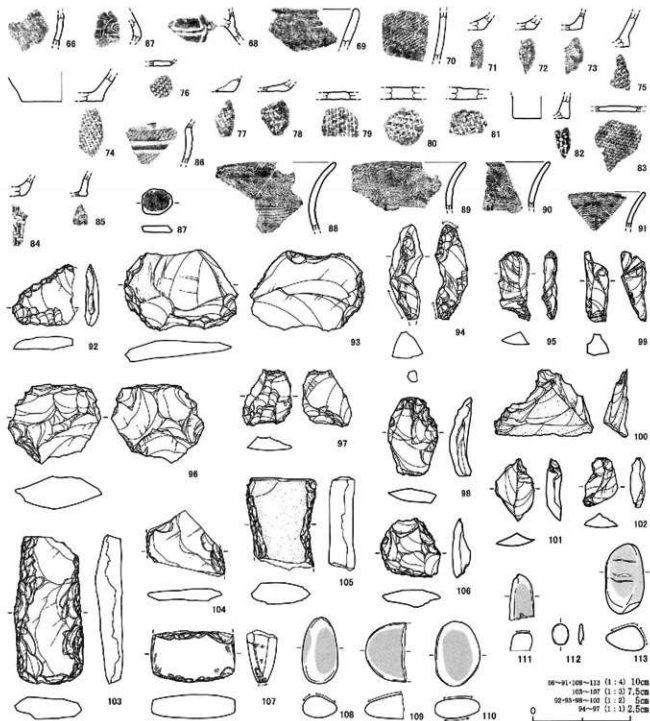
- 7層 黒褐色土(10YR2/2) 粘土。カマド埋戻土。
- 8層 黄褐色土(10YR2/2) カマド埋戻土。 11層 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック含む。
- 9層 褐色土(7.5YR4/4) 塗土・粘土・灰・黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック含む。カマド構築土。
- 10層 黄褐色土(10YR2/3) 網まきない。柱痕。
- 11層 黄褐色土(10YR2/2) 灰。
- 12層 黄褐色土(10YR2/3) P5・P6の埋土。
- 13層 褐色土(7.5YR4/4) F1に黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック含む。P1~P4の埋土。

- 14層 褐色土(7.5YR4/4) F1が土。P1~P4の埋土。
- 15層 褐色土(7.5YR4/4) F1が土。
- 16層 黄褐色土(10YR2/2) 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック少量。
- 17層 黄褐色土(10YR2/3)
- 18層 褐色土(10YR4/4) 黒褐色土(10YR2/3)・黄褐色土(10YR5/6)のブロック多数。床下埋土。
- 19層 褐色土(7.5YR4/4) F1が土。黄褐色土(10YR2/2)の小ブロック少量。床下埋土。

第18図 H4号住居址(2)



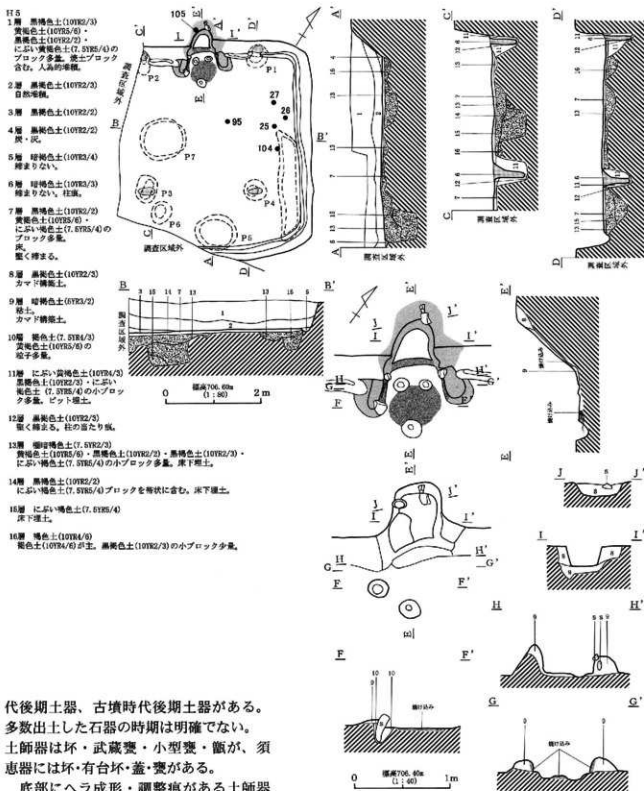
第19圖 H4号住居址(3)



第20図 H4号住居址(4)

(5) H5号住居址

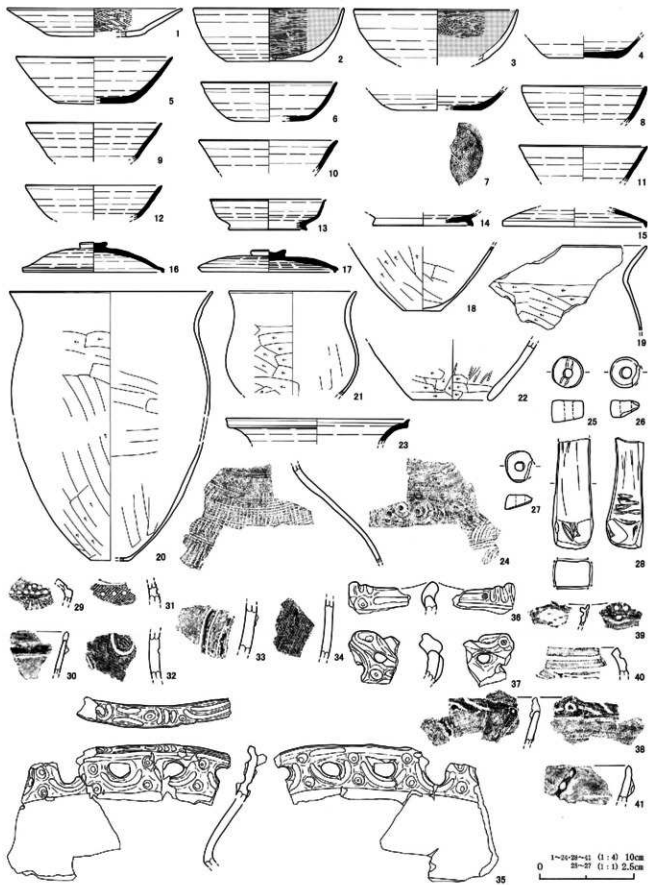
I区き・く・5・6 Grにあり、H6・D22・D27を切る。南壁が少し膨らむ方形でカマドは北壁中央に粘土等で構築された袖部・火床が残存する。ピットは、柱痕が確認されたP1~P4の支柱穴等7個検出された。P5は入り口施設と見られP6・P7は床面下から検出された。床は堅く平坦。覆土1層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器・滑石製の白玉、本址に伴わない縄文時代後期土器・土製品、弥生時



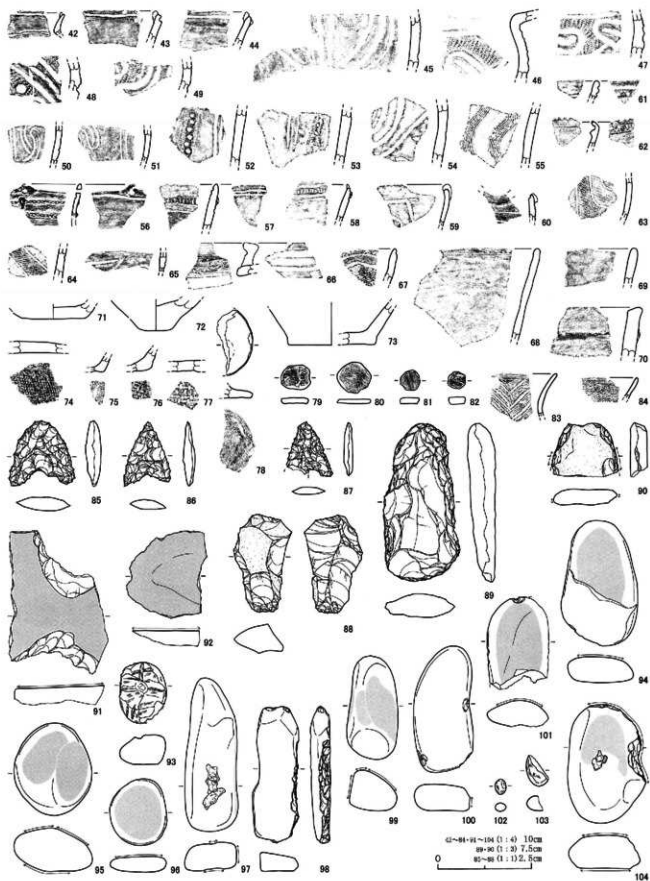
代後期土器、古墳時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。土師器は坏・武蔵甕・小型甕・甌が、須恵器には坏・有台坏・蓋・甕がある。底部にヘラ成形・調整痕がある土師器坏(2・3)・須恵器坏(4～7)、皿状のつまみを有す蓋(16・17)、口径と胴部最大径がほぼ等しい武蔵甕(11)がある。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅱ期-8世紀前半(第2四半期)に位置づけられる。

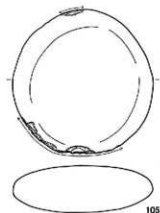
第21圖 H5号住居址(1)



第22图 H5号住居址(2)



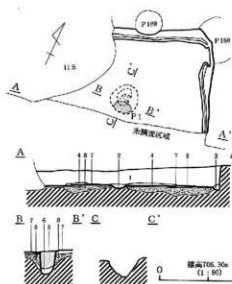
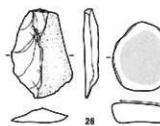
第23图 H5号住居址(3)



第24図 H5号住居址(4)

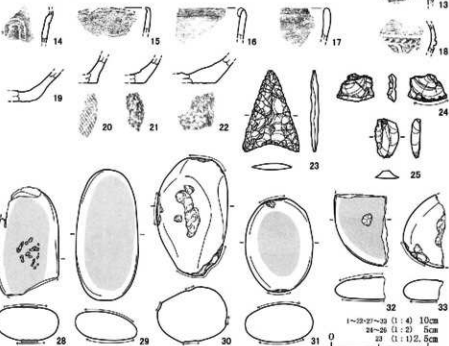
(6)H6号住居址

I区き・5・6 Grにあり、H5・P168・P169に切れ、壁溝が北・東壁下を巡る。P1は、柱痕が確認された。床は堅く平坦。覆土1層は人為的埋土。遺物は、土師器杯・甕、須恵器甕、本址に伴わない縄文時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。底部ヘラケズリされる須恵器杯は、P1から出土した。本址の時期は、8世紀前半(第2四半期)以前である。



H6

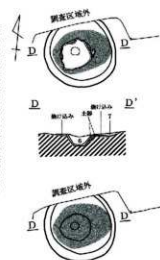
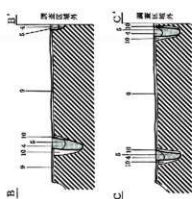
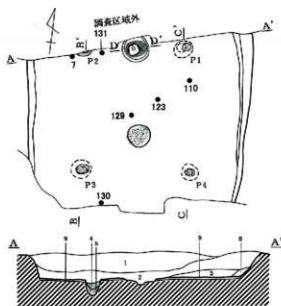
- 1層 赤褐色土(10YR2/3) 黒褐色土(10YR2/2)・褐色土(10YR4/3)のブロック多量。人為的堆積。
- 2層 暗褐色土(10YR3/4) 跡残りない。
- 3層 暗褐色土(10YR3/4) 跡残りない。
- 4層 にがい褐色土(7.5YR5/4)
- 5層 暗褐色土(10YR2/3) 跡残りない。粒感。
- 6層 にがい褐色土(7.5YR5/4)
- 7層 暗褐色土(10YR3/4) 底。
- 8層 暗褐色土(10YR3/4) にがい褐色土(7.5YR5/4)のブロック多量。



第25図 H6号住居址

(7)H7号住居址

I区え・お・2・3 Grにある。H2・H3に切れ、D25・D26を切る。壺底部(2)を用いた土器埋設が支柱穴間中央にある。ピットは、柱痕が確認されたP1~P4の支柱穴4個が検出された。床は堅く平坦である。覆土1層は人為的埋土。遺物は弥生時代後期土器・炉から焼骨片、本址に伴わない縄文時代後期土器、多数出土した石器の時期は明確でない。1・2は赤彩の壺、3~8は櫛描波状文・籐状文の甕、9は鉢、10は高杯、11は鉢か高杯、どれも内外面赤彩。本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



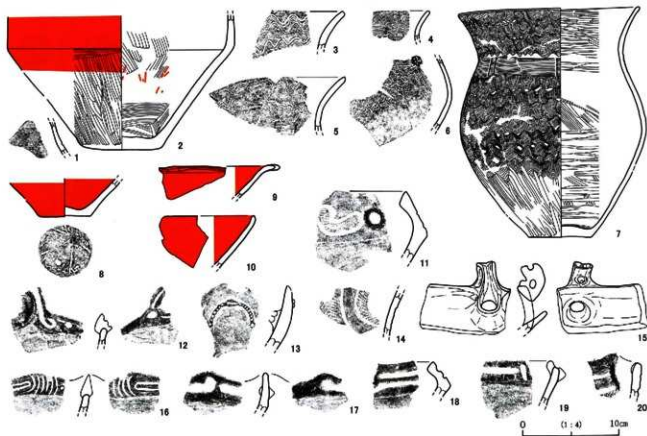
標高706.80m
(1:80) 2m

標高706.30m
(1:30) 0.9m

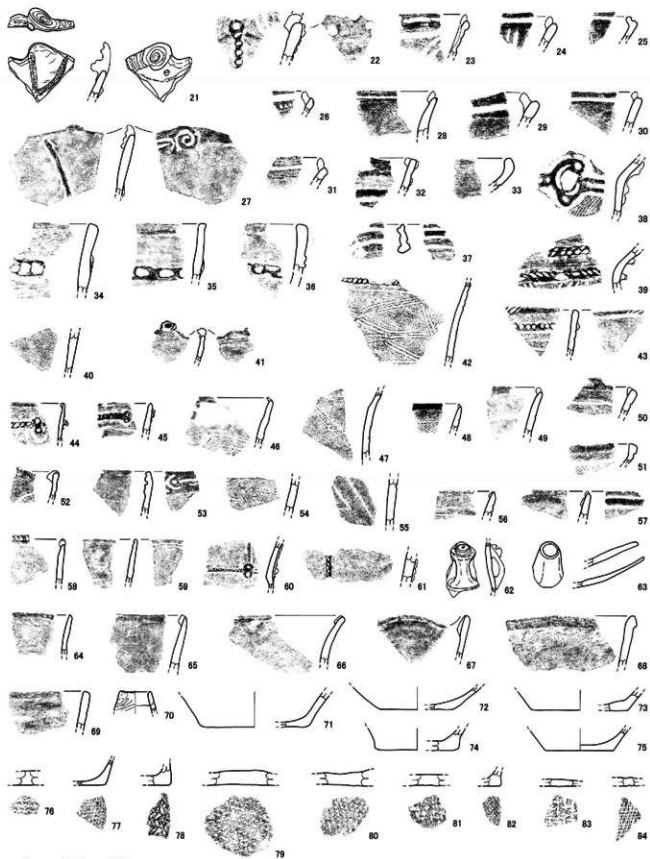
H7

- 1層 黒褐色土(10TR2/3) 褐色土(10TR4/6)・黒褐色土(10TR2/2)の小ブロック多量。人為的破壊。
 2層 黒褐色土(10TR3/1) 褐色土(10TR4/6)のブロック少量。堅く締まる。人為的破壊。
 3層 黒褐色土(10TR2/2) 灰・褐色土(10TR4/6)のブロック少量。人為的破壊。
 4層 黒褐色土(10TR2/2) 締まりない。柱状。

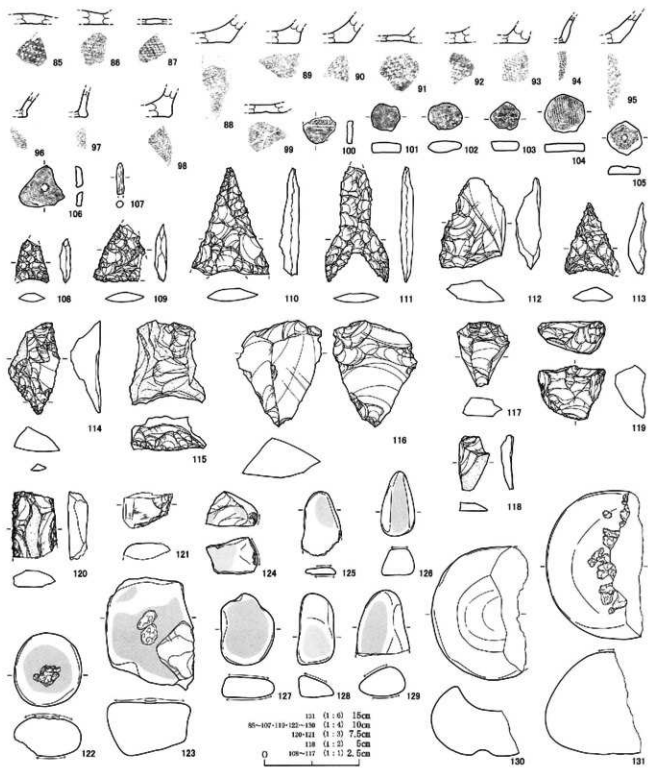
- 5層 暗褐色土(10TR3/4) 締まりない。柱状。
 6層 暗赤褐色土(5TR3/2) 灰土粒子多量。
 7層 黒褐色土(10TR2/3) 灰の粒子含む。
 8層 暗褐色土(10TR3/3) 褐色土(10TR4/6)多量。堅く締まる。灰。
 9層 黒褐色土(10TR2/2)
 10層 褐色土(7.5TR4/4)



第26図 H7号住居址(1)



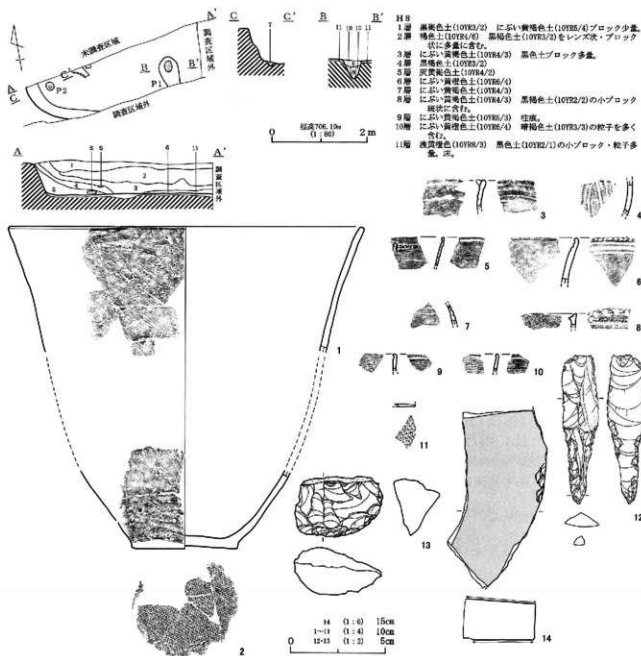
第27图 H7号住居址(2)



第28図 H7号住居址(3)

(8)H8号住居址

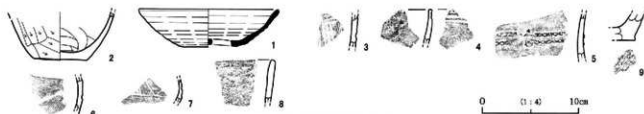
I区あ・い-8 Grにある。D11・P7に切られる。南・東側の調査区域外と北側の未調査区に伸びる。柱痕が確認された支柱穴P1と西南角に1個のビットが検出された。床は堅く平坦。遺物は小片で図示できなかったが、土師器内面黒色処理される坏、外稜を持つ土師器坏がある。他に本址に伴わない縄文時代後期土器、弥生時代後期土器、石錐・削器・台石は混入遺物であろう。本址の時期は明確でない。



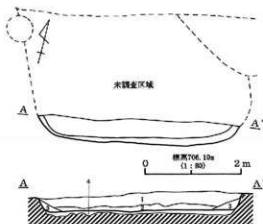
第29図 H8号住居址

(9)H9号住居址

I区お・か・9Grにある。H13を切る。北側の未調査区に伸びる。床は平坦。遺物は、底部回転糸切りを見せる須恵器杯、土師器武蔵甕底部がある。他に本址に伴わない縄文時代後期土器、弥生時代後期土器、分厚い土師器甕がある。本址の時期は、9世紀代であろう。



第30図 H9号住居址(1)

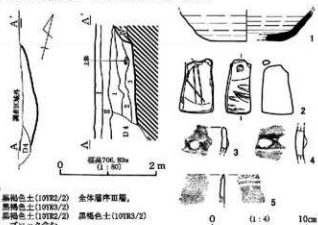


- H 9
- 1層 黒褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)ブロック少量、粘土ブロック積造含む。
 - 2層 灰土多量、灰土ブロック少量。
 - 3層 灰土多量、灰土ブロック少量。
 - 4層 灰土多量、灰土ブロック少量。

第31図 H9号住居址(2)

(10)H10号住居址

I区c-3・4Grにある。D4に切られる。東壁下端は西側の調査区域外に伸びるため、床等詳細は不明。遺物は、底部手持ちヘラケズリの須恵器坏、砥石がある。他に本址に伴わない縄文時代後期土器がある。本址の時期は、8世紀代であろう。

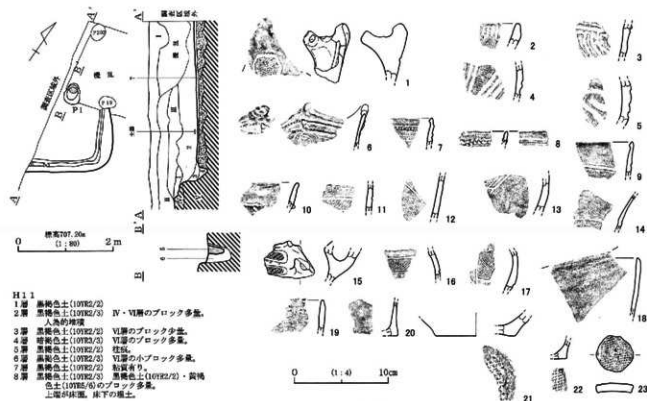


- H 10
- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 全体層序不明。
 - 2層 黒褐色土(10YR2/2)
 - 3層 黒褐色土(10YR2/2)

第32図 H10号住居址

(11)H11号住居址

I区c-3・4Grにある。H12・P21を切り、P19・P202に切られる。大半が調査区域外にある。柱痕が確認されたP1は、主柱穴であろう。床は堅く平坦。覆土2層は人為的埋土。遺物は小片で図示できなかったが、古墳時代後期の土器器内面黒色処理される坏、須恵器蓋等がある。他に縄文時代後期土器・土器片円板、弥生時代後期土器が出土した。本址の時期は明確でないが古墳時代以降であろう。



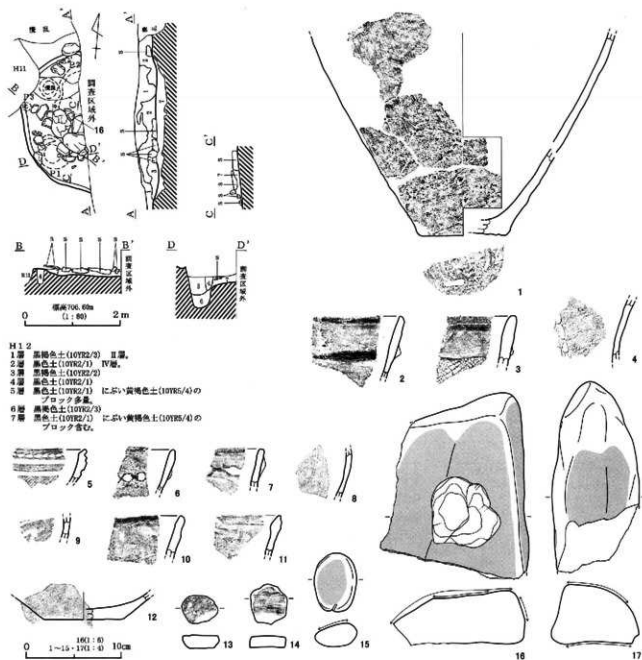
- H 11
- 1層 黒褐色土(10YR2/2)
 - 2層 黒褐色土(10YR2/2) IV・VI層のブロック多量、人為的埋土。
 - 3層 黒褐色土(10YR2/2) VI層のブロック多量。
 - 4層 黒褐色土(10YR2/2) VI層のブロック多量。
 - 5層 黒褐色土(10YR2/2) 埋土。
 - 6層 黒褐色土(10YR2/2) VI層の小ブロック多量。
 - 7層 黒褐色土(10YR2/2) 粘層有り。
 - 8層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/2)・黄褐色土(10YR5/6)のブロック多量。上層が床面、床下の埋土。

第33図 H11号住居址

(12)H12号住居址

I区け-3・4、こ4Grにあり、H11に切られる。敷石住居であるが大半が未調査区域外にある。壁際のピット4個は、敷石下端面から検出された。敷石は鉄平石を主に安山岩の平らな面を用いている。小礫で隙間を埋めていたようである。礫下面を掘方の黒色土に入れ平坦を形成している。炉は調査範囲では確認できなかった。遺物は縄文時代中期末葉・後期前葉の土器少量、磨石・台石がある。粗製深鉢1は胴部以上が欠損し文様構成不明、底部には木葉痕がつけられている。他に小片の縄文時代中期後葉2～5、後期称名寺式6・7、後期堀之内1式8、堀之内2式9、後期前半10～14がある。15は1面に磨り面ある磨石、16・17は台石で、16の中央には広めの敲打痕が窺える。

本址の時期は、縄文時代後期前半であろうか。

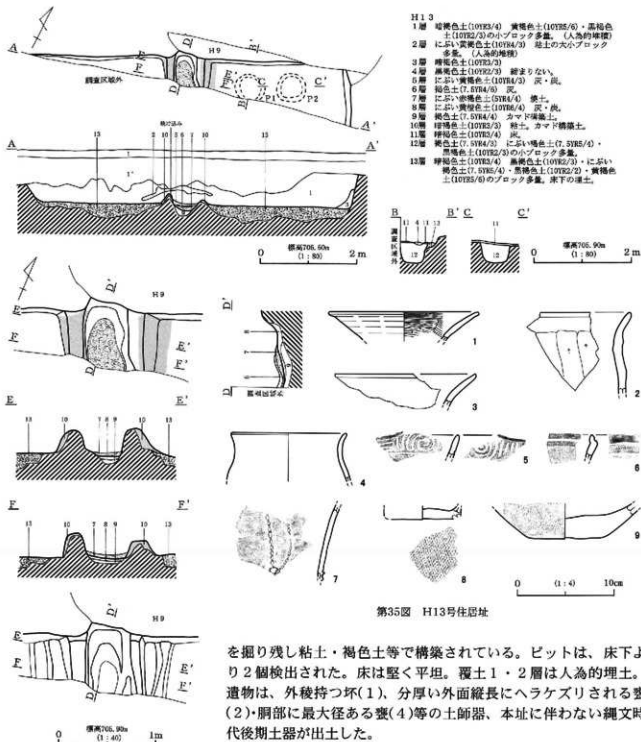


- H12
 1層 黒褐色土(10YR2/3) 遺跡
 2層 黒色土(10YR2/1) 7層
 3層 黒褐色土(10YR2/2)
 4層 黒色土(10YR2/1)
 5層 黒色土(10YR2/1) におい、黄褐色土(10YR5/4)の
 フロツク多量。
 6層 黒褐色土(10YR2/3)
 7層 黒色土(10YR2/1) におい、黄褐色土(10YR5/4)の
 フロツク含む。

第34図 H12号住居址

(13)H13号住居址

I 区お〜き-9 GrにありH9に切られる。大半が南側調査区域外に伸びる。カマドは北壁中央に地山

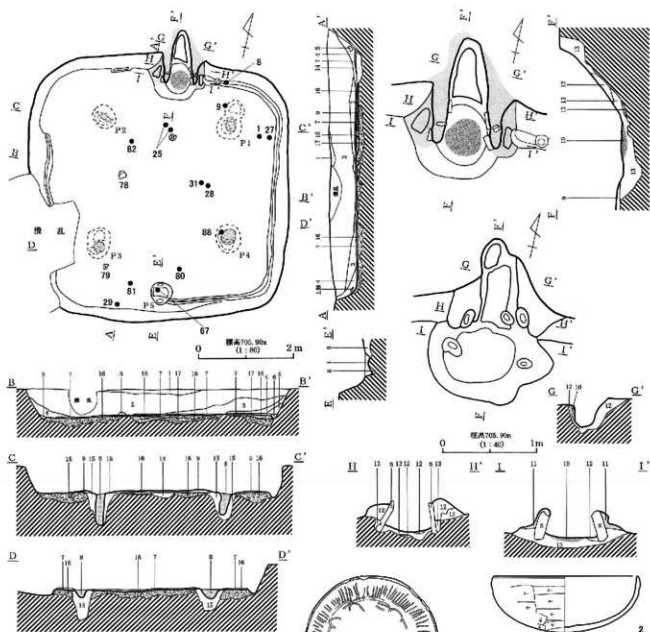


を掘り残し粘土・褐色土等で構築されている。ピットは、床下より2個検出された。床は堅く平坦。覆土1・2層は人為的埋土。遺物は、外稜持つ環(1)、分厚い外面縦長にヘラケズリされる甕(2)・胴部に最大径ある甕(4)等の土師器、本址に伴わない縄文時代後期土器が出土した。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅲ期-6世紀中葉〜7世紀初頭に位置づけられる。

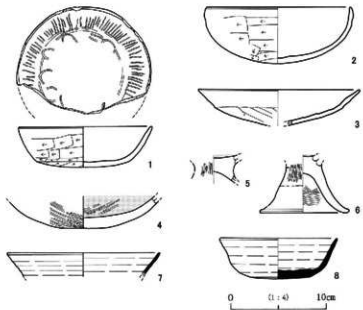
(14)H14号住居址

II区さ〜す-12〜14GrにありH18・H19・D10・P92・P104・P146・P147・OT2を切る。西壁の南半分は攪乱で破壊されていた。カマドは北壁中央に、粘土と安山岩等で構築されている。ピットは柱

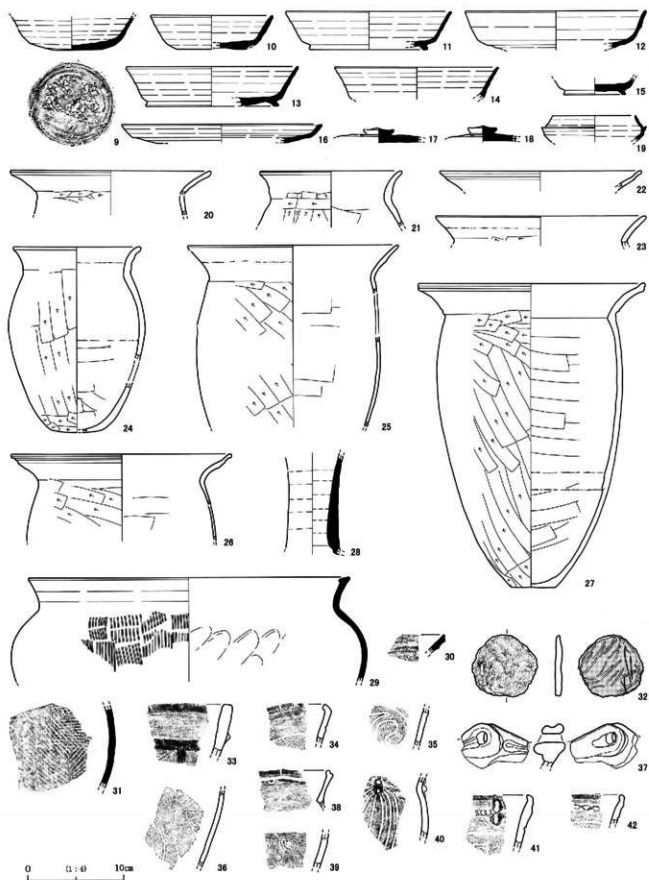


H14

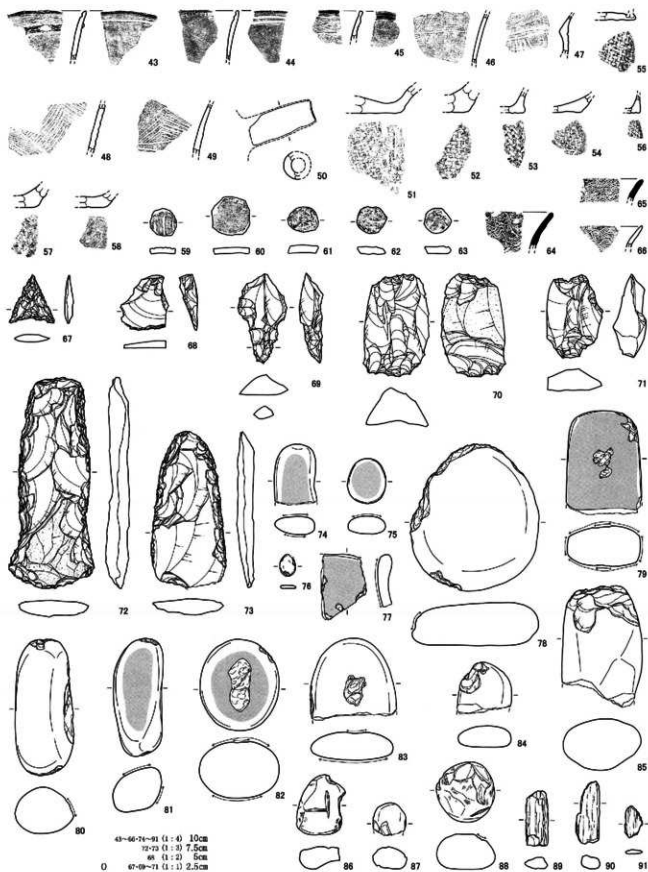
- 1層 埴輪色土(10YR3/3) 黄褐色土(10YR5/6)・黒褐色土(10B2/3)の
小ブロック多量。
- 2層 埴輪色土(10YR3/3) 黒褐色土(10YR2/3)の溝状ブロック含む。
- 3層 埴輪色土(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/2)
- 4層 埴輪色土(10YR3/4)
- 5層 埴輪色土(10YR3/4)
- 6層 黄色土(10YR4/4) 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。
- 7層 埴輪色土(10YR2/2) 灰土(灰土)の堆積層。
- 8層 黒褐色土(10YR2/2) 埴りない。柱状。
- 9層 黒褐色土(10YR2/2) 強く締まる。R。
- 10層 埴輪色土(10YR3/4) カマド跡部が変換したもの。(掛け込み)
- 11層 埴輪色土(10YR3/3) 粘土・カマド焼土。
- 12層 埴輪色土(10YR3/2) 粘土多量。カマド床面上。
- 13層 埴輪色土(10YR2/2) 洗土粒子・黄褐色土(10YR5/6)の
小ブロック多量。
- 14層 埴輪色土(10YR2/2) 粘土・焼土ブロック。
- 15層 埴輪色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)・黒褐色土(10YR2/3)の
ブロック多量。
- 16層 埴輪色土(10YR3/3) 黄褐色土(10YR5/6)・黒褐色土(10YR2/3)の
ブロック多量。直下の場土。
- 17層 褐色土(10YR4/6) 黒褐色土(10YR2/3)のブロック含む。



第36図 H14号住居址 (1)



第37图 H14号住居址(2)



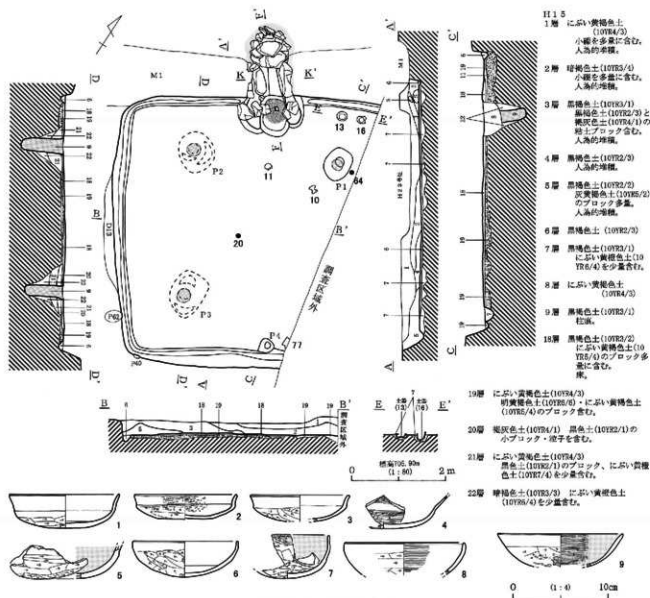
第38图 H14号住居址(3)

痕が確認されたP1~P4の支柱穴等5個検出された。P5は入り口施設と見られる。床は堅く平坦。カマドからP5にかけてと西壁中央に壁溝が巡る。遺物は、土師器・須恵器・土製品、石器、本址に伴わない縄文時代中期・後期土器、弥生時代後期土器が出土した。土師器には畿内系暗紋杯1・半球状の杯2、くの字の口縁部に最大径がある武蔵甕20・22・23・25・26・27、高杯5・6がある。須恵器には底部ヘラケズリ調整の杯8~10、有台杯11~15、皿16、擬宝珠つまみの杯蓋17・18、長頸壺28・30、甕29・30がある。32は底部ヘラケズリ内面黒色処理される土師器杯を転用した円板。3の土師器杯、19の須恵器杯、25・26の器厚厚く口辺部に最大径のある土師器甕は、本址北西壁あたりで重複する古墳時代後期住居H18との関連が考えられる。多量にある石器で磨石・敲石・軽石製品は本址に帰属する可能性があるが、他は伴わない。

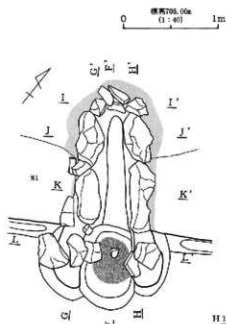
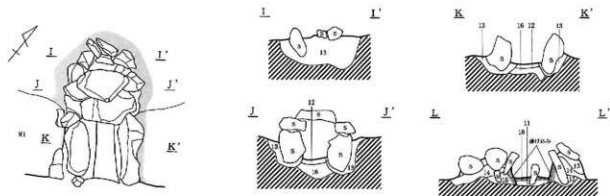
本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅱ期・8世紀前半(第1四半期)に位置づけられる。

(15)H15号住居址

Ⅱ区けこ-10~12Grにあり、H23・D13・M1・P52・P53・P55・P62に切られ、H25・D29・P40



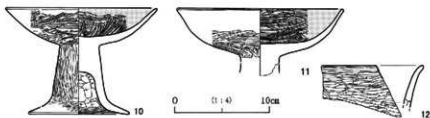
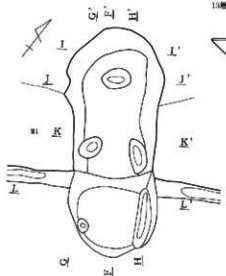
第39図 H15号住居址 (1)



H15

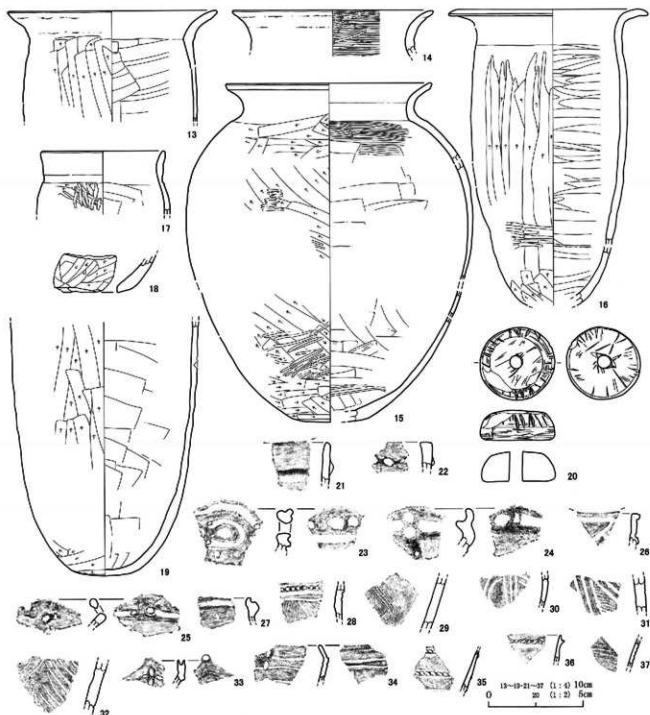
- 10層 明赤褐色土(5YR5/8) 焼け込み。
 11層 黒褐色土(10YR2/3) 炭化雑色土、粘土粒子・
 にぶい腐植土(5YR2/2)の粘土ブロックを含む。
 12層 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物・粘土ブロック多
 量含む。
 13層 黒褐色土(10YR2/2) 灰黄褐色土(10YR2/2)の粘
 土ブロック多量、鉄土少量。

- 14層 灰褐色土(7.5YR5/1) 粘土。
 15層 灰褐色土(7.5YR3/2) 焼灰色(7.5YR5/1)の粘土
 ブロック少量含む。
 16層 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい腐植土(10YR7/4)
 ブロック・黒褐色土(10YR2/2)を含む。
 17層 黒褐色土(10YR2/2)



第40図 H15号住居址(2)

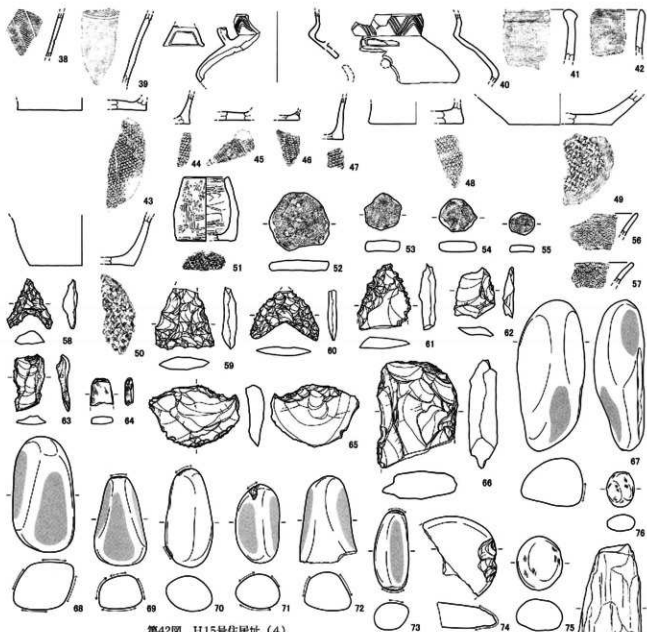
を切る。東壁が調査区域外にある。カマドは北壁中央に、粘土と鉄平石・熔結凝灰岩・安山岩等で構築されている。火床端から長い煙道部が壁外に伸びる。火床に支脚石が残る。ピットは柱痕が確認されたP1～P3の支柱穴等4個検出された。P4は入り口施設と見られる。床は堅く平坦。壁下に壁溝が巡る。覆土1～5層は人為的埋土。13と16の裏がカマド東脇床面に正位に埋め込まれていた。



第41図 II15号住居址(3)

遺物は、土師器・石製品、本址に伴わない縄文時代中期後葉・後期土器、弥生時代後期土器、他に多量の石器があるが磨石・蔽石は本址に帰属すると思われるが、石鏃・打製石斧等は伴わない。土師器には須恵器坏蓋模倣の稜を持つ坏1～5、半球状の坏6～9、坏部内面黒色処理の高坏10・11、鉢12・17、口縁部に最大径があり胴が長い甕13・16、胴部丸みを持つ甕23、単孔の甌18がある。20は滑石製の紡錘車である。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀に位置づけられる。



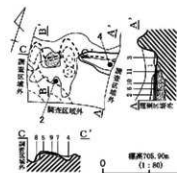
第42図 H15号住居址(4)

(16)H16号住居址

I区け-8 Grで検出、大半が未調査区にある。攪乱が深く、北壁と袖部地山を掘り残して構築されたカマドが僅かに残る。

覆土1層は人為的埋め土、検出された範囲の床

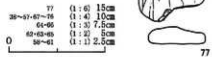
面は平坦で堅い。遺物は内面黒色処理される土師器杯1~3、須恵器杯4、土師器甕、縄文時代後期堀之内式鉢転用の土製円板



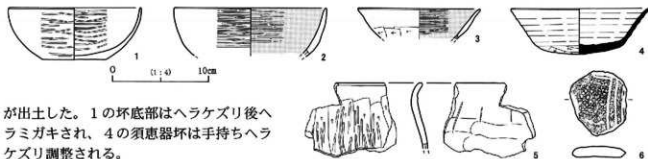
H16

- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR5/6)のブロック多量。人為的埋め。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3)
- 3層 褐色土(10YR4/4) 黄褐色土(10YR5/6)のブロック多量。
- 4層 黒褐色土(10YR2/3) 灰・粘土少量。
- 5層 黒褐色土(10YR2/2) 粘土。

- 6層 黒褐色土(10YR2/3) 粘質土。
- 7層 暗褐色土(10YR3/4)
- 8層 暗褐色土(7.5YR3/3) 暗褐色土(7.5YR3/4)のブロック多量。
- 9層 暗褐色土(8YR2/4) 粘土。
- 10層 暗褐色土(10YR3/4) 灰。
- 11層 褐色土(10YR4/6) 黄褐色土(10YR2/3)のブロック少量。床下の埋土。



第43図 H16号住居址(1)



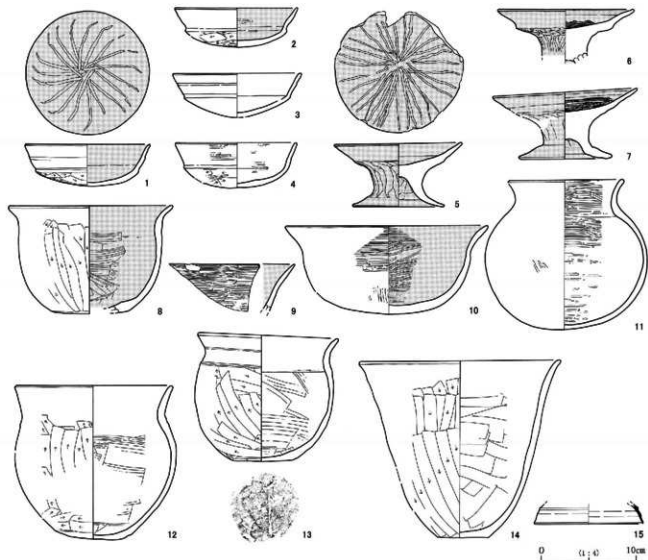
が出土した。1の坏底部はヘラケズリ後ヘラミガキされ、4の須恵器坏は手持ちヘラケズリ調整される。

これらの出土遺物から本址は、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代1期-8世紀前半(第I四半期)に位置づけられる。

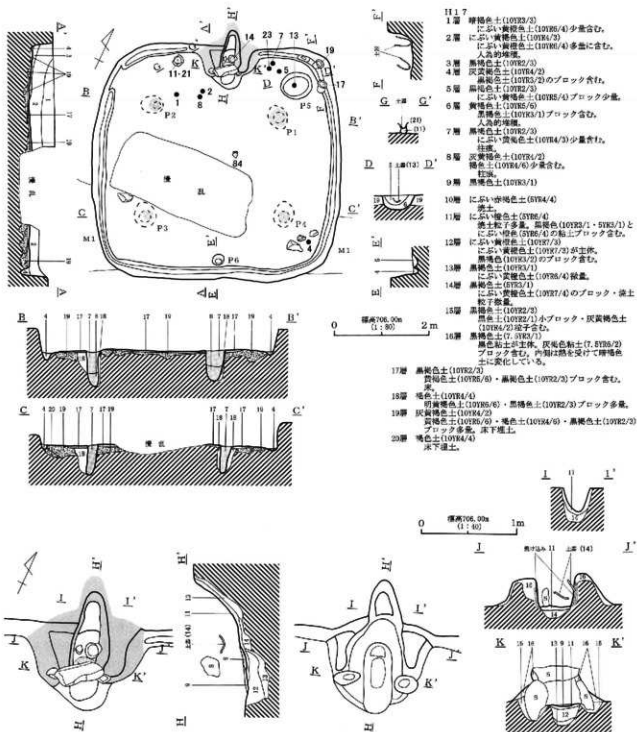
第44図 H16号住居址(2)

(17)H17号住居址

Ⅱ区け・こ-10~12Grにある。M1に切られ、OT1・P106・P126を切る。Ⅲ区に床面に達する攪乱がある。カマドは北壁中央に、地山を掘り残し黒色の粘土で構築されている。袖部先端と焚き口天井部には芯材に安山岩を用いている。火床中央には支脚石が残る。ピットは柱痕が確認されたP1~P4の主柱穴等5個検出された。P5は入り口施設、P6は深く貯蔵穴であろう。床は堅く平坦で、北西角



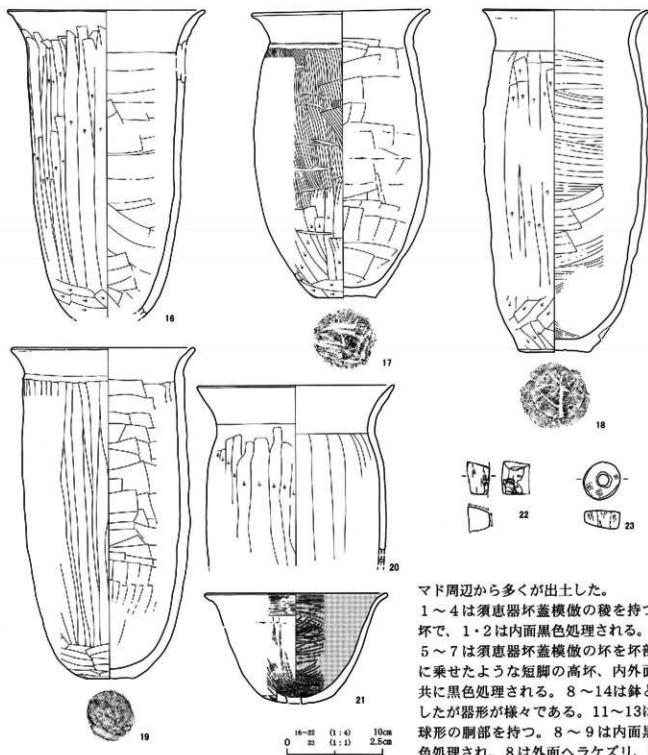
第45図 H17号住居址(1)



第46図 H17号住居址(2)

を除き壁溝が巡る。覆土は2層は人為的埋土であった。

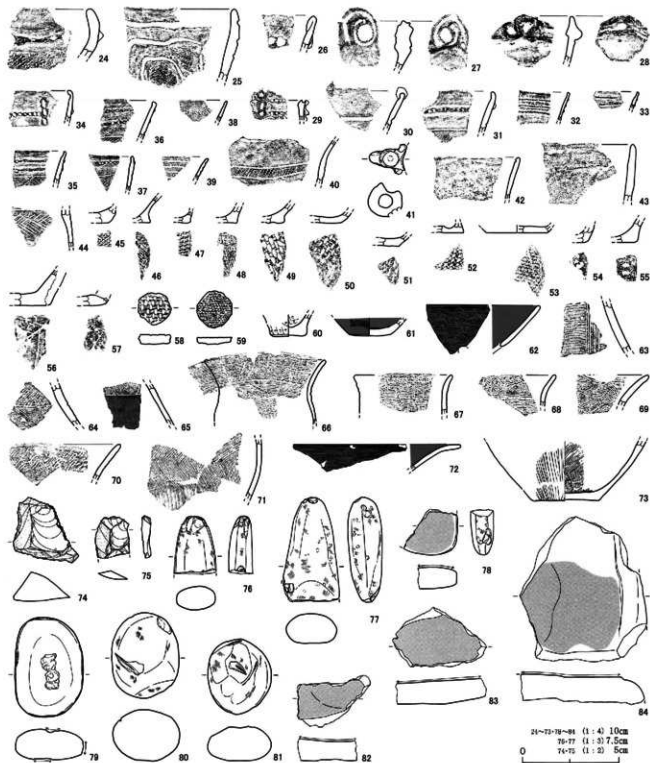
遺物は、土師器杯・高杯・鉢・甕・甗、須恵器坏蓋、白玉、石器、本址に伴わない縄文時代中期・後期土器、弥生時代後期土器が出土した。6・12・14がカマド内、16・18がカマド内と周辺出土片接合、9・13がP5内、17・19が北東壁下に寄りかかって正位で、カマド西床面から11に21が乗る状態で、1・2・5・7・8がカマド周辺床面直上ないしは5cmほど浮いて、4が南東角床面5cm上、などカマド内やカ



第47図 H17号住居址(3)

マド周辺から多くが出土した。1～4は須恵器坏蓋模倣の碇を持つ坏で、1・2は内面黒色処理される。5～7は須恵器坏蓋模倣の坏を坏部に乘せたような短脚の高坏、内外面に共に黒色処理される。8～14は鉢としたが器形が様々である。11～13は球形の胴部を持つ。8～9は内面黒色処理され、8は外面ヘラケズリ、9・10は内外面よくミガかれる。14は瓶の形態によく似る。16は口縁部最大径が等しい甕で、いづれも長胴である。17はハケメ調整、他は縦長のヘラケズリ調整である。21は1穴の甕で内面黒色処理される。23は滑石製の白玉。22の砥石以外の石器は、本址に帰属するか不明である。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀に位置づけられる。

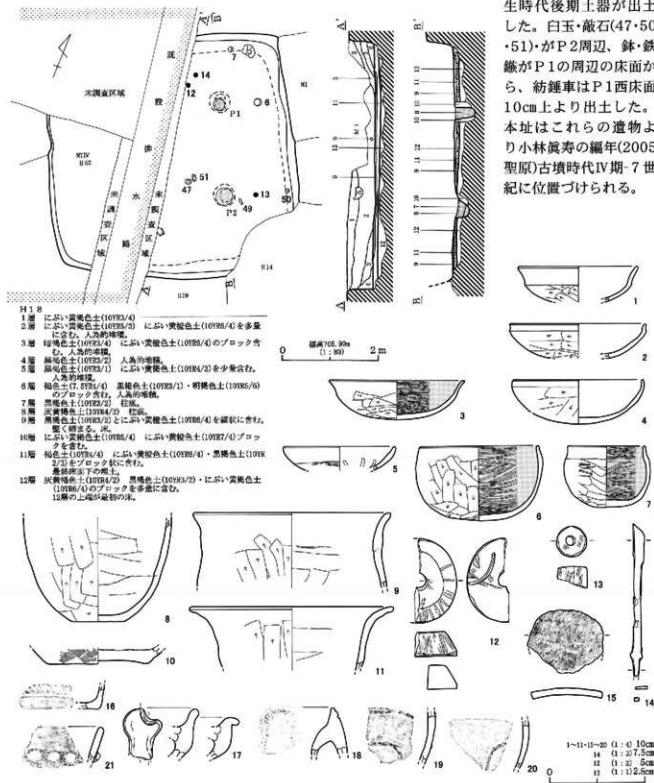


第48図 H17号住居址(4)

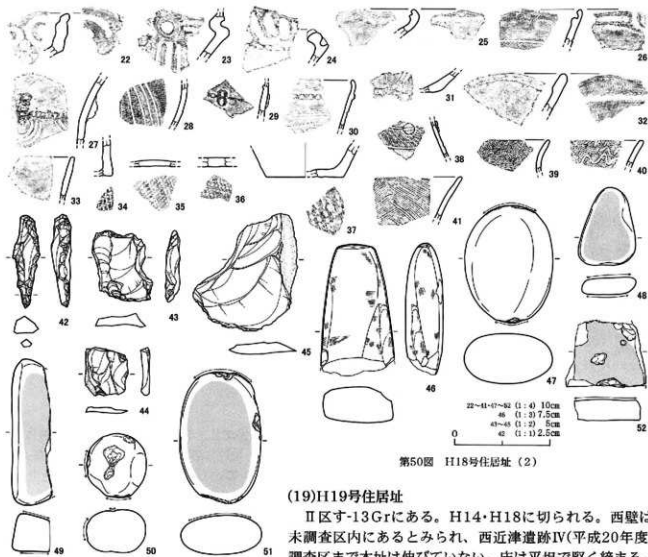
(18)H18号住居址

Ⅱ区す-12・13Grにある。H14・M1・P91に切られ、H19・P85・P97・P107を切る。西側半分は、西近津遺跡Ⅳ(平成20年度)H52号住居址として調査されている。ピットは柱痕が確認されたP1・P2の支柱穴が2個検出された。堅く平坦な床が2面検出された。各壁が15~25cm程度拡張されている。

カマドは、未調査区の排水溝下であろうか。覆土2～6層は人為的埋土。遺物は、須恵器坏蓋模倣の坏(1)・須恵器坏身模倣の坏(2)・半球状で口縁部短く外反する坏(3)・半球状の坏(4・5)・内面黒色処理される鉢(6・7)・胴部に最大径を持つ厚い甕(9)・甕? (11)等の土師器、土師器甕胴部片を加工した円板(13)、長頭棒状闊平片刃状式の鉄鎌(15)、紡錘車(12)、白玉(14)、石器、本址に伴わない縄文時代中期・後期土器、弥生時代後期土器が出土した。白玉・箴石(47・50・51)がP2周辺、鉢・鉄鎌がP1の周辺の床面から、紡錘車はP1西床面10cmより出土した。本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005 聖原)古墳時代IV期・7世紀に位置づけられる。



第49図 H18号住居址(1)

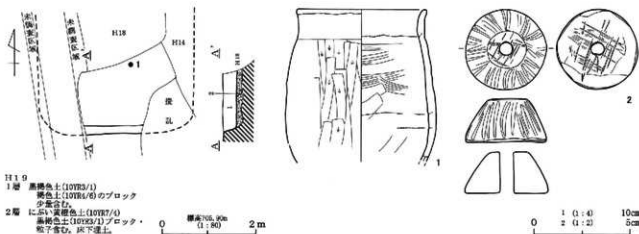


第50図 H18号住居址(2)

(19)H19号住居址

Ⅱ区す-13Grにある。H14・H18に切られる。西壁は未調査区内にあるとみられ、西近津遺跡IV(平成20年度)調査区まで本址は伸びていない。床は平坦で堅く締まる。

遺物は、1の胴部に最大径を持ち縦長にヘラケズリされる分厚い甕、3の須恵器甕2の滑石製の紡錘車、本址に伴わない縄文時代中期・後期、石器が出土した。本址はこれらの遺物と7世紀のH18号住居址に切られることから、7世紀代としたい。

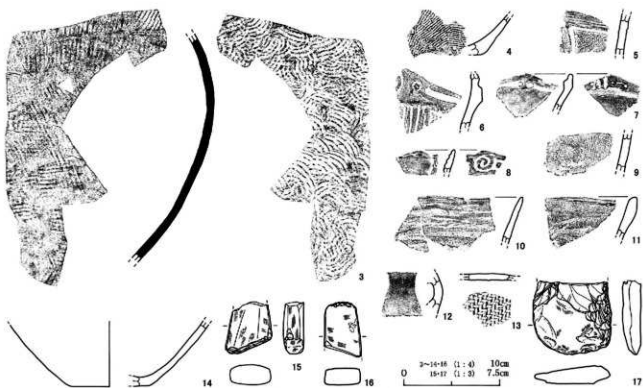


H19
1層 黒褐色土(10YR3/1)
赤色土(10R1/6)のブロック
少量含む。
2層 黒い黄褐色土(10YR7/0)
黒褐色土(10YR3/1)ブロック・
粒子含む。灰下遺土。

標準705, 900
(1:80) 2m

1 (1:4) 10cm
2 (1:2) 5cm

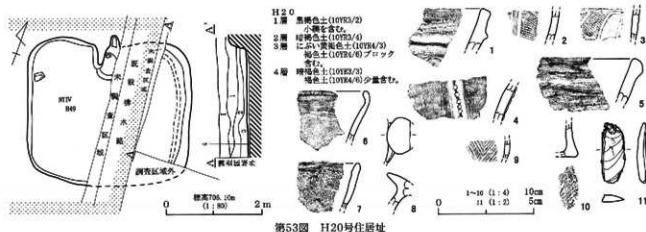
第51図 H19号住居址(1)



第52図 H19号住居址 (2)

(20)H20号住居址

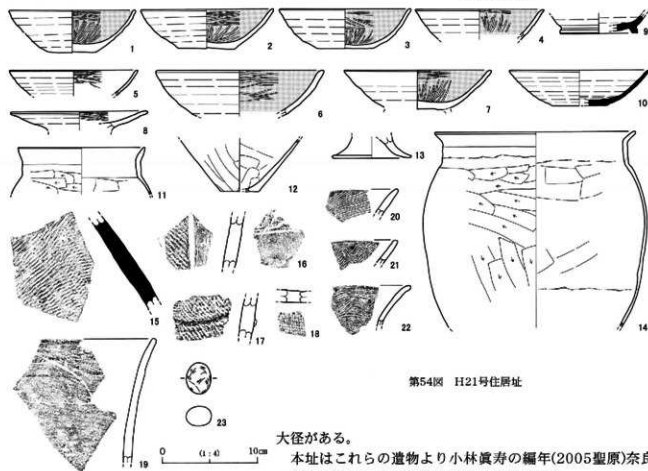
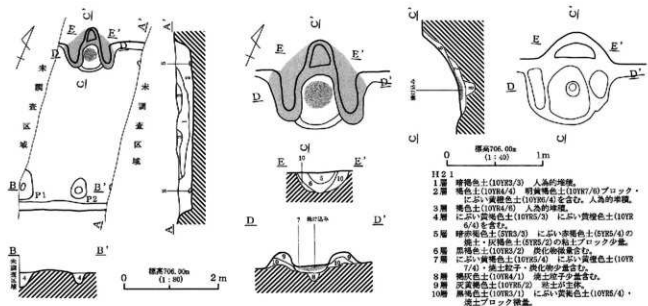
Ⅱ区す・13・14Grにある。H14・M1に切られ、OT3・P138を切る。西側半分は、西近津遺跡Ⅳ(平成20年度)H49号住居址として調査され、北壁にカマドがある。主柱穴等は確認されていない。堅く平坦な床である。遺物は土師器の坏・武蔵甕や須恵器坏・甕小片が少量ある。図示した縄文時代後期土器、石器は本址に伴わない。西近津遺跡Ⅳ(平成20年度)H49号住居址では、底部手持ちヘラケズリされる須恵器坏等が出土し、古墳時代後期のH50号住居址を切っている。このような状況から、本址は8世紀前半に位置づけられよう。



第53図 H20号住居址

(21)H21号住居址

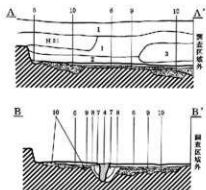
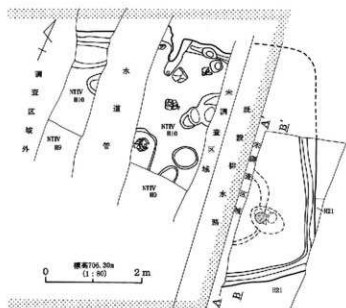
Ⅱ区す・せ・9・10Grにある。H22を切る。西側と東側一部分が未調査区と調査区域外にある。カマドが北壁中央にある。ピットは南壁下から2個検出された。床は堅く平坦で、床下の掘方は認められなかった。覆土1～3層は人為的埋土。遺物は、土師器の坏1～3、4・5坏?、碗7、碗?6、皿8、甕11～14、須恵器の有台坏9、坏10、甕15、本址に伴わない縄文時代中期・後期出土した。1～3・7・10は回転糸切り、1～4・6・7は内面黒色処理される。「コ」字口縁の武蔵甕11・14は、胴部に最



(22)H22号住居址

II区す・せ・9・10Grにある。H21に切られる。西側大部分は、西近津遺跡IV(平成20年度)H10号住居址として調査され、北壁にカマドがある。本調査では柱痕が確認された主柱穴と見られるP1から柱痕が確認された。堅く平坦な床である。覆土1~3層は人為的埋土。遺物は土師器の須恵器坏蓋模倣

の坏や分厚い甕小片が少量ある。西近津遺跡IV(平成20年度)H10号住居址では、口縁部に最大径がある長胴の甕等、古墳時代後期の遺物が出土している。このような状況から、本址は小林眞寿の編年(2005型原)古墳時代Ⅳ期-7世紀に位置づけられる。



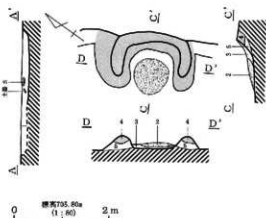
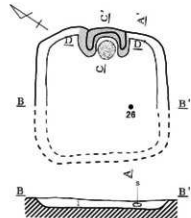
- H22
- 1層 灰黄褐色土(10YR4/3) 砂質土、小礫を含む、人形的埴埴。
 - 2層 褐色土(10YR3/1) 褐色土(10YR2/1)を含む、人形的埴埴。
 - 3層 輝褐色土(10YR3/4) におい黄褐色土(10YR7/4)ブロック含む、人形的埴埴。
 - 4層 黒褐色土(10YR2/1)
 - 5層 黒褐色土(10YR2/2)
 - 6層 黒褐色土(10YR2/2) におい黄褐色土(10YR7/4)少量含む、床。
 - 7層 褐色土(10YR4/4) 黒褐色土(10YR2/2)敷。
 - 8層 におい黄褐色土(10YR5/3)
 - 9層 におい黄褐色土(10YR6/4) 黒褐色土(10YR3/1)少量含む、床下盛土。
 - 10層 におい黄褐色土(10YR7/4) 床下盛土。

第55図 H22号住居址

(23)H23号住居址

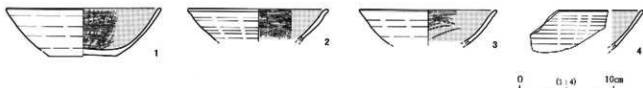
Ⅱ区けこ-10・11Grにある。D13に切れ、H25を切る重複関係のため確認は困難を極めた。西壁および床下掘方は、不明瞭であった。北壁中央のカマドは、粘土と灰黄褐色土で構築された一部の袖部と火床が残る。床面は明確でない。物は、土師器の坏1、2〜4坏・碗?、碗5、甕6・7、須恵器壺8、布目瓦、本址に伴わない縄文時代の石器、伴うか不明確な石器が多く出土した。1は回転糸切り、1・2・4・5は内面黒色処理される。6は「コ」字口縁の武蔵甕、7はロクロ甕である。

本址はこれらの遺物より、小林眞寿の編年(2005型原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

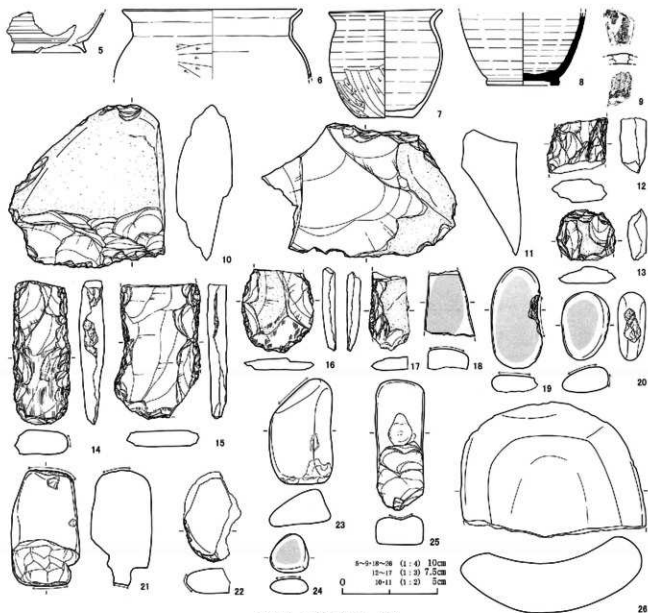


- H23
- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 小礫少量、砂質土。
 - 2層 褐色土(10YR3/2) 粘土。
 - 3層 黒褐色土(10YR3/2) 粘土ブロック・灰・緑褐色(10YR4/1)の粘土ブロック少量含む。
 - 4層 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐色土(10YR3/1)の粘土ブロック。
 - 5層 灰黄褐色土(10YR4/2) 褐色土(10YR3/1)の粘土ブロック。

標準706.80m
(1:80) 2m



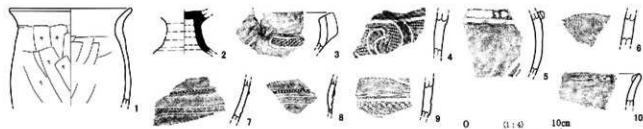
第56図 H23号住居址(1)



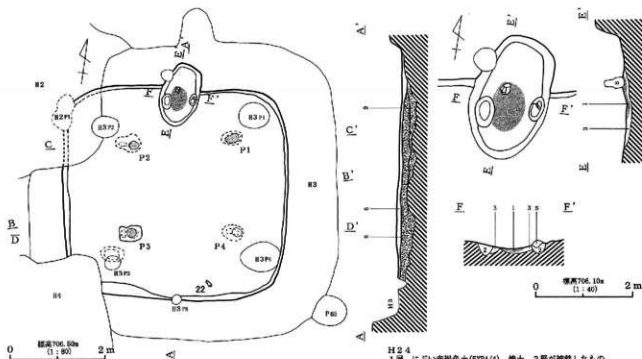
第57図 H23号住居址(2)

(24)H24号住居址

I区え・お・3・4Grにある。H2～H4に切られる。H3のカマド・主柱穴と本址のそれらと相似形にあり、本址がH3の規模に拡張されたとみられる。カマドは北壁中央で火床の支脚石、袖部芯材を埋め込んだピットがみられる。ピットは柱痕が確認されたP1～P4の主柱穴が検出された。堅く平坦な床である。遺物は1の土師器甕、2の須恵器高坏か高盤、本址に伴わない縄文時代後期土器・土製品・石器が出土した。本址は、H3の遺物より8世紀前半(第1四半期)以前に位置づけられる。

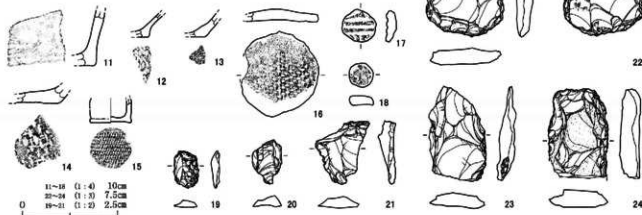
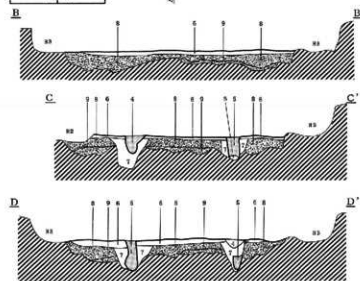


第58図 H24号住居址(1)



H 24

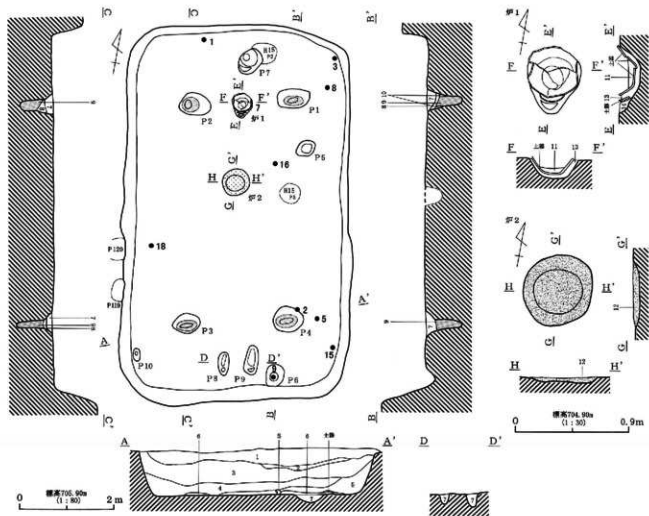
- 1層 土に赤褐色土(5YR4/4) 混入。3層が被覆したもの。
- 2層 暗赤褐色土(5YR2/3) 粘土・瓦土ブロック多量。
- 3層 黒褐色土(7.5YR2/2) 明黄褐色土(10YR7/6)の小ブロック多量。
- 4層 暗褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR2/2)・褐色土(10YR4/6)の小ブロック多量。
注記。
- 5層 暗褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR2/2)・褐色土(10YR4/6)の小ブロック多量。
注記。
- 6層 黒褐色土(10YR4/4) 黒褐色土(10YR2/2)に黄褐色土(7.5YR5/4)の形状ブロック含む。堅く締まる。灰。
- 7層 土に黄褐色土(10YR4/3) 暗褐色土(10YR2/2)・褐色土(10YR4/6)・黒褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。
- 8層 暗褐色土(10YR2/2) 明褐色土(7.5YR5/6)・黒褐色土(10YR2/2)の大ブロック多量。
- 9層 土に黄褐色土(7.5YR5/4) 黒褐色土(10YR2/2)・黒褐色土(10YR2/2)の小ブロック少量。



第59図 H24号住居址(2)

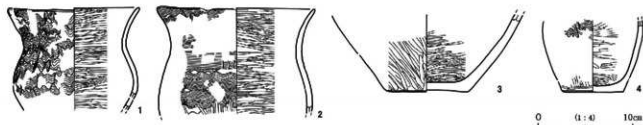
(25)H25号住居址

Ⅱ区けこ-11~13Grにある。H15・H23・M1・D13・P40~P45・P51~56・P62・P119~123・P125に切れ、D29を切る。炉は主柱穴P1・P2間と住居中央に、2基ある。炉1は7の壺底部を用いた土器埋設で、10cm程度掘りこまれている。壺底部内部に灰の堆積が認められた。炉2は地床炉で、3cmほどの焼土の堆積がある。ピットは9個検出され、P1~P4の主柱穴から五平状柱痕が確認された。P7は棟持柱、P8・P9は出入口施設、P6は貯蔵穴と考えられる。敷き床の床面は堅く平坦で、覆土1~5層は人為的埋土である。遺物は赤彩の壺・甕・赤彩の高坏・無彩の蓋等の弥生土器、柄



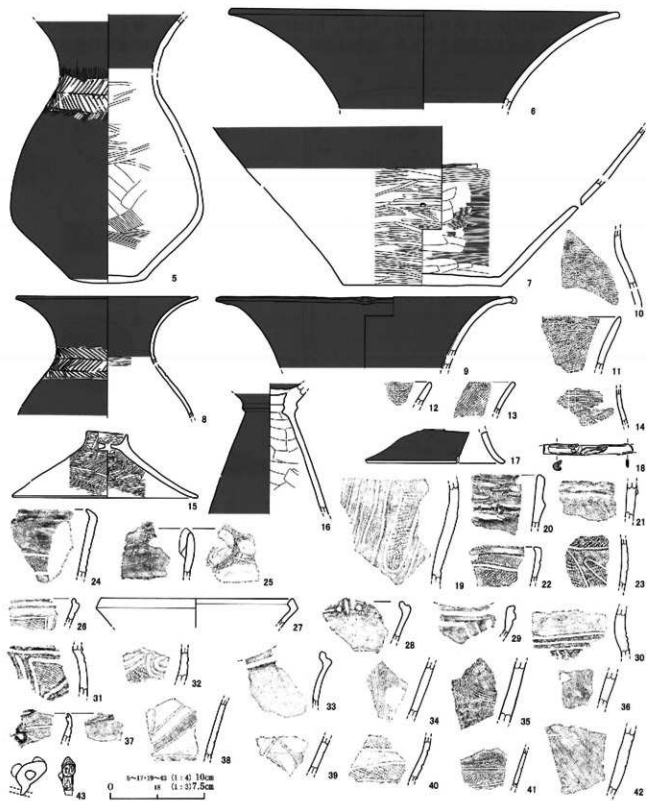
- 1層 黒紫色土(10YR3/7) にぶい黄褐色土(10YR5/4)を含む。人為的埋土。
- 2層 黒色土(10YR2/1)
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR7/4) 黒褐色土(10YR3/1)ブロックを含む。人為的埋土。
- 4層 褐色土(10YR4/1) にぶい黄褐色土(10YR7/4)ブロック・にぶい黄褐色土(10YR5/4)を多量に含む。人為的埋土。
- 5層 にぶい黄褐色土(10YR5/2) 人為的埋土。
- 6層 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒子・炭化粒子を含む。
- 7層 黒褐色土(10YR2/2)

- 8層 母岩褐色土(2YR3/2) 焼土粒子・焼土ブロック少量含む。
- 9層 にぶい黄褐色土(10YR6/4) 灰土。灰らから。
- 10層 黄褐色土(10YR7/4) 母褐色土(10YR3/2)を少量含む。
- 11層 にぶい黄褐色土(10YR7/2) 灰が主。炭化物微量。
- 12層 母岩褐色土(2YR5/2) 焼土。
- 13層 黄褐色土(7.5YR7/2) 黄褐色土(7.5YR7/2)を多量に含み、少量の焼土を含む。
- 14層 にぶい褐色土(7.5YR6/4) 焼土微量含む。

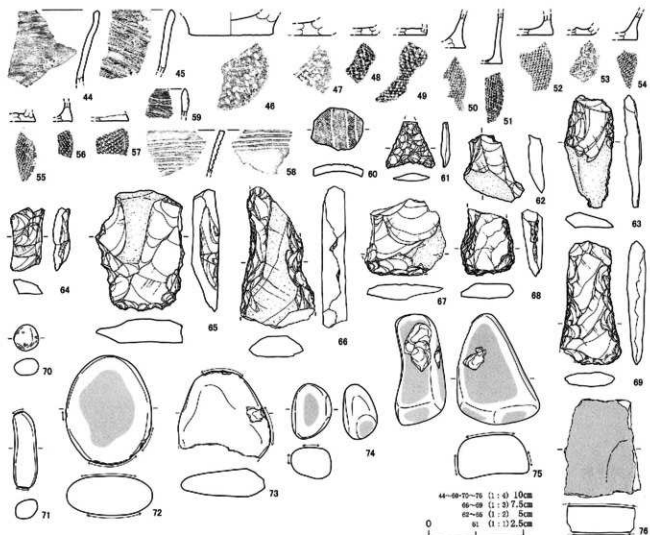


第60図 H25号住居址 (1)

部に木質残の刀子？、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・土製円板(深鉢等の転用)がある。P1・炉周辺の床から1・3・8・16が、P4周辺の床から2・5・7・15が多数出土した。石器の時期は明確でない。本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



第61図 H25号住居址(2)



第62図 H25号住居址実測図(3)

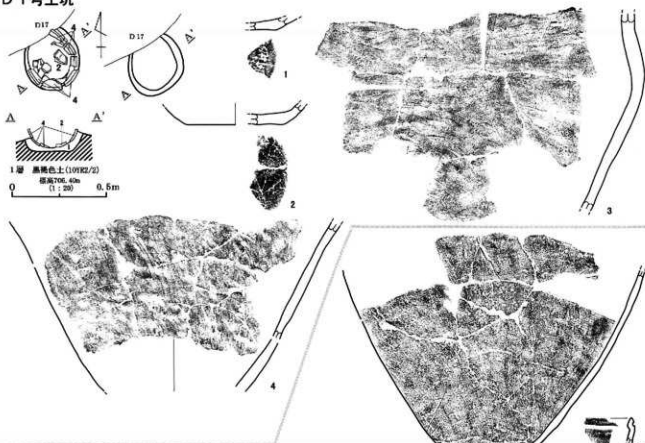
6. 土坑

合計で37基の土坑が検出された。遺構掘り下げ時にピットの名称を付した中に土坑として扱うべき遺構もある(P97・P98)。D4・D5をのぞき35基から縄文・弥生・古墳時代の遺物が出土した。ほとんど縄文時代後期初頭から前葉の土器である。縄文時代後期前葉H12号住居址周辺に濃く分布している。土坑底面にピット2個があり落としかとみられるD32号土坑。

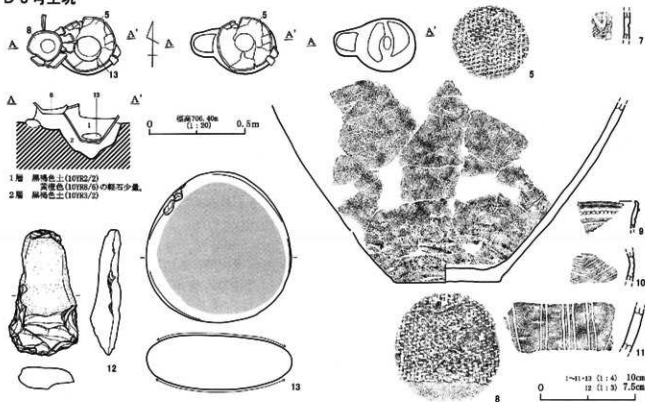
袋状の貯蔵穴とみられるD6・D21・D22・D29土坑。D22号土坑からは、堀之内1式の注口土器(第68図-138)・深鉢・石皿(第95図-164)・打製石斧・石錐・台石などが出土した。

土壌リソ分析を実施していないため断定できないが、D1～D3号土坑・P97・P98は墓址とみられる。<4グリッドのD1号土坑は、後期前葉の粗製深鉢胴部(第63図-4)が正位に埋設されていた。胴部内面は黒色に変化し、薄い黒色の付着物が見える。他に深鉢の木葉痕を持つ底部と網代底の深鉢・粗製深鉢胴部が出土している。き-4グリッドのD2号土坑は、径35cm深さ25cmの掘り込み後に後期前葉堀之内1式の深鉢(第64図-18)を正位に埋設し、底部から8cm上に熔結凝灰岩の丸み帯びた礫と鉄平石、その上部に有頭大型石棒を納めている。石棒は残存長29.5cm最大径11.2cmで、頭部一部と基部を欠く。基部は欠損か分割かは不明。いずれにしても深鉢にほどよく収まる長さである。深鉢から20cm離れて16の陽形土製品が出土した。周辺の深鉢小片が18と接合しており、本遺構との関連性をあながち否定はできない。き-4グリッドのD3号土坑は、後期前葉の粗製深鉢胴部から底部が正位に併置埋設されていた(第63図-5・8)。さらに、8の底部に接して13の円形の磨石が納められていた。

D 1号土坑

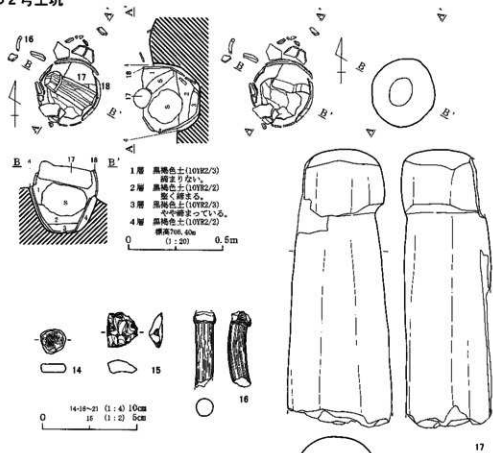


D 3号土坑

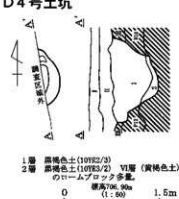


第63图 D 1・D 3号土坑

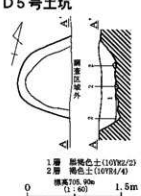
D2号土坑



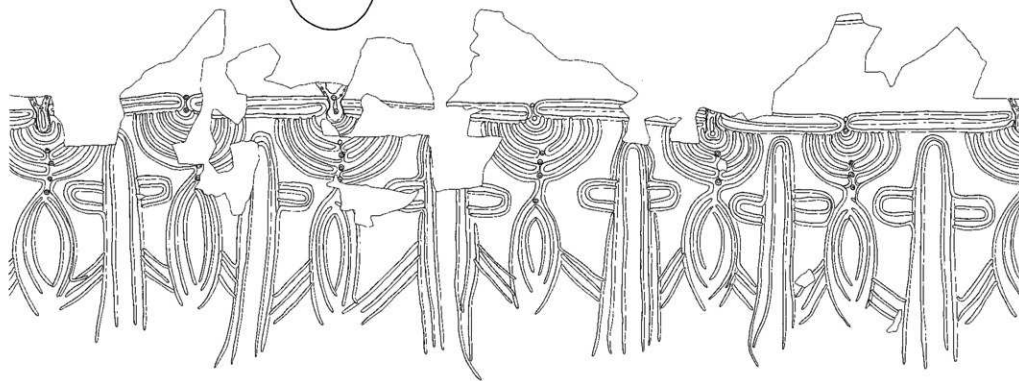
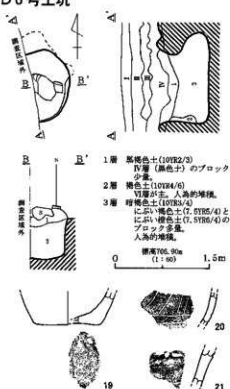
D4号土坑



D5号土坑

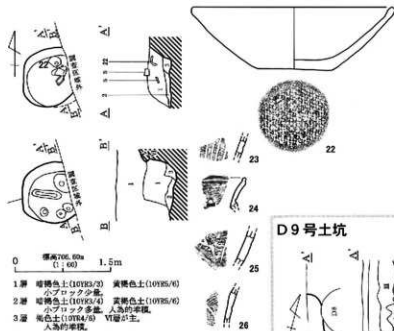


D6号土坑



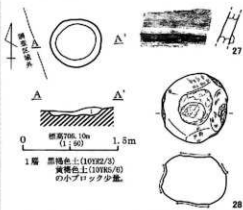
第64図 D2号・D4号・D5号・D6号土坑

D7号土坑



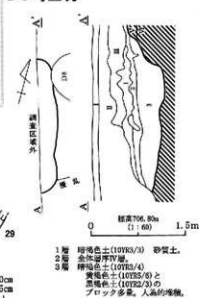
- 1層 暗褐色土(10YR5/2) 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック少量。
 2層 暗褐色土(10YR5/4) 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック多量。人為的半環。
 3層 褐色土(10YR4/3) VI層が主。人為的半環。

D8号土坑



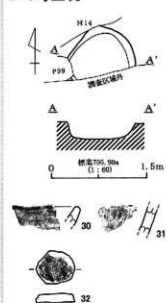
- 1層 暗褐色土(10YR5/3) 黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック少量。

D9号土坑

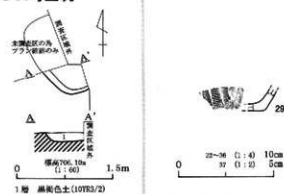


- 1層 暗褐色土(10YR5/3) 砂質土。
 2層 全体厚IV層。
 3層 暗褐色土(10YR5/4) 黄褐色土(10YR5/6)と黄褐色土(10YR2/3)のブロック多量。人為的半環。

D10号土坑

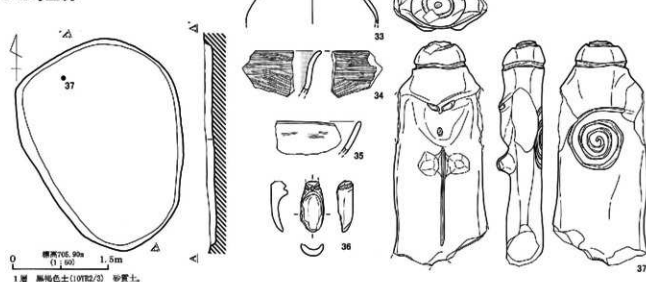


D11号土坑



- 1層 黄褐色土(10YR5/2)

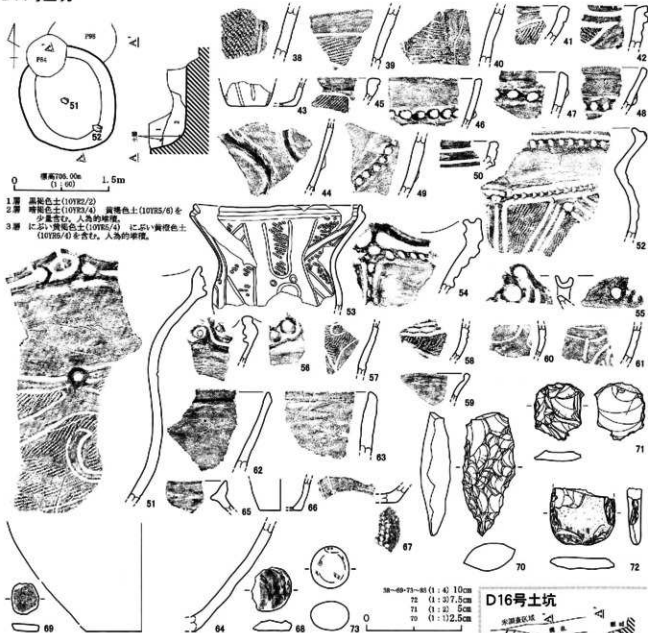
D13号土坑



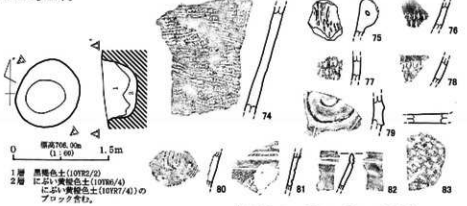
- 1層 黄褐色土(10YR5/2) 砂質土。

第65図 D7号・D8号・D9号・D10号・D11号・D13号土坑

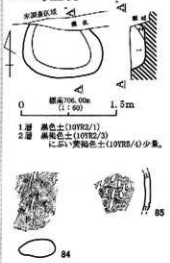
D14号土坑



D15号土坑

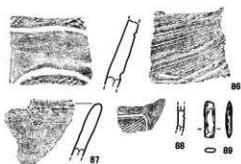


D16号土坑

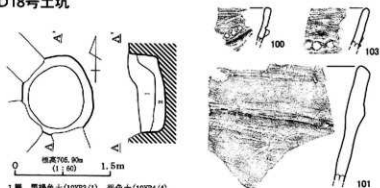


第66図 D14号・D15号・D16号土坑

D16号土坑



D18号土坑

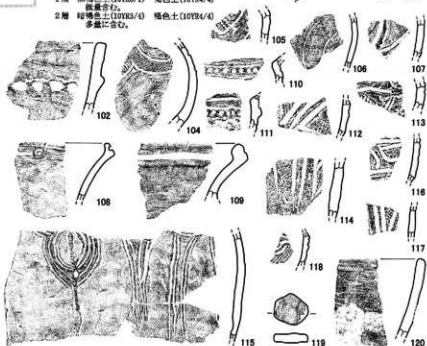
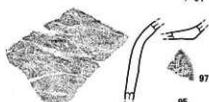
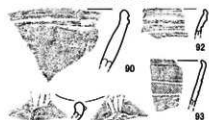


- 0 標高706.90m (1:60) 1.5m
- 1層 黒褐色土(10YR3/1) 褐色土(10YR4/4) 少量含む。
- 2層 暗褐色土(10YR3/4) 褐色土(10YR4/4) 多量に含む。

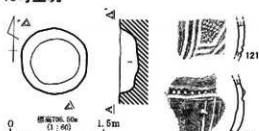
D17号土坑



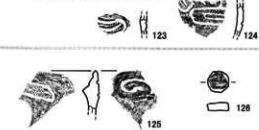
- 0 標高708.50m (1:60) 1.5m
- 1層 黒色土(10YR2/1) 黒褐色土(10YR2/3) ブロック含む。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) 堅く締まる。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR5/6)・黒褐色土(10YR2/2) のブロック多量。人馬の堆積。



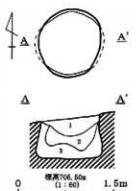
D19号土坑



- 0 標高706.50m (1:60) 1.5m
- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色土(10YR5/6)小ブロック少量。



D21号土坑

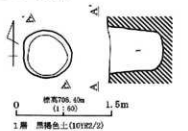


- 0 標高708.50m (1:60) 1.5m
- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 人馬の堆積。
- 2層 褐色土(10YR4/6) 黄褐色ロームが主。人馬の堆積。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土(10YR4/6)の小ブロック多量。人馬の堆積。

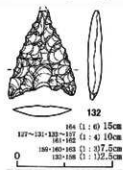
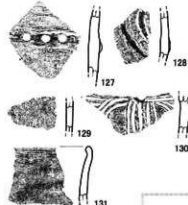
88-89-90-126 (1:4) 10cm
89 (1:2) 27.5cm

第67図 D16号・D17号・D18号・D19号・D21号土坑

D20号土坑

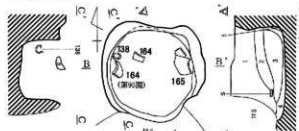


1 层 黑褐色土 (10YR2/2)

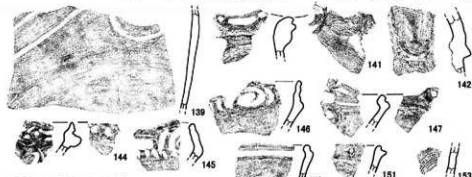
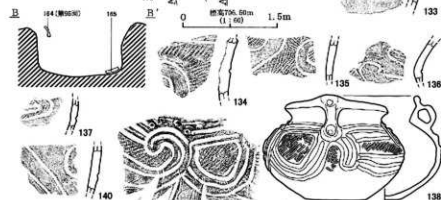


132
133
134 (1:6) 15cm
137-131-132-133 (1:4) 10cm
130-140-143 (1:17.5)cm
130-138 (1:132.5)cm

D22号土坑

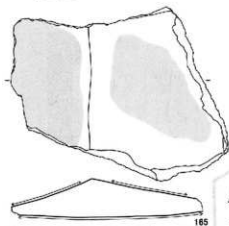


- 1 层 黑褐色土 (10YR2/2) 人为的堆填。
- 2 层 黑褐色土 (10YR2/3) 人为的堆填。
- 3 层 棕色土 (10YR4/4) 人为的堆填。
- 4 层 暗褐色土 (7.5YR3/4) 人为的堆填。
- 5 层 蓝褐色土 (7.5YR5/6) 人为的堆填。

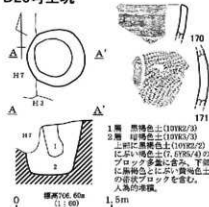


第68图 D20号·D22号土坑

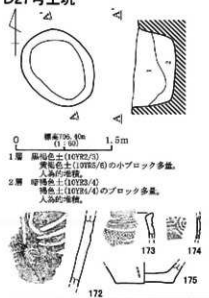
D22号土坑



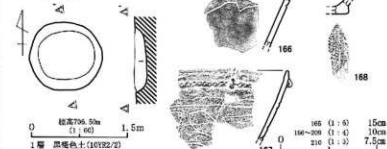
D26号土坑



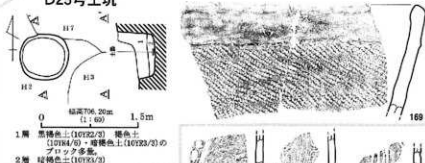
D27号土坑



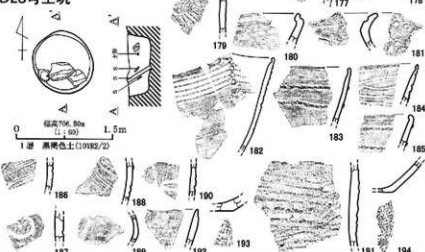
D23号土坑



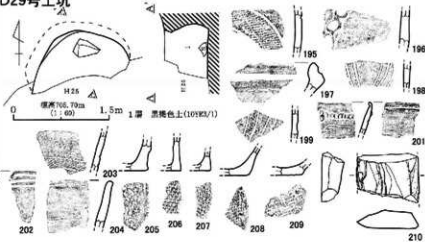
D25号土坑



D28号土坑

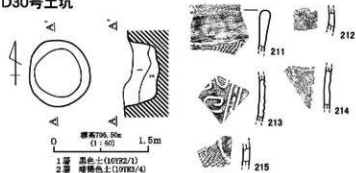


D29号土坑

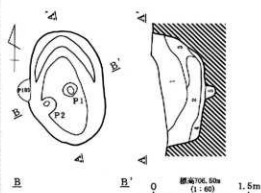


第69図 D22号・D23号・D25号・D26号・D27号・D28・D29号土坑

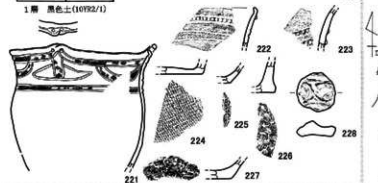
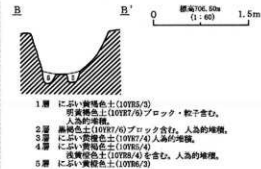
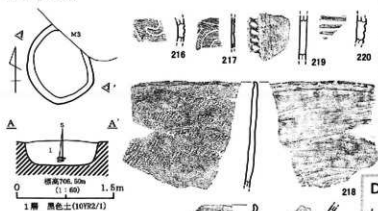
D30号土坑



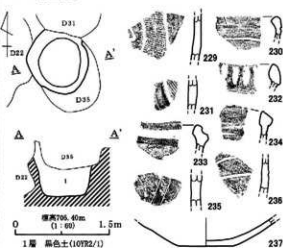
D32号土坑



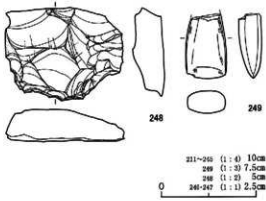
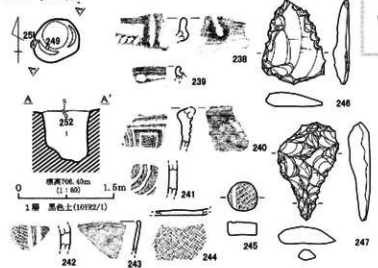
D31号土坑



D33号土坑

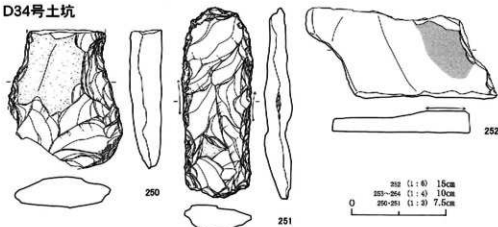


D34号土坑

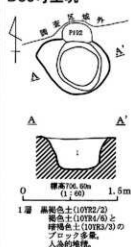


第70圖 D30号・D31号・D32号・D33号・D34号土坑

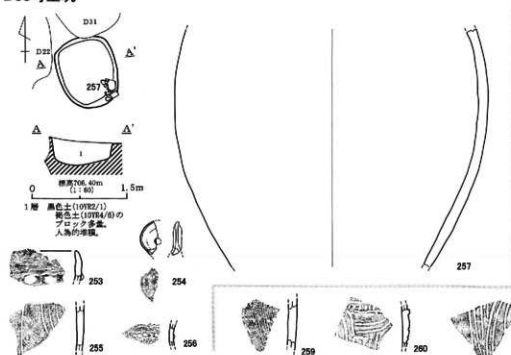
D34号土坑



D36号土坑



D35号土坑



D37号土坑



第71図 D34号・D35号・D36号・D37号土坑

8の胴部内面は黒色に変化し、薄い黒色の付着物が見える。

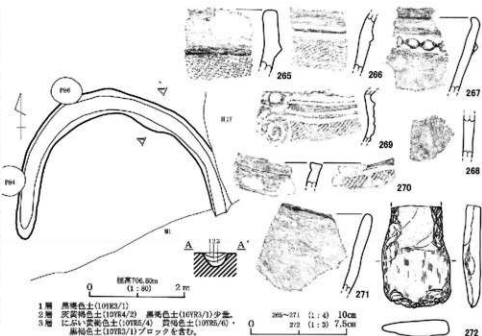
P97はす-11グリッドで縄文時代後期前葉のD14土坑、M1号溝状遺構に切られる。残存高61.5cmの口縁部を欠く大型粗製深鉢がほぼ正位に埋設されていた。

ある程度時期が想定できる土坑は、次のとおりである。

- ・縄文時代中期後半～後期前葉の土器が出土。D14・D30
- ・縄文時代後期初頭～前葉の土器が出土。D15・D18・D21～D23・D27・D33・D37
- ・縄文時代後期前葉の土器が出土。D1～D3・D6～D10・D15～D17・D19・D21・D25・D26・D28・D29・D31・D34・D35・P97
- ・弥生時代中期栗林式が出土。D36
- ・古墳時代後期と縄文時代後期前葉の土偶等が出土している。D13

土坑は、け-こ-11・12グリッドで弥生後期・古墳時代後期・平安

時代のH15・H23・H25を切る。古墳時代後期の土師器と縄文時代後期前葉の土偶と土製鬮が出土した。土偶は両腕と足を欠損する。中期の板状土偶の伝統を残し、体部側面形は扁平で頭部が肩の真上に付かず、体部上端の前面についている。前面には乳房を突起、正中線を沈線で、細長い刺穴でつり上がった目、隆帯で眉と鼻を表現している。頭部の一条の沈線はかぶり物の表現か？背面に渦巻き状沈線、頭頂部に垂直な盲孔と円形沈線を施す。



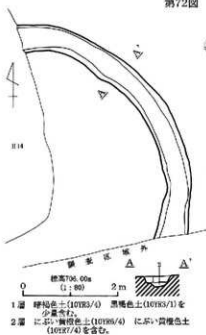
第72図 OT1号円形周溝

7. 円形周溝墓

3基の円形・方形周溝が検出された。主体部が検出されないが、形状・遺構重複関係や80m東方長野県埋蔵文化財センターの西近津遺跡群の調査で弥生時代の周溝墓が17基調査されており周溝墓として大過ないであろう。

(1) OT1号円形周溝

し・す11グリッドで、H17・M1・P84・P86に切られ、P98・P137・P143・P144を切る。径は溝外側で4.6m、幅0.40～0.56m深さ0.27m前後、南西で溝が切れる。



第73図 OT2号円形周溝

遺物は縄文時代中期後・後期初頭・後期前葉の土器、打製石斧が出土した。

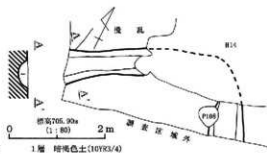
(2) OT2号円形周溝

し13・14グリッドで、H14に切られ、P92・D18を切る。径は溝外側で推定7m、幅0.5～0.6m深さ0.21m前後。

遺物は弥生時代後期箱清水式の甕、縄文時代後期前葉・中葉の土器、敲石が出土した。

(3) OT3号方形周溝墓

し14・す14グリッドで、H14・P108に切られる。1辺推定4m以上、幅0.5～0.7m深さ0.23m前後。出土遺物はない。

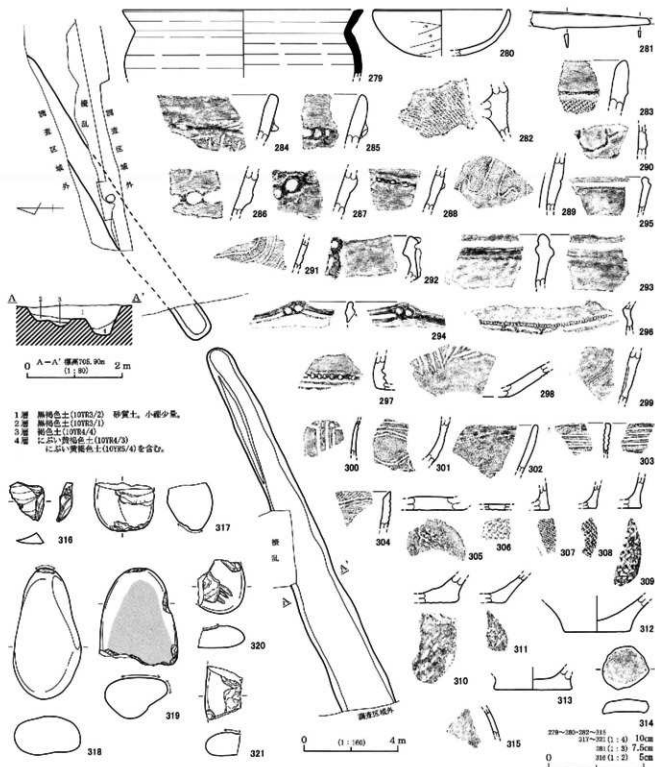


第74図 OT3号方形周溝

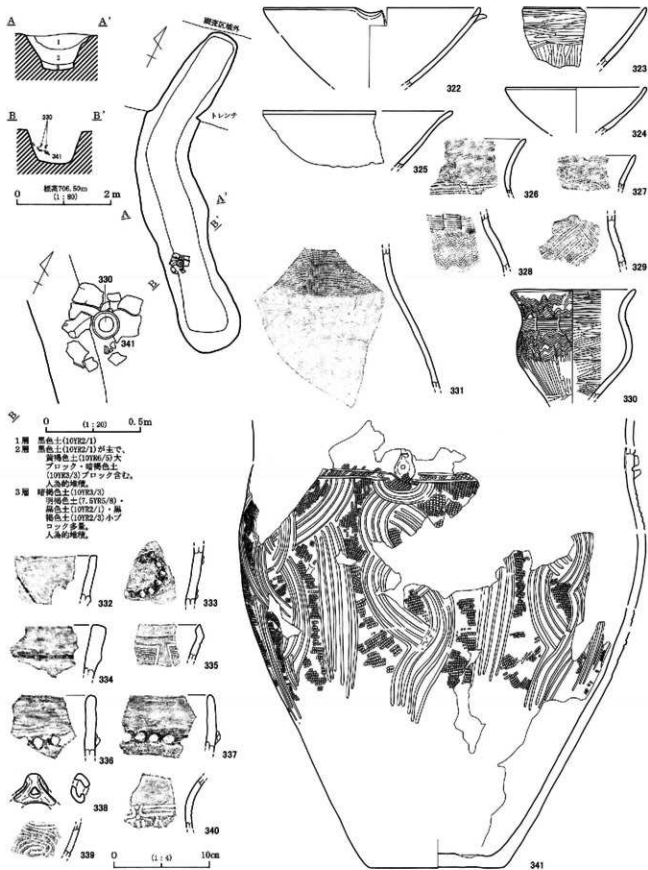
8. 溝状遺構

(1) M1号溝状遺構

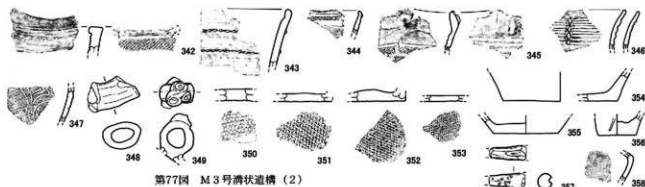
か～す-8～12グリッドで、H15・H17・H18・OT1・D29・P91・P105・P142を切る。H15号住居址カマド煙道部で途切れ、西側は西近津遺跡IVで検出された溝に続きさらに西に延び、東は未調査区域に延びる。H17・H18重複部分で溝底が把握できず、溝西側部分ではテラスを持つ断面形とU字状



第75図 M1号溝状遺構



第76図 M3号溝状遺構(1)



第77図 M3号溝状遺構(2)

の断面形で(掘下げ時のM2で欠番とする。)

東側はテラスを持つ。H15東側は断面U字形であり、同一の溝で新旧関係があったのかもしれない。東端と低い西端で20cmの高低差がある。溝底は堅くない。遺物は須恵器甕・土師器杯・刀子の他縄文時代中期後葉・後期初頭・後期前葉・後期中葉の土器、石器が出土した。

本址は、住居址との重複関係から古墳時代後期以降の所産であろう。

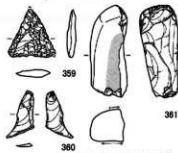
(2)M3号溝状遺構

き・く・3・4グリッドで、D31・P89・P188を切る。くの字形の平面形で南北長7.26m上端最大幅1.34m最深度0.95m。断面は逆梯形。

覆土は2・3層が人為的な埋土、3層上面から341の縄文土器片を敷き

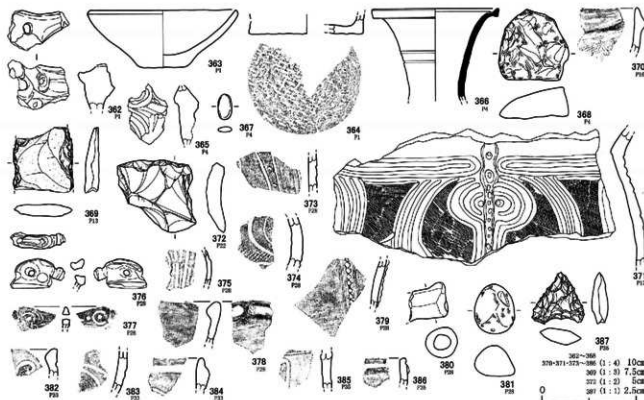
330の弥生後期甕が置かれた状態が確認された。遺物は弥生時代後期箱清水式の壺・甕・台付甕・鉢・片口鉢・高坏、縄文時代後期初頭・後期前葉・後期中葉の土器・不明土製品、石器が出土した。

本址は、弥生時代後期箱清水式の所産である。

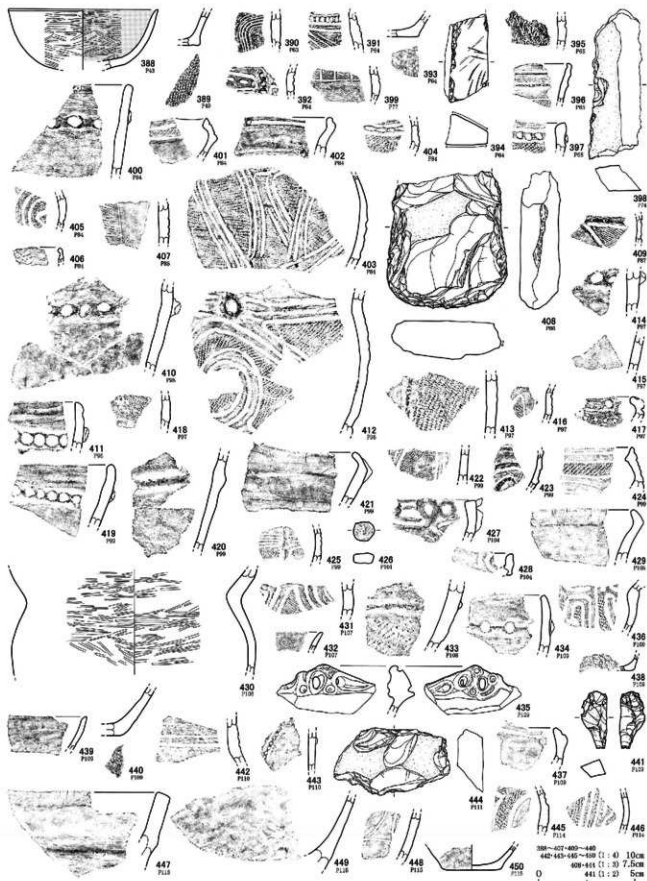


342~368 (1:4) 10cm
360 (1:2) 5cm
369 (1:1) 2.5cm

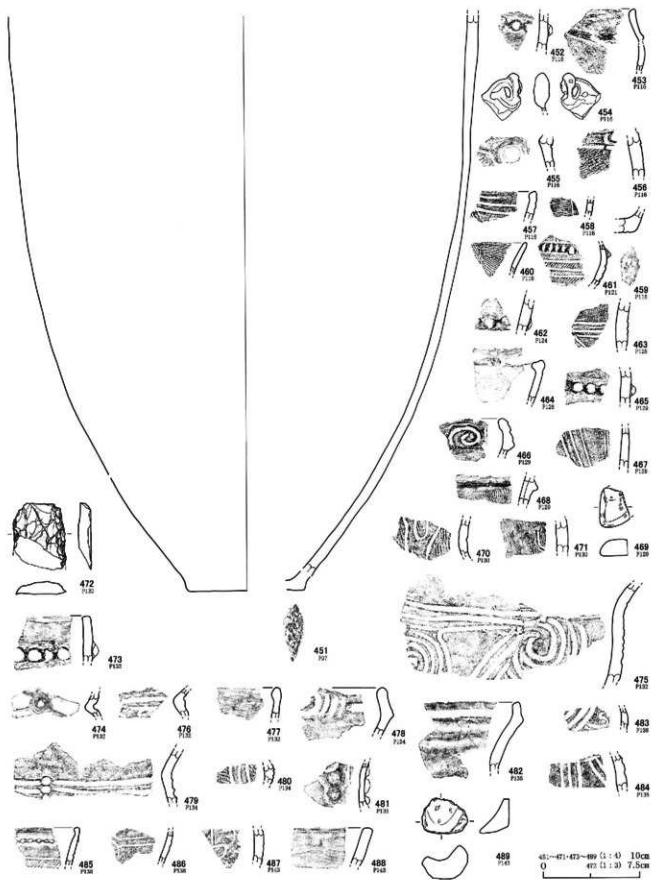
9. ビット



第78図 ビット出土遺物実測図(1)



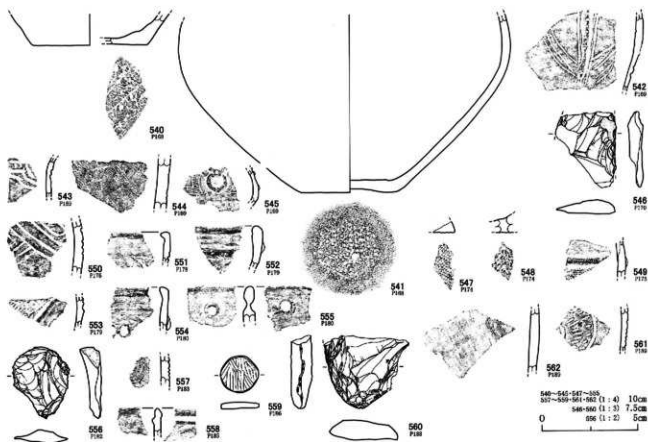
第79図 ビット出土遺物実測図(2)



第80図 ビット出土遺物実測図(3)



第81図 ヒット出土遺物実測図(4)



第82図 ビット出土遺物実測図(5)

ビットは201基が検出され、A地区2地点、B地区の3地点に集中している。

A調査区H3(8世紀前半)とH1(弥生時代後期)周辺では、H1と新旧の重複が多くH2~4との重複が少ない。この地点のビットの時期はH1以前の縄文時代後期初頭から前葉、H2~H4の8世紀代が考えられよう。H12・土坑群(縄文時代後期)の周辺では、H5(8世紀後半)・H12との重複がなく、土坑群(縄文時代後期)との新旧の重複が多い。

A地区のP1・P28・P33・P153・P155・P169からは、縄文時代後期初頭~前葉の土器が多く出土している。P4からは、縄文時代後期初頭~前葉の土器と平安時代の須恵器長頸壺が出土している。

B地区ほぼ全体で検出されたが、H23(9世紀前半)とD13より新しいものは確認されていない。H15・H17(古墳時代後期)との新旧重複、H25(弥生時代後期)より新しく、H14(8世紀前半)より古い傾向がある。

B地区のP49・P97・P99・P109・P115・P116・P129・P132・P138・P144・P164からは、縄文時代後期初頭~前葉の土器が多く出土している。

P97は、人骨の出土は確認されていないが第80図451の粗製深鉢がほぼ正位の状態では置かれており土器棺墓の可能性がある。

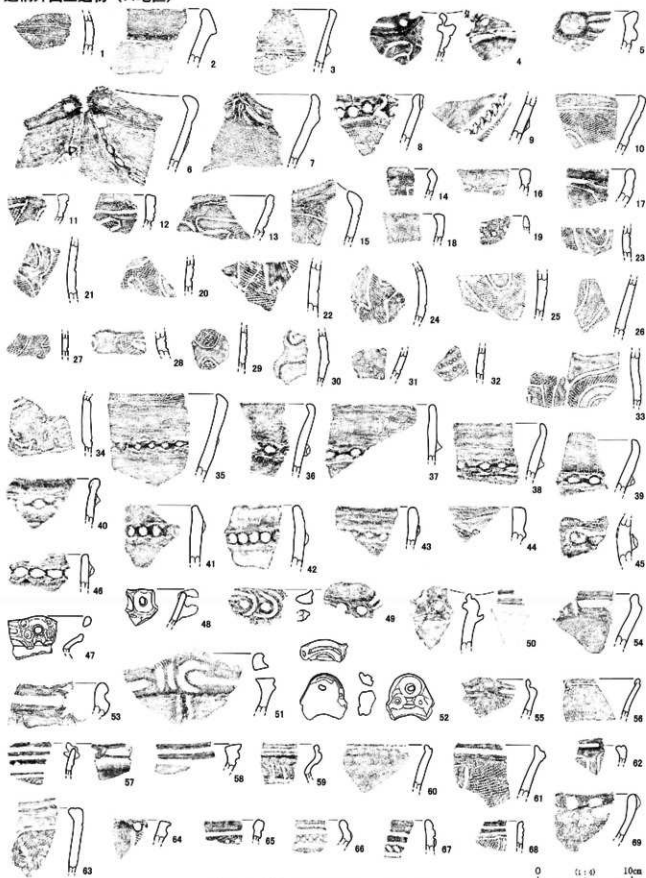
10.遺構外出土遺物

縄文時代早期・中期後半・後期初頭・前葉・中葉・後葉、弥生時代中期・後期、土師器・須恵器、石器、鉄器、縄文時代石製品、縄文時代土製品が出土した。

縄文時代早期田上下層式である深鉢片がA地区く4グリッドから出土した。

縄文時代後期初頭土器は、A地区のH12号住居址周辺に集中している。縄文時代後期前葉土器は、土坑群の周辺とD34周辺、東側に密集するビット群周辺に集中している。

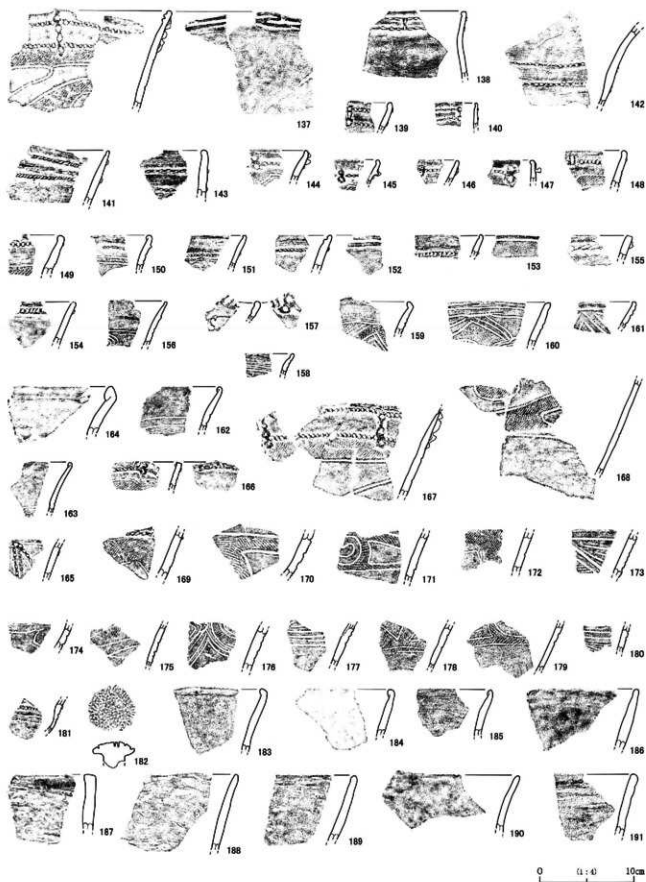
道橋外出土遺物 (A地区)



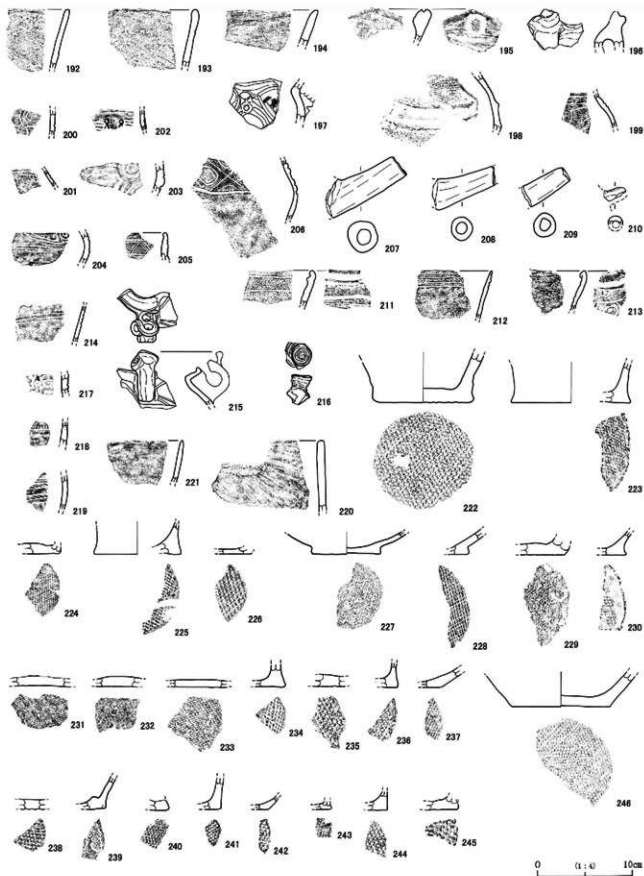
第83图 道橋外(A地区)出土遺物実測图(1)



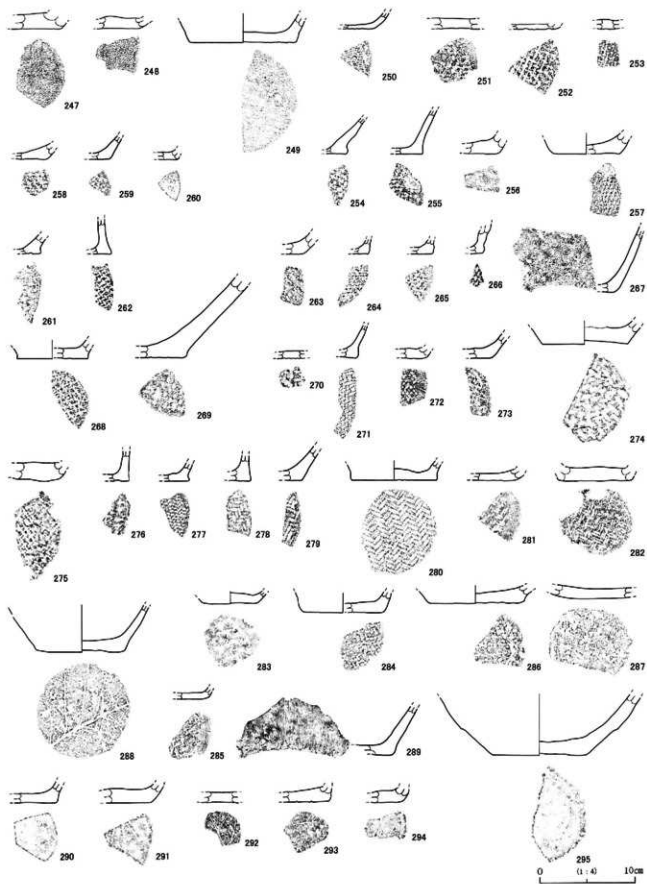
第84图 道模外(A地区)出土文物实测图(2)



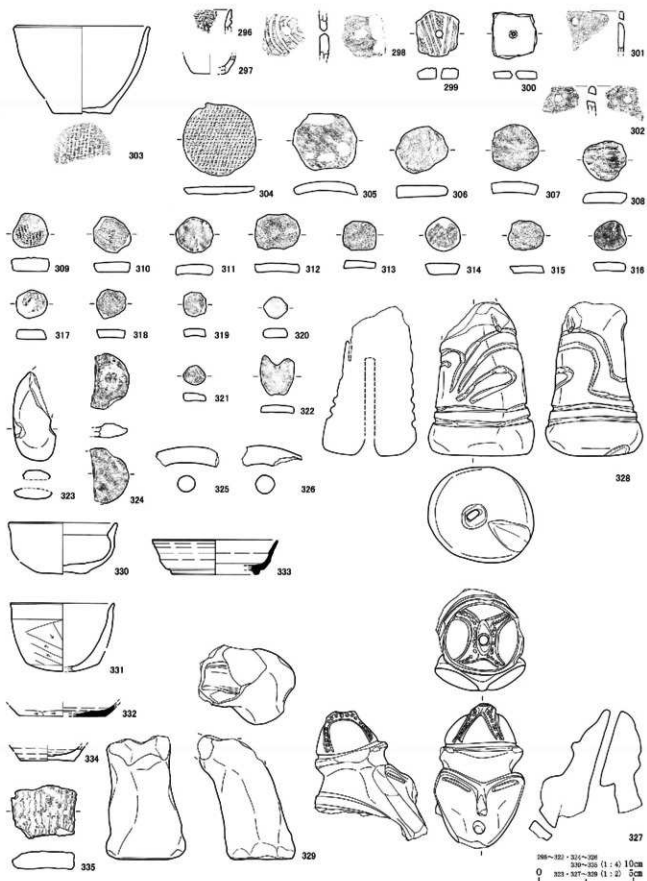
第85图 道桥外(A地区)出土物实例图(3)



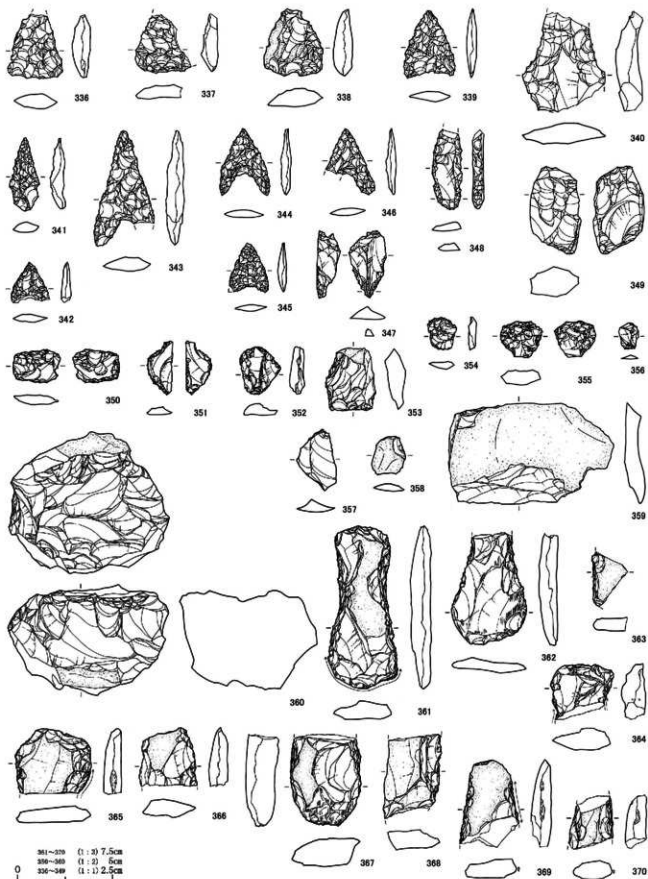
第86图 道桥外(A地区)出土文物实测图(4)



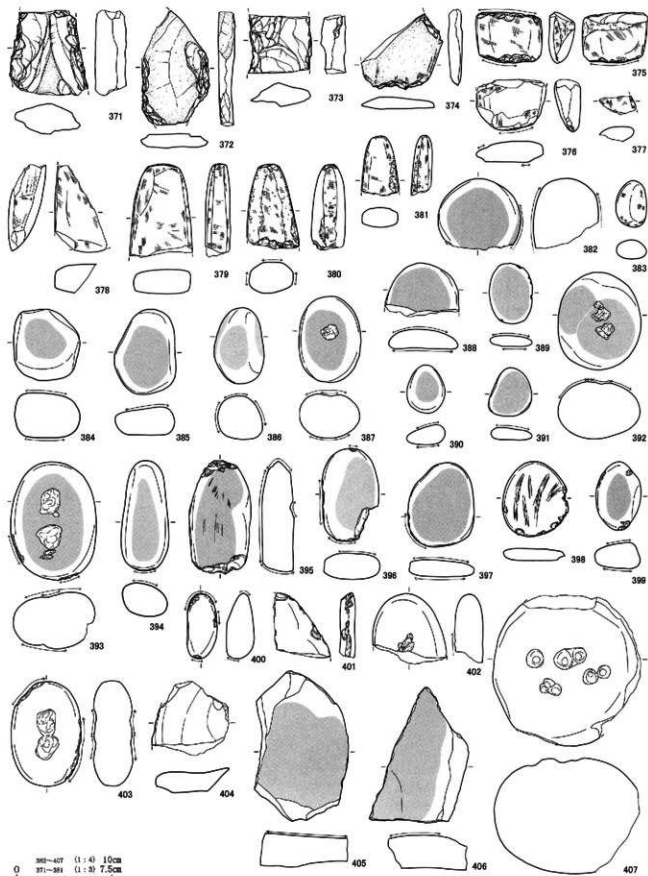
第87图 道桥外(A地区)出土物实测图(5)



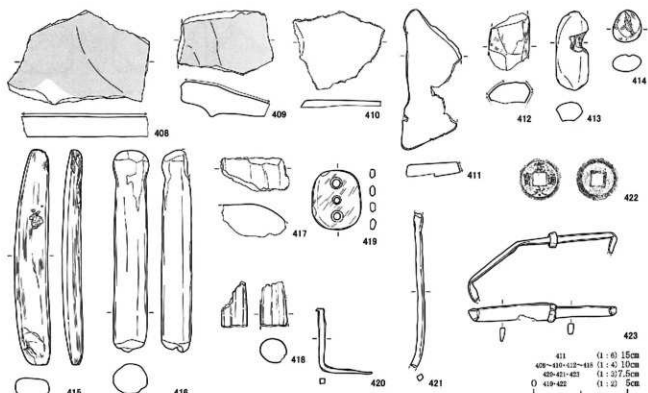
第88图 渣桥外(A地区)出土器物实例图(6)



第89图 漳溪外(A地区)出土遗物实例图(7)

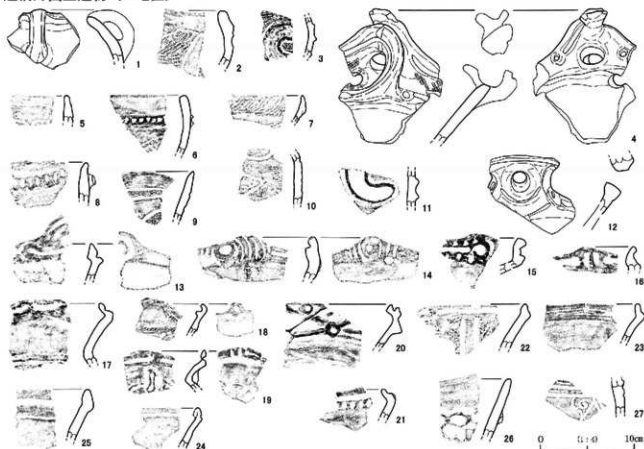


第90图 遼陽外(A地区)出土遺物実測図(8)

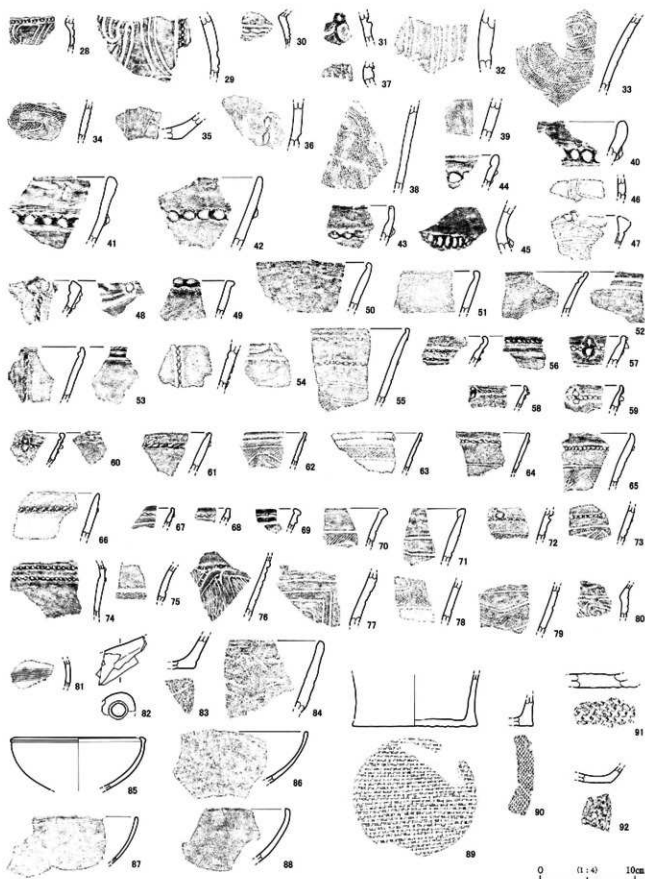


第91图 遺構外(A地区)出土遺物実測図(9)

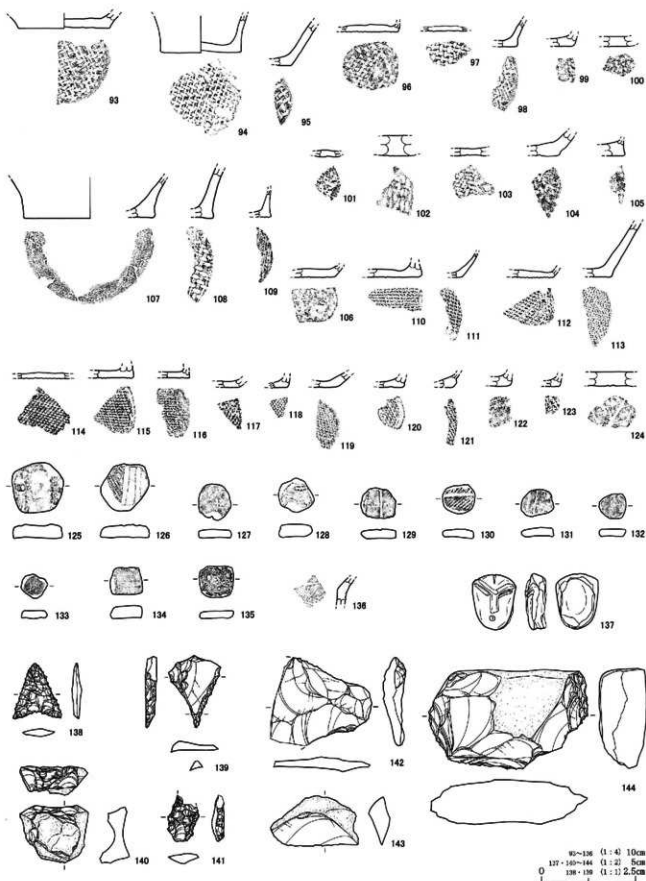
遺構外出土遺物 (B地区)



第92图 遺構外(B地区)出土遺物実測図(1)

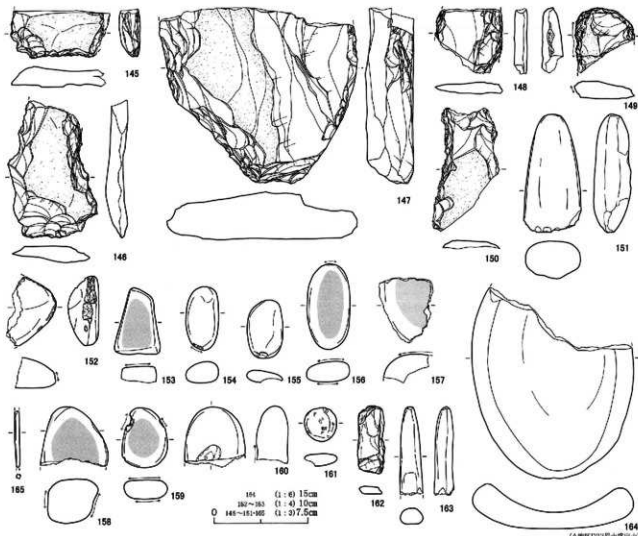


第93图 道桥外(B地区)出土物实例图(2)



93-136 (1:4) 10cm
 137-140-144 (1:2) 5cm
 138-139 (1:1) 2.5cm

第94图 濠沟外(B地区)出土器物实测图(3)



第95図 D22号土坑及び遺構外(B地区)出土遺物実測図(4)

GABK022号土偶図.23

B地区でも縄文時代中期後半・後期初頭・前葉・中葉・後葉、縄文時代石器、石製品が出土した。P49・D15・D16・P138周辺より比較的多く出土した。

416の小型石棒と391の丸い磨石が近接してえ-5グリッド遺構確認面より出土。329の土偶脚部片はえ-1グリッドD26近辺、328の土偶脚部片はBトレンチ、327の土偶顔面・頭部はD2土坑東、いずれも遺構確認面より出土した。327の土偶頭部は仮面のようにも見えるが、斜め上方に顔を突き出した形でY字流体で眉と鼻を、口は透かし孔で目は沈線で表現する。顔と頭部境の隆帯は帽子をかぶったような形である。突起状頭頂部から貫通孔、孔を起点の平行沈線内に小円形刺突のX字文が施される。後頭部に2条の沈線が巡る。堀之内1式の土偶の特徴を備えている。B地区し13グリッドから出土したの筒形土偶とみられる第94図137は、D13号土坑出土の板状の土偶の顔面表現と酷似する。

4. まとめ

遺構は、周辺で数多く検出されている弥生時代後期・古墳時代・奈良時代・平安時代の竪穴住居・土坑・溝状遺構等であったが、西近津遺跡群内で初見の縄文時代後期前半の敷石住居が1軒確認された。また、他の調査地点では数少ない縄文時代の遺構と遺物が多量に検出された。竪穴住居は1軒であるが、墓坑とみられる土坑群が存在し、JR小海線中佐郡駅の北方にある鷲林城跡から東方に展開する縄文時代集落の東端を確認できた。

第1表 醫六住居址・土坑一覽表

(現存) (検出部) [埋定] (cm)

種別	検出位置	平面図				土坑方位 (検出方位)	方コマ (形)	柱穴規模			備考 遺構・埋定
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長			壁高	長さ	幅	
H1	い・3・4 う・1・5	290	-	-	720	86	N	北の主柱穴 副柱あり	F1 60×30×60埋定 F2 30×34×66埋定 F3 30×20×70 F4 51×20×75 F5 42×38×34 F6 30×20×70 F7 52×46×62 F8 44×38×37	F1 60×30×60埋定 F2 30×34×66埋定 F3 30×20×70 F4 51×20×75 F5 42×38×34 F6 30×20×70 F7 52×46×62 F8 44×38×37	H1 H2 H3 H4 H5 H6 H7 H8 H9 H10 H11 H12 H13 H14 H15 H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 H31 H32 H33 H34 H35 H36 H37 H38 H39 H40 H41 H42 H43 H44 H45 H46 H47 H48 H49 H50 H51 H52 H53 H54 H55 H56 H57 H58 H59 H60 H61 H62 H63 H64 H65 H66 H67 H68 H69 H70 H71 H72 H73 H74 H75 H76 H77 H78 H79 H80 H81 H82 H83 H84 H85 H86 H87 H88 H89 H90 H91 H92 H93 H94 H95 H96 H97 H98 H99 H100 H101 H102 H103 H104 H105 H106 H107 H108 H109 H110 H111 H112 H113 H114 H115 H116 H117 H118 H119 H120 H121 H122 H123 H124 H125 H126 H127 H128 H129 H130 H131 H132 H133 H134 H135 H136 H137 H138 H139 H140 H141 H142 H143 H144 H145 H146 H147 H148 H149 H150 H151 H152 H153 H154 H155 H156 H157 H158 H159 H160 H161 H162 H163 H164 H165 H166 H167 H168 H169 H170 H171 H172 H173 H174 H175 H176 H177 H178 H179 H180 H181 H182 H183 H184 H185 H186 H187 H188 H189 H190 H191 H192 H193 H194 H195 H196 H197 H198 H199 H200 H201 H202 H203 H204 H205 H206 H207 H208 H209 H210 H211 H212 H213 H214 H215 H216 H217 H218 H219 H220 H221 H222 H223 H224 H225 H226 H227 H228 H229 H230 H231 H232 H233 H234 H235 H236 H237 H238 H239 H240 H241 H242 H243 H244 H245 H246 H247 H248 H249 H250 H251 H252 H253 H254 H255 H256 H257 H258 H259 H260 H261 H262 H263 H264 H265 H266 H267 H268 H269 H270 H271 H272 H273 H274 H275 H276 H277 H278 H279 H280 H281 H282 H283 H284 H285 H286 H287 H288 H289 H290 H291 H292 H293 H294 H295 H296 H297 H298 H299 H300 H301 H302 H303 H304 H305 H306 H307 H308 H309 H310 H311 H312 H313 H314 H315 H316 H317 H318 H319 H320 H321 H322 H323 H324 H325 H326 H327 H328 H329 H330 H331 H332 H333 H334 H335 H336 H337 H338 H339 H340 H341 H342 H343 H344 H345 H346 H347 H348 H349 H350 H351 H352 H353 H354 H355 H356 H357 H358 H359 H360 H361 H362 H363 H364 H365 H366 H367 H368 H369 H370 H371 H372 H373 H374 H375 H376 H377 H378 H379 H380 H381 H382 H383 H384 H385 H386 H387 H388 H389 H390 H391 H392 H393 H394 H395 H396 H397 H398 H399 H400 H401 H402 H403 H404 H405 H406 H407 H408 H409 H410 H411 H412 H413 H414 H415 H416 H417 H418 H419 H420 H421 H422 H423 H424 H425 H426 H427 H428 H429 H430 H431 H432 H433 H434 H435 H436 H437 H438 H439 H440 H441 H442 H443 H444 H445 H446 H447 H448 H449 H450 H451 H452 H453 H454 H455 H456 H457 H458 H459 H460 H461 H462 H463 H464 H465 H466 H467 H468 H469 H470 H471 H472 H473 H474 H475 H476 H477 H478 H479 H480 H481 H482 H483 H484 H485 H486 H487 H488 H489 H490 H491 H492 H493 H494 H495 H496 H497 H498 H499 H500 H501 H502 H503 H504 H505 H506 H507 H508 H509 H510 H511 H512 H513 H514 H515 H516 H517 H518 H519 H520 H521 H522 H523 H524 H525 H526 H527 H528 H529 H530 H531 H532 H533 H534 H535 H536 H537 H538 H539 H540 H541 H542 H543 H544 H545 H546 H547 H548 H549 H550 H551 H552 H553 H554 H555 H556 H557 H558 H559 H560 H561 H562 H563 H564 H565 H566 H567 H568 H569 H570 H571 H572 H573 H574 H575 H576 H577 H578 H579 H580 H581 H582 H583 H584 H585 H586 H587 H588 H589 H590 H591 H592 H593 H594 H595 H596 H597 H598 H599 H600 H601 H602 H603 H604 H605 H606 H607 H608 H609 H610 H611 H612 H613 H614 H615 H616 H617 H618 H619 H620 H621 H622 H623 H624 H625 H626 H627 H628 H629 H630 H631 H632 H633 H634 H635 H636 H637 H638 H639 H640 H641 H642 H643 H644 H645 H646 H647 H648 H649 H650 H651 H652 H653 H654 H655 H656 H657 H658 H659 H660 H661 H662 H663 H664 H665 H666 H667 H668 H669 H670 H671 H672 H673 H674 H675 H676 H677 H678 H679 H680 H681 H682 H683 H684 H685 H686 H687 H688 H689 H690 H691 H692 H693 H694 H695 H696 H697 H698 H699 H700 H701 H702 H703 H704 H705 H706 H707 H708 H709 H710 H711 H712 H713 H714 H715 H716 H717 H718 H719 H720 H721 H722 H723 H724 H725 H726 H727 H728 H729 H730 H731 H732 H733 H734 H735 H736 H737 H738 H739 H740 H741 H742 H743 H744 H745 H746 H747 H748 H749 H750 H751 H752 H753 H754 H755 H756 H757 H758 H759 H760 H761 H762 H763 H764 H765 H766 H767 H768 H769 H770 H771 H772 H773 H774 H775 H776 H777 H778 H779 H780 H781 H782 H783 H784 H785 H786 H787 H788 H789 H790 H791 H792 H793 H794 H795 H796 H797 H798 H799 H800 H801 H802 H803 H804 H805 H806 H807 H808 H809 H810 H811 H812 H813 H814 H815 H816 H817 H818 H819 H820 H821 H822 H823 H824 H825 H826 H827 H828 H829 H830 H831 H832 H833 H834 H835 H836 H837 H838 H839 H840 H841 H842 H843 H844 H845 H846 H847 H848 H849 H850 H851 H852 H853 H854 H855 H856 H857 H858 H859 H860 H861 H862 H863 H864 H865 H866 H867 H868 H869 H870 H871 H872 H873 H874 H875 H876 H877 H878 H879 H880 H881 H882 H883 H884 H885 H886 H887 H888 H889 H890 H891 H892 H893 H894 H895 H896 H897 H898 H899 H900 H901 H902 H903 H904 H905 H906 H907 H908 H909 H910 H911 H912 H913 H914 H915 H916 H917 H918 H919 H920 H921 H922 H923 H924 H925 H926 H927 H928 H929 H930 H931 H932 H933 H934 H935 H936 H937 H938 H939 H940 H941 H942 H943 H944 H945 H946 H947 H948 H949 H950 H951 H952 H953 H954 H955 H956 H957 H958 H959 H960 H961 H962 H963 H964 H965 H966 H967 H968 H969 H970 H971 H972 H973 H974 H975 H976 H977 H978 H979 H980 H981 H982 H983 H984 H985 H986 H987 H988 H989 H990 H991 H992 H993 H994 H995 H996 H997 H998 H999 H1000

土坑

(検出部) (現存部)

種別	検出位置	平面図	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	備考 発掘関係	種別	検出位置	平面図	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	備考 遺構関係
D1	< 4	円形	30	(25)	11	D17に穿られる 発掘関係	D20	か-4	円形	76	76	83	葬倉庫・堀之内1
D2	き4	円形	35	35	25	P180埋定	D21	き・< 3	円形	104	102	73	P200埋定 扉面フラコス 葬倉庫
D3	き4	不整形	43	28	19	堀之内・堀之内2	D22	< 4・5	不整形	146	140	80	H18、H19、門67に穿られる 扉面フラコス 葬倉庫・堀之内1
D4	こ-1・5	-	-	(25)	30	H10に穿れる	D23	き3	楕円形	110	106	20	堀之内2
D5	196	-	(84)	128	20	扉面フラコス状	D24	欠落	-	-	-	-	-
D6	け・こ-6	-	(80)	110	88	堀之内1	D25	お3	円形	76	76	61	H2・H7に穿られる 加飾埋定
D7	け-7	-	94	(74)	45	堀之内1	D26	え2・3	円形	90	90	87	H7に穿れる 堀之内1
D8	け-6・7	円形	82	76	15	堀之内1	D27	< 4・5	楕円形	120	104	62	H7に穿れる 葬倉庫・堀之内1
D9	け7	-	202	(90)	24	D4に穿られる 堀之内	D28	こ-3・4	円形	94	94	36	P180・P186埋定 堀之内1・堀之内2
D10	き-19-14	-	104	(64)	25	P192に穿られる 堀之内	D29	こ11	-	126	84	64	H22に穿れる 扉面フラコス 葬倉庫・堀之内1
D11	お8	(50)	(52)	12	H8に穿れる	D30	こ-4・5	楕円形	106	98	55	中腰扉・堀之内1	
D12	欠落	-	-	-	-	-	D31	お4	楕円形	118	(85)	40	M3C96に103に穿れる 葬倉庫・堀之内1
D13	け-21-12	楕円形	332	248	24	H15・H19・H25に穿れる 土坑 扉面フラコス	D32	お5	楕円形	183	116	83	H18に穿れる
D14	す11	楕円形	(28)	158	62	P17に穿れる、P184・P192に穿れる 中腰扉・葬倉庫・堀之内1	D33	き・< 4	円形	102	96	75	D31に穿れる H22に穿れる 葬倉庫・堀之内1
D15	し10	楕円形	106	96	54	「下腰扉」葬倉庫・堀之内1・堀之内2	D34	え5	円形	76	64	81	堀之内1・堀之内2
D16	し10	楕円形	126	(74)	28	中腰扉・葬倉庫・堀之内1・堀之内2	D35	き1・5	長方形	126	103	40	H22に穿れる 堀之内1
D17	< 4	楕円形	122	100	69	H16に穿れる 堀之内1・堀之内2	D36	き-2・3	不整形	110	84	38	P192に穿れる 葬倉庫
D18	き3	楕円形	124	110	39	H2に穿れる H4に穿れる 葬倉庫・堀之内1・堀之内2	D37	お4	楕円形	70	64	60	P19に穿れる 葬倉庫・堀之内1
D19	か-4・5	円形	104	104	30	堀之内1							

第2表 ビット計測表 (cm)

No.	機軸呼号	周波数	電波	No.	機軸呼号	周波数	電波	No.	機軸呼号	周波数	電波	No.	機軸呼号	周波数	電波
1	28	32x28	10VX3/3	10VX3/4	23	15	72x50	24	24	50x32	25	10	11	10	10VX2/3
2	58	54x50	10VX3/3	10VX3/4	74	11	54x50	75	11	54x50	76	11	54x50	77	11
3	9	9	47x69	10VX3/3	77	11	54x50	78	11	54x50	79	11	54x50	80	11
4	9	9	33x43	10VX3/3	81	11	54x50	82	11	54x50	83	11	54x50	84	11
5	5	5	32x22	10VX3/3	85	11	54x50	86	11	54x50	87	11	54x50	88	11
6	9	9	32x22	10VX3/3	89	11	54x50	90	11	54x50	91	11	54x50	92	11
7	3	3	32x22	10VX3/3	93	11	54x50	94	11	54x50	95	11	54x50	96	11
8	9	9	32x22	10VX3/3	99	11	54x50	100	11	54x50	101	11	54x50	102	11
9	9	9	32x22	10VX3/3	103	11	54x50	104	11	54x50	105	11	54x50	106	11
10	9	9	32x22	10VX3/3	107	11	54x50	108	11	54x50	109	11	54x50	110	11
11	74	62x43	10VX2/3	10VX3/4	111	12	70x77	112	12	70x77	113	12	70x77	114	12
12	3	3	35x12	10VX2/3	115	12	70x77	116	12	70x77	117	12	70x77	118	12
13	3	3	33x37	10VX2/3	119	12	70x77	120	12	70x77	121	12	70x77	122	12
14	3	3	45x16	10VX2/3	123	12	70x77	124	12	70x77	125	12	70x77	126	12
15	76	78x29	10VX2/3	127	12	70x77	128	12	70x77	129	12	70x77	130	12	
16	105	63x39	10VX2/3	131	12	70x77	132	12	70x77	133	12	70x77	134	12	
17	3	3	78x23	10VX2/3	135	12	70x77	136	12	70x77	137	12	70x77	138	12
18	3	3	48x19	10VX2/3	139	12	70x77	140	12	70x77	141	12	70x77	142	12
19	2	2	36x31	10VX2/3	143	12	70x77	144	12	70x77	145	12	70x77	146	12
20	3	3	32x27	10VX2/3	147	12	70x77	148	12	70x77	149	12	70x77	150	12
21	2	2	66x30	10VX2/3	151	12	70x77	152	12	70x77	153	12	70x77	154	12
22	105	70x44	10VX2/3	155	12	70x77	156	12	70x77	157	12	70x77	158	12	
23	3	3	46x29	10VX2/3	159	12	70x77	160	12	70x77	161	12	70x77	162	12
24	107	52x56	10VX2/3	163	12	70x77	164	12	70x77	165	12	70x77	166	12	
25	107	42x47	10VX2/3	167	12	70x77	168	12	70x77	169	12	70x77	170	12	
26	2	2	44x32	10VX2/3	171	12	70x77	172	12	70x77	173	12	70x77	174	12
27	2	2	48x36	10VX2/3	175	12	70x77	176	12	70x77	177	12	70x77	178	12
28	52	85x122	10VX2/3	179	12	70x77	180	12	70x77	181	12	70x77	182	12	
29	92	47x28	10VX2/3	183	12	70x77	184	12	70x77	185	12	70x77	186	12	
30	52	66x26	10VX2/3	187	12	70x77	188	12	70x77	189	12	70x77	190	12	
31	52	72x24	10VX2/3	191	12	70x77	192	12	70x77	193	12	70x77	194	12	
32	52	67x40	10VX2/3	195	12	70x77	196	12	70x77	197	12	70x77	198	12	
33	3	3	42x39	10VX2/3	199	12	70x77	200	12	70x77	201	12	70x77	202	12
34	3	3	53x20	10VX2/3	203	12	70x77	204	12	70x77	205	12	70x77	206	12
35	3	3	78x35	10VX2/3	207	12	70x77	208	12	70x77	209	12	70x77	210	12
36	3	3	67x34	10VX2/3	211	12	70x77	212	12	70x77	213	12	70x77	214	12
37	3	3	61x34	10VX2/3	215	12	70x77	216	12	70x77	217	12	70x77	218	12
38	5	5	62x39	10VX2/3	219	12	70x77	220	12	70x77	221	12	70x77	222	12
39	10	10	60x28	10VX2/3	223	12	70x77	224	12	70x77	225	12	70x77	226	12
40	10	10	48x27	10VX2/3	227	12	70x77	228	12	70x77	229	12	70x77	230	12
41	10	10	36x31	10VX2/3	231	12	70x77	232	12	70x77	233	12	70x77	234	12
42	10	10	36x31	10VX2/3	235	12	70x77	236	12	70x77	237	12	70x77	238	12
43	10	10	42x42	10VX2/3	239	12	70x77	240	12	70x77	241	12	70x77	242	12
44	10	10	22x11	10VX2/3	243	12	70x77	244	12	70x77	245	12	70x77	246	12
45	10	10	38x10	10VX2/3	247	12	70x77	248	12	70x77	249	12	70x77	250	12
46	10	10	50x23	10VX2/3	251	12	70x77	252	12	70x77	253	12	70x77	254	12
47	10	10	42x17	10VX2/3	255	12	70x77	256	12	70x77	257	12	70x77	258	12
48	10	10	66x20	10VX2/3	259	12	70x77	260	12	70x77	261	12	70x77	262	12
49	10	10	38x11	10VX2/3	263	12	70x77	264	12	70x77	265	12	70x77	266	12
50	10	10	38x11	10VX2/3	267	12	70x77	268	12	70x77	269	12	70x77	270	12
51	10	10	28x45	10VX2/3	271	12	70x77	272	12	70x77	273	12	70x77	274	12
52	10	10	60x31	10VX2/3	275	12	70x77	276	12	70x77	277	12	70x77	278	12
53	10	10	29x18	10VX2/3	279	12	70x77	280	12	70x77	281	12	70x77	282	12
54	10	10	30x17	10VX2/3	283	12	70x77	284	12	70x77	285	12	70x77	286	12
55	10	10	27x18	10VX2/3	287	12	70x77	288	12	70x77	289	12	70x77	290	12
56	10	10	40x13	10VX2/3	291	12	70x77	292	12	70x77	293	12	70x77	294	12
57	10	10	48x16	10VX2/3	295	12	70x77	296	12	70x77	297	12	70x77	298	12
58	10	10	23x19	10VX2/3	299	12	70x77	300	12	70x77	301	12	70x77	302	12
59	10	10	37x17	10VX2/3	303	12	70x77	304	12	70x77	305	12	70x77	306	12
60	10	10	36x11	10VX2/3	307	12	70x77	308	12	70x77	309	12	70x77	310	12
61	10	10	30x13	10VX2/3	311	12	70x77	312	12	70x77	313	12	70x77	314	12
62	10	10	30x13	10VX2/3	315	12	70x77	316	12	70x77	317	12	70x77	318	12
63	10	10	30x13	10VX2/3	319	12	70x77	320	12	70x77	321	12	70x77	322	12
64	5	5	38x32	10VX2/3	323	12	70x77	324	12	70x77	325	12	70x77	326	12
65	5	5	38x32	10VX2/3	327	12	70x77	328	12	70x77	329	12	70x77	330	12
66	5	5	38x32	10VX2/3	331	12	70x77	332	12	70x77	333	12	70x77	334	12
67	5	5	38x32	10VX2/3	335	12	70x77	336	12	70x77	337	12	70x77	338	12
68	5	5	38x32	10VX2/3	339	12	70x77	340	12	70x77	341	12	70x77	342	12
69	5	5	38x32	10VX2/3	343	12	70x77	344	12	70x77	345	12	70x77	346	12
70	5	5	38x32	10VX2/3	347	12	70x77	348	12	70x77	349	12	70x77	350	12
71	5	5	38x32	10VX2/3	351	12	70x77	352	12	70x77	353	12	70x77	354	12
72	5	5	38x32	10VX2/3	355	12	70x77	356	12	70x77	357	12	70x77	358	12
73	5	5	38x32	10VX2/3	359	12	70x77	360	12	70x77	361	12	70x77	362	12

第6表 H4・5住居址出土遺物観察表

No.	場所	遺物	内面	形状・用途・文様		備考
				内面	外面	
12	土師器	土師器	12.1	12.1	12.1	
13	土師器	土師器	13.0	13.0	13.0	
14	土師器	土師器	14.0	14.0	14.0	
15	土師器	土師器	15.0	15.0	15.0	
16	土師器	土師器	16.0	16.0	16.0	
17	土師器	土師器	17.0	17.0	17.0	
18	土師器	土師器	18.0	18.0	18.0	
19	土師器	土師器	19.0	19.0	19.0	
20	土師器	土師器	20.0	20.0	20.0	
21	土師器	土師器	21.0	21.0	21.0	
22	土師器	土師器	22.0	22.0	22.0	
23	土師器	土師器	23.0	23.0	23.0	
24	土師器	土師器	24.0	24.0	24.0	
25	土師器	土師器	25.0	25.0	25.0	
26	土師器	土師器	26.0	26.0	26.0	
27	土師器	土師器	27.0	27.0	27.0	
28	土師器	土師器	28.0	28.0	28.0	
29	土師器	土師器	29.0	29.0	29.0	
30	土師器	土師器	30.0	30.0	30.0	
31	土師器	土師器	31.0	31.0	31.0	
32	土師器	土師器	32.0	32.0	32.0	
33	土師器	土師器	33.0	33.0	33.0	
34	土師器	土師器	34.0	34.0	34.0	
35	土師器	土師器	35.0	35.0	35.0	
36	土師器	土師器	36.0	36.0	36.0	
37	土師器	土師器	37.0	37.0	37.0	
38	土師器	土師器	38.0	38.0	38.0	
39	土師器	土師器	39.0	39.0	39.0	
40	土師器	土師器	40.0	40.0	40.0	
41	土師器	土師器	41.0	41.0	41.0	
42	土師器	土師器	42.0	42.0	42.0	
43	土師器	土師器	43.0	43.0	43.0	
44	土師器	土師器	44.0	44.0	44.0	
45	土師器	土師器	45.0	45.0	45.0	
46	土師器	土師器	46.0	46.0	46.0	
47	土師器	土師器	47.0	47.0	47.0	
48	土師器	土師器	48.0	48.0	48.0	
49	土師器	土師器	49.0	49.0	49.0	
50	土師器	土師器	50.0	50.0	50.0	
51	土師器	土師器	51.0	51.0	51.0	
52	土師器	土師器	52.0	52.0	52.0	
53	土師器	土師器	53.0	53.0	53.0	
54	土師器	土師器	54.0	54.0	54.0	
55	土師器	土師器	55.0	55.0	55.0	
56	土師器	土師器	56.0	56.0	56.0	
57	土師器	土師器	57.0	57.0	57.0	
58	土師器	土師器	58.0	58.0	58.0	
59	土師器	土師器	59.0	59.0	59.0	
60	土師器	土師器	60.0	60.0	60.0	
61	土師器	土師器	61.0	61.0	61.0	
62	土師器	土師器	62.0	62.0	62.0	
63	土師器	土師器	63.0	63.0	63.0	
64	土師器	土師器	64.0	64.0	64.0	
65	土師器	土師器	65.0	65.0	65.0	
66	土師器	土師器	66.0	66.0	66.0	
67	土師器	土師器	67.0	67.0	67.0	
68	土師器	土師器	68.0	68.0	68.0	
69	土師器	土師器	69.0	69.0	69.0	
70	土師器	土師器	70.0	70.0	70.0	
71	土師器	土師器	71.0	71.0	71.0	
72	土師器	土師器	72.0	72.0	72.0	
73	土師器	土師器	73.0	73.0	73.0	
74	土師器	土師器	74.0	74.0	74.0	
75	土師器	土師器	75.0	75.0	75.0	
76	土師器	土師器	76.0	76.0	76.0	
77	土師器	土師器	77.0	77.0	77.0	
78	土師器	土師器	78.0	78.0	78.0	
79	土師器	土師器	79.0	79.0	79.0	
80	土師器	土師器	80.0	80.0	80.0	
81	土師器	土師器	81.0	81.0	81.0	
82	土師器	土師器	82.0	82.0	82.0	
83	土師器	土師器	83.0	83.0	83.0	
84	土師器	土師器	84.0	84.0	84.0	
85	土師器	土師器	85.0	85.0	85.0	
86	土師器	土師器	86.0	86.0	86.0	
87	土師器	土師器	87.0	87.0	87.0	
88	土師器	土師器	88.0	88.0	88.0	
89	土師器	土師器	89.0	89.0	89.0	
90	土師器	土師器	90.0	90.0	90.0	
91	土師器	土師器	91.0	91.0	91.0	
92	土師器	土師器	92.0	92.0	92.0	
93	土師器	土師器	93.0	93.0	93.0	
94	土師器	土師器	94.0	94.0	94.0	
95	土師器	土師器	95.0	95.0	95.0	
96	土師器	土師器	96.0	96.0	96.0	
97	土師器	土師器	97.0	97.0	97.0	
98	土師器	土師器	98.0	98.0	98.0	
99	土師器	土師器	99.0	99.0	99.0	
100	土師器	土師器	100.0	100.0	100.0	
101	土師器	土師器	101.0	101.0	101.0	
102	土師器	土師器	102.0	102.0	102.0	
103	土師器	土師器	103.0	103.0	103.0	
104	土師器	土師器	104.0	104.0	104.0	
105	土師器	土師器	105.0	105.0	105.0	
106	土師器	土師器	106.0	106.0	106.0	
107	土師器	土師器	107.0	107.0	107.0	
108	土師器	土師器	108.0	108.0	108.0	
109	土師器	土師器	109.0	109.0	109.0	
110	土師器	土師器	110.0	110.0	110.0	
111	土師器	土師器	111.0	111.0	111.0	
112	土師器	土師器	112.0	112.0	112.0	
113	土師器	土師器	113.0	113.0	113.0	

第12表 H19・20・21・23・24・25号住居址出土遺物観察表

No.	種別	品名	文様・装飾	検出層	No.	種別	品名	文様・装飾	検出層	No.	種別	品名	文様・装飾	検出層	備考
4	藤文土器	鉢	平縁筒状 底面短形縁部	縄文之1	10	縄文土器	縄文	内面短形 底面短形縁部	後新石器	13	縄文土器	鉢	平縁筒状 底面短形縁部	縄文	
5	縄文土器	底鉢	平縁筒状 底面短形縁部	縄文之1	11	縄文土器	鉢	内面短形 底面短形縁部	後新石器	14	縄文土器	鉢	内面短形 底面短形縁部	縄文	
6	縄文土器	壺	最大径 最大高	縄文之1	12	縄文土器	壺	最大径 最大高	縄文之1	13	縄文土器	壺	最大径 最大高	縄文	
7	縄文土器	壺	4.3 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
8	縄文土器	壺	4.1 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
9	縄文土器	壺	4.3 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
10	縄文土器	壺	4.1 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
11	縄文土器	壺	4.3 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
12	縄文土器	壺	4.1 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
13	縄文土器	壺	4.3 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
14	縄文土器	壺	4.1 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
15	縄文土器	壺	4.3 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
16	縄文土器	壺	4.1 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
17	縄文土器	壺	4.3 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
18	縄文土器	壺	4.1 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
19	縄文土器	壺	4.3 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
20	縄文土器	壺	4.1 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
21	縄文土器	壺	4.3 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
22	縄文土器	壺	4.1 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
23	縄文土器	壺	4.3 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
24	縄文土器	壺	4.1 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM
25	縄文土器	壺	4.3 2.0	2.8 5.70	縄文 076	縄文	底面に滑り	縄文	076	縄文	底面に滑り	縄文	076		NM

第13表 H25号住居址・土坑出土遺物観察表

I125		遺 物			成 形・構 造・文 様		発 見 時 状 況 (式 式 ●)		
No.	種別	副種	白灰(%)	磁石(%)	断面(厚)	内 面	外 面	備 考	出土遺物
7	赤土土器	甕	-	16.8	(17.0)	ハナロー→ハナテ	ヘラミダキ→赤土磁器	完全発見 外部の土盛り部は	Nb109
8	赤土土器	甕	19.2	-	(17.0)	ハナ斜→ヘラミダキ→赤土磁器	ヘラ磁器文→ヘラ磁器文→ヘラミダキ→赤土磁器	完全発見 外部の土盛り部は	Nb109
9	赤土土器	甕	(13.3)	-	(7.4)	ヘラミダキ→赤土磁器	ヘラミダキ→赤土磁器	完全発見	Nb1
16	赤土土器	甕	(13.8)	5.4	7.1	ヘラミダキ	ヘラミダキ	完全発見	NbA
17	赤土土器	甕	-	-	(13.5)	好層ヘラミダキ→赤土磁器	好層ヘラミダキ	完全発見	Nb5 111-13
18	赤土土器	甕	-	-	-	ハナ斜→ハナテ	ヘラミダキ→赤土磁器	完全発見	観察未済
No.	種別	副種	文様・調整	備 考	No.	種別	副種	文様・調整	備 考
10	赤土土器	甕	縦線状文・波状文	好層発見	20	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
11	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	21	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
12	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	22	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
13	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	23	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
14	赤土土器	甕	縦線状文・横線状文	好層発見	24	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
19	黒土土器	甕	縦線状文	好層発見	25	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
20	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	26	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
21	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	27	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
22	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	28	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
23	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	29	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
24	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	30	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
25	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	31	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
26	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	32	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
27	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	33	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
28	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	34	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
29	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	35	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
36	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	36	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
37	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	37	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
38	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	38	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
39	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	39	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
40	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	40	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
41	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	41	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
42	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	42	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
43	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	43	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
44	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	44	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
45	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	45	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
46	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	46	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
47	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	47	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
48	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	48	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
49	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	49	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
50	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	50	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
51	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	51	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
52	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	52	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
53	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	53	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
54	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	54	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
55	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	55	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
56	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	56	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
57	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	57	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
58	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	58	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
59	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	59	赤土土器	甕	横線状文	好層発見
60	赤土土器	甕	縦線状文	好層発見	60	赤土土器	甕	横線状文	好層発見

第14表 土坑出土土物観察表

府庁() 石野 最大長・最大径・最大幅・重量 単位:mm

No.	種別	器種	文様・刻型	備考	出土位置 No.	種別	器種	文様・刻型	備考	出土位置
1	陶文土器	鉢	刷代底 2本脚1本溝り 模索跡あり	後期前半	D1	45	陶文土器	深鉢	口縁部凹する底状口縁 比内区画内に陶文LR	称名寺 D14
2	陶文土器	鉢	木葉痕	後期前半	D1	46	陶文土器	深鉢	模刻押花痕	後期前半 D14
3	陶文土器	深鉢	内面榫ナデ	後期前半	D1	47	陶文土器	深鉢	模刻押花痕	後期前半 D14
4	陶文土器	深鉢	内面榫ナデ 黒色に酸化	後期前半	D1	48	陶文土器	深鉢	模刻押し模	後期前半 D14
5	陶文土器	深鉢	刷代底 2本脚1本溝り 模索跡あり	後期前半	D3	49	陶文土器	深鉢	斜形刻み模	称名寺 D14
6	陶文土器	鉢	口縁部模刻沈線	堀之内1	D3	50	陶文土器	鉢	模刻沈線	堀之内1 D14
7	陶文土器	深鉢	沈線区画内に陶文LR充焼	堀之内1	D3	51	陶文土器	深鉢	口縁部突起にC字状沈線。両脚内面 陶文から模刻沈線。くびれ部内面 貼付文から模刻沈線。J字状沈線 口縁外に陶文LR	堀之内1 D14
8	陶文土器	深鉢	内面黒色に酸化 刷代底 2本脚 1本溝り 模索跡あり 別の2つの 模刻2本脚1本溝りが異なる	後期前半	D3					
9	陶文土器	深鉢	模刻押し模 沈線区画内に 陶文LR充焼	堀之内2	D3					
10	陶文土器	鉢	沈線区画 磨刻陶文LR	堀之内2	D3	52	陶文土器	深鉢	口縁部突起にC字状沈線。両脚内面 陶文から模刻沈線。くびれ部内面 貼付文から模刻沈線。J字状沈線 口縁外に陶文LR	堀之内1 D14
11	陶文土器	鉢	模刻集合沈線	堀之内1	D3					
12	陶文土器	打穿	硬質砂岩 自然磨光 9.9 3.4 2.2 105.76	D3	D3					
13	陶文土器	磨石	海石安山岩 正磨り下り 15.9 15.1 3.7 2080	D3	D3					
14	土製品	土胎片四角		後期前半	D2					
15	陶文土器	二又加工のある副打	磨石片 LR 1.6 0.7 1.86	後期前半	D2					
16	陶文土器	土製品	右翼 基部欠損 (8.0) (2.0) (2.1) (25.02)	後期前半	D2	53	陶文土器	深鉢	口縁部模刻沈線 口縁の円形突起から 陶文LR充焼するJ字状沈線で模刻に L区画に平行沈線 三角形を造く 三角内面陶文LR充焼 口縁(1.6) 磨光(11.1)	堀之内1 D14
17	陶文土器	土製品	右翼 基部欠損 (8.0) (2.0) (2.1) (25.02)	後期前半	D2					
18	陶文土器	深鉢	くびれ部J字状貼付文を起点とする 温気状・紡錘形の集合沈線で 模刻に大きく3区画する。 さらに縦1対の円形刺突文を起点 とする温気状・紡錘形の集合沈線 を配する。それらの間に十字状 集合沈線が横かれ斜行する 集合沈線で結ばれる。 J字状貼付文からV字状に組み 添線が口縁にのびる。 口縁部模刻沈線	堀之内1	132	54	陶文土器	深鉢	版状口縁。口縁部面に円形刺突。 その下から口縁に斜行沈線。さらに 円形刺突から模刻と垂下する斜み磨光 内面に円形刺突。	堀之内1 D14
19	陶文土器	深鉢?	粗製土器	後期	D6	59	陶文土器	深鉢	版状口縁。口縁部面に円形刺突 から温気状沈線。	堀之内1 D14
20	陶文土器	鉢	模刻・斜行沈線 区画内磨刻陶文LR	堀之内1	D6	60	陶文土器	深鉢	版状口縁。口縁部面に円形刺突 から温気状沈線。	堀之内1 D14
21	陶文土器	深鉢?	押文文様から沈線もった最厚 口縁部内面に凹線する 刷代底	堀之内	D6	61	陶文土器	深鉢	版状口縁。口縁部面に円形刺突 から温気状沈線。	堀之内1 D14
22	陶文土器	深鉢?	2本脚1本溝り 模索跡あり 底厚より1cmほど小さい幅物	堀之内	D7	62	陶文土器	深鉢	口縁部模刻沈線 所製刷代底	後期前半 D14
23	陶文土器	鉢	模刻の集合沈線	堀之内1	D7	63	陶文土器	深鉢	内面外側ナデ 所製刷代底	後期前半 D14
24	陶文土器	鉢	口縁部模刻沈線 くびれ部に8字状貼付文	堀之内1	D7	64	陶文土器	深鉢	底厚(11.0) 高さ(11.5)	後期前半 D14
25	陶文土器	鉢	沈線区画内に陶文LR充焼	堀之内1	D7	65	陶文土器	深鉢	口縁部内面に磨光する	後期前半 D14
26	陶文土器	鉢	底状・斜行沈線	堀之内1	D7	66	陶文土器	深鉢	底厚(4.4) 高さ(3.3)	後期前半 D14
27	陶文土器	深鉢	刷代底	後期前半	D8	67	陶文土器	深鉢	刷代底 2本脚1本溝り 模刻沈線	堀之内1 D14
28	石器	四石	海石安山岩 正磨と磨面に板打痕・下り 7.4 6.9 5.7 330.17	D8	69	土製品	土胎片 四角	刷代底 斜打・刷磨痕 厚3.2 長さ0.7	後期 D14	
29	陶文土器	鉢	模刻沈線 区画内に陶文LR充焼	堀之内	D9	70	陶文土器	石鏡	黒色片シート 3.3 1.4 0.7 3.37	後期前半 D14
30	陶文土器	深鉢	小底状口縁のみ?	後期前半	D10	71	陶文土器	土胎片 二又加工のある副打灰色セグ 3.0 2.5 0.6 5.21	後期前半 D14	
31	陶文土器	鉢	模刻沈線	堀之内1	D10	72	陶文土器	打穿	海石安山岩 正磨り下り 14.9 (1.1) (3.2) 64	後期前半 D14
32	土製品	厚9mm	磨石?を加工	後期	D10	73	陶文土器	磨石	右磨り 全体にすり 4.4 4.0 3.1 77.10	後期前半 D14
33	土製品	丸	内面外側ナデ 黒色充焼	中期後半	D13	74	陶文土器	深鉢	模刻沈線 模刻沈線 刷代底	中期後半 D15
34	土製品	丸	内面外側ナデ 黒色充焼	中期後半	D13	75	陶文土器	深鉢	版状口縁 刷代底	中期後半 D15
35	土製品	丸	内面外側ナデ 黒色充焼	中期後半	D13	76	陶文土器	深鉢	版状口縁 刷代底	中期後半 D15
36	陶文土器	差	刷代底 模索跡ありより1本の沈線が 1冊する (5.0) (2.5) (1.7)	堀之内	D13	77	陶文土器	深鉢	版状口縁 刷代底	中期後半 D15
37	陶文土器	J溝	刷代底を欠損する板状口縁。前面には 乳白を充焼。正中線を沈線。 縦長口縁で自然のつり上がった腹。 口から鼻にかけては磨光で表現 されている。縦長口縁の縁がめくり より物の表から内側の表面に磨が つき磨光が吻に入った状態にある。 背面に磨光状の沈線。縦長口縁に 穿孔と凹線沈線。(6.4) (4.9) (2.2)	堀之内1	D13	78	陶文土器	深鉢	刷代底	中期後半 D15
38	陶文土器	深鉢	沈線区画内に陶文LR	中期後半	D14	79	陶文土器	深鉢	刷代底	中期後半 D16
39	陶文土器	深鉢	沈線区画内に陶文LR充焼	中期後半	D14	80	陶文土器	深鉢	刷代底	中期後半 D16
40	陶文土器	深鉢	沈線区画内に模刻沈線	中期後半	D14	81	陶文土器	深鉢	刷代底	中期後半 D16
41	陶文土器	深鉢	刷代底 磨光に合う沈線 区画内に陶文LR充焼	中期後半	D14	91	陶文土器	深鉢	版状口縁 口縁部模刻沈線から 底状に磨光する	堀之内1 D17
42	陶文土器	深鉢	版状口縁 口縁に合う沈線 磨光 磨光に合う沈線 磨光に合う沈線	中期後半	D14	92	陶文土器	深鉢	口縁部内面 模刻押し模 沈線区画内に陶文LR充焼	堀之内2 D17
43	陶文土器	にらみ	模刻沈線 底厚(4.2) 高さ(2.5)	中期後半	D14	93	陶文土器	深鉢	口縁部内面 模刻押し模 沈線区画内に陶文LR充焼	堀之内2 D17
44	陶文土器	深鉢	版状口縁	称名寺	D14					

第15表 土坑出土遺物観察表

図説(1) 石 土器(2) 土器(3) 土器(4) 土器(5) 土器(6)

No.	種別	形状	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	形状	文様・調整	備考	出土位置
94	縄文土器	深鉢	くびれ部下ややみ丸縁をむく	後期前半	D17	147	縄文土器	鉢	小穴底部下側の円形斜付文から横位沈線		堀之内1 D22
95	縄文土器	深鉢	くびれを外反 所置紐型土器	後期前半	D17	148	縄文土器	鉢	小穴底部に円形押入。直下の円形透し孔から横位沈線		堀之内1 D22
96	縄文土器	深鉢	くびれを外反 所置紐型土器	後期前半	D17	149	縄文土器	鉢	小穴底部に丸縁部から内面に横位沈線		堀之内1 D22
97	縄文土器	鉢	副代底 2本1組 2組紐 2組裏より副代底 1組と同一個体	後期	D17	150	縄文土器	深鉢	内面円形押入 口縁部は横位沈線		堀之内1 D22
98	縄文土器	鉢	97と同一個体	後期	D17	151	縄文土器	深鉢	口縁部外側に彫る 口縁部内面に斜交		堀之内1 D22
99	土製品	円板	新部式 副代・新部式 径2.5 厚さ0.6	後期	D17	152	縄文土器	深鉢	小穴底部に内面等文輪に円形斜交		堀之内1 D22
100	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	後期前半	D18	153	縄文土器	深鉢	横位沈線 口縁部外側に斜交		堀之内1 D22
101	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	後期前半	D18	154	縄文土器	深鉢	横位沈線 口縁部外側に斜交		堀之内1 D22
102	縄文土器	深鉢	横位沈線	後期前半	D18	155	縄文土器	鉢	副代底 2本1組 1組紐 1組裏より副代底 1組と同一個体		堀之内1 D22
103	縄文土器	深鉢	横位沈線	後期前半	D18	156	縄文土器	鉢	副代底 2本1組 1組紐 1組裏より副代底 1組と同一個体		堀之内1 D22
104	縄文土器	鉢	副代底 2本1組 1組紐 1組裏より副代底 1組と同一個体	堀之内1	D18	157	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
105	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	158	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
106	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	159	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
107	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	160	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
108	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	161	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
109	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	162	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
110	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	163	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
111	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	164	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
112	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	165	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
113	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	166	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
114	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	167	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
115	縄文土器	鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	168	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
116	縄文土器	鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	169	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
117	縄文土器	鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	170	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
118	縄文土器	鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	171	縄文土器	石製	丸縁部内面		堀之内1 D22
119	土製品	土器片	新部式 副代・新部式 径3.5 厚さ1.0	後期前半	D18	172	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
120	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	173	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
121	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	174	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
122	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	175	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
123	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	176	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
124	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	177	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
125	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D18	178	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
126	土製品	土器片	新部式 副代・新部式 径2.1 厚さ3.0	後期	D21	179	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
127	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D20	180	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
128	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D20	181	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
129	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D20	182	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
130	縄文土器	鉢	丸縁部内面	堀之内1	D20	183	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
131	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D20	184	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
132	縄文土器	石製	丸縁部内面	堀之内1	D20	185	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
133	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D20	186	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
134	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D20	187	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
135	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D20	188	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
136	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D20	189	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
137	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D20	190	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
138	縄文土器	土器片	丸縁部内面	堀之内1	D22	191	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
139	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D22	192	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
140	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D22	193	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
141	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D22	194	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
142	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D22	195	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
143	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D22	196	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
144	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D22	197	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
145	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D22	198	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22
146	縄文土器	深鉢	丸縁部内面	堀之内1	D22	199	縄文土器	深鉢	丸縁部内面		堀之内1 D22

第16表 土坑・円形周溝墓・溝状遺構出土遺物調査表

標本(○) 器種 器名・片名・最大径・重量 (Gm)

No.	種別	総経	文様・装飾	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・装飾	備考	出土位置
201	縄文土器	深鉢	8字状口付文から成位跡み残 8字状貼付文施ける横位沈没区画 内面口縁内折部に沈没	堀之内2	D29	248	縄文土器	深鉢	神石山石部 下部3部付 4.9 6.1 1.6 37.32		D34
						249	縄文土器	浅鉢	松沢7下部欠損 (5.1) (3.2) (1.8) (49.20)		D34
						250	縄文土器	打製石片	神石山石部 上部・刃部欠損 (11.0) (8.8) (2.5) (266.43)		D34
251	縄文土器	打製石片	神石山石部 両面に折断 15.0 6.5 2.0 195.01		D34						
252	縄文土器	深鉢	神石山石部 使用・表面黒化 (30.2) (14.6) (3.3) (2020)		D34						
253	縄文土器	深鉢	横位押圧痕跡			後期前半	D35				
254	縄文土器	深鉢	横位沈没			堀之内17	D35				
255	縄文土器	深鉢	横位・風状生活沈没			堀之内18	D35				
256	縄文土器	深鉢	2条の横位跡み残			堀之内1	J35				
257	縄文土器	深鉢	横位沈没・横文L			堀之内2	D36				
258	縄文土器	深鉢	横文L			堀之内18	J36				
259	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			標本寺	D37				
260	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	D37				
261	縄文土器	深鉢	風状・斜行集合沈没			堀之内1	D37				
262	縄文土器	片土器	風状・斜行沈没			堀之内2	D37				
263	縄文土器	磨・磨石	下部欠損 正置にすり面・上縁部は磨削面 (1.9) (7.3) (2.6) (152.46)				D37				
264	縄文土器	皿のあ る石	神石山石部 正面白色部 両面加工面 (12.6) (4.7) 3.3 763.40				D37				
265	縄文土器	深鉢	神石山石部 横位跡み			中期後半	OT1				
266	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没 横文L			中期後半	OT1				
267	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			後期後半	OT1				
268	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	OT1				
269	縄文土器	鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	OT1				
270	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			加色利B1	OT1				
271	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			後期	OT1				
272	縄文土器	打製石片	神石山石部 刃部磨削面 (8.0) (5.4) (1.4) (92.77)				OT1				
273	縄文土器	壺	横位跡み			後期前半	OT2				
274	縄文土器	深鉢	2本1組の横位・斜行跡み等なる沈没			堀之内1	OT2				
275	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	OT2				
276	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			加色利B1	OT2				
277	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			後期	OT2				
278	石器	鉋石	神石山石部 下部欠損 縁部に磨削面 (5.5) (3.9) (4.3) (198.98)			縄文	OT2				
279	石器	鏝	内径 (25.0) 高さ (8.2)			奈良	M1				
280	土師器	杯	口径 (14.0) 高さ (4.9) (9.4) 1.3 (33.3) (12.71)			奈良	M1				
281	鉄器	刀子	刃部欠損			古墳・平安	M1				
282	縄文土器	深鉢	横位跡み 横文L			中期後半	M1				
283	縄文土器	深鉢	横位跡み 横文L			中期後半	M1				
284	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			奈良	M1				
285	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			後期前半	M1				
286	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			後期前半	M1				
287	縄文土器	深鉢	斜行押圧痕跡			後期前半	M1				
288	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			後期前半	M1				
289	縄文土器	深鉢	火の字状沈没 区画内斜行沈没			奈良	M1				
290	縄文土器	深鉢	風状から降下する横位跡み			奈良	M1				
291	縄文土器	深鉢	2本1組の横位跡み 区画内			奈良	M1				
292	縄文土器	深鉢	横文L			奈良	M1				
293	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				
294	縄文土器	深鉢	穴部欠損の円形割欠から横位跡み			堀之内1	M1				
295	縄文土器	深鉢	内面折部の円形割欠から横位跡み			堀之内1	M1				
296	縄文土器	鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				
297	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				
298	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				
299	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				
300	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				
296	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				
297	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				
298	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				
299	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				
300	縄文土器	深鉢	横位跡み等なる沈没			堀之内1	M1				

第17表 溝状遺構・ピット出土遺物観察表

資料(1) 遺跡 溝状遺構・ピット調査(2009)

No.	種別	位置	文様・形状	備考	出土位置	No.	種別	形状	文様・形状	備考	出土位置	
301	縄文土器	鉢	横に長い縄文土器 縄文I-1部遺構	堀之内2	M1	350	縄文土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	溝内奥部あり	後期	M3
302	縄文土器	鉢	方形に2本1組の遺構	堀之内2	M1	351	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀内奥部あり	後期	M3
303	縄文土器	深鉢	内外面黄褐色 所産色堅土器	後期前半	M1	352	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀内奥部あり	後期	M3
304	縄文土器	深鉢	口縁部小突起 内外面4本の単位沈没	加賀野田1	M1	353	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀内奥部あり	後期	M3
305	縄文土器	深鉢	2本の沈没で縄文I-2部内 斜位本鉢	加賀野田1	M1	354	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀内奥部あり	後期	M3
306	縄文土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M1	355	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀内奥部あり	後期	M3
307	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内	M1	356	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀内奥部あり	後期	M3
308	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M1	357	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀内奥部あり	後期	M3
309	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M1	358	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀内奥部あり	後期	M3
310	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M1	359	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀内奥部あり	後期	M3
311	縄文土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M1	360	石器	刮削	厚燧石 2.4 1.4 0.2 0.38			M3
312	縄文土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M1	361	石器	刮削	厚燧石 2.4 1.4 0.2 0.38			M3
313	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M1	362	縄文土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P1	
314	土器品	瓦	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M1	363	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P4	
315	弥生土器	皿	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M1	364	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P4	
316	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76		M1	365	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P4	
317	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76		M1	366	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76			M3
318	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76		M1	367	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76			M3
319	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76		M1	368	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76			M3
320	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76		M1	369	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76			M3
321	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76		M1	370	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P16	
322	弥生土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	371	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P17	
323	弥生土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	372	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P28	
324	弥生土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	373	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P28	
325	弥生土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	374	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P28	
326	弥生土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	375	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P28	
327	弥生土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	376	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P28	
328	弥生土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	377	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P28	
329	弥生土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	378	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P28	
330	弥生土器	台付甕	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	379	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P28	
331	弥生土器	甕	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	380	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P28	
332	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	381	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76			P28
333	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	382	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P33	
334	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	383	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P33	
335	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	384	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P33	
336	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	385	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P33	
337	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	386	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P33	
338	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	387	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P33	
339	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	後期	M3	388	石器	刮削	厚燧石 2.0 1.8 0.65 1.76			P43
340	縄文土器	鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	M3	389	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P49	
341	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	M3	390	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P49	
342	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内2	M3	391	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P49	
343	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内2	M3	392	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P49	
344	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内2	M3	393	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	P49	
345	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	M3							
346	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	M3							
347	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	M3							
348	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	M3							
349	縄文土器	深鉢	縄文I-2部 2本組1本取り	堀之内1	M3							

第18表 ビット出土遺物観察表

標榜() 石類 瓦・土器・陶器・瓦葺・土器

No.	種別	形状	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	器種	文様・調整	備考	出土位置
394	石類	磁石	磐石(安山岩) 上下・左側欠損 正置に垂直 磁石として使用か?		P04	438	縄文土器	深鉢	溝古状の沈積		堀之内1
						439	縄文土器	深鉢	白線部に2枚以内有 所謂壺型土器?		後期前半
395	縄文土器	深鉢	2本の土線(L&R)を用いた 早期磁気体加磁文		P65	440	縄文土器	鉢	溝代底 編み方不明		後期
						441	石類	割片	高麗石 3.0 1.3 0.9 2.71		P109
396	縄文土器	深鉢	1階部内所 2条の斜形隆帯 縄文土器後沈積区		P65	442	縄文土器	鉢	溝代・斜形隆帯		堀之内1
						443	縄文土器	深鉢	白線部内所 斜形加磁体		堀之内1
397	縄文土器	深鉢	灰状土層 1階部の埋積地		P68	444	縄文土器	深鉢	2条の横状隆帯 区画内に縄文土器		後期
						445	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P114
398	石類	不明	砂岩 土層に自然埋蔵 左側に斜積		P74	446	縄文土器	鉢	壺下の斜形集合沈積		P114
399	縄文土器	深鉢	縄文土器後沈積区		P77	447	縄文土器	深鉢	口縁部に1隆帯		中期後半～後期前半
400	縄文土器	深鉢	横状凹形隆帯		P84	448	縄文土器	深鉢	横状凹形隆帯		堀之内2
						449	縄文土器	鉢	横状凹形隆帯		後期
401	縄文土器	深鉢	横状凹形隆帯 2条の沈積区画内に L&R土器		P84	450	縄文土器	深鉢	内外面平直なナブ 透壁(6.8) 断面(2.6)		後期
						451	縄文土器	深鉢	断面 12.4 断面(61.0) 所謂壺型土器		後期
402	縄文土器	深鉢	円形割文から横状隆帯		P91	452	縄文土器	深鉢	溝代底 編み方不明		後期
						453	縄文土器	深鉢	横状凹形隆帯		後期前半
403	縄文土器	鉢	壺下集合沈積を踏襲する 集合沈積区		P91	454	縄文土器	鉢	溝代底 編み方不明		後期前半
						455	縄文土器	深鉢	溝代底 編み方不明		P116
404	縄文土器	鉢	2条の横状隆帯間に両側の 透磁刺突		P94	456	縄文土器	鉢	L&R部内外面に跨る隆帯両側に 円孔もつ突起 内面に割文		堀之内1
405	縄文土器	鉢	横状の集合沈積		P94	457	縄文土器	鉢	L&R部内外面に跨る隆帯下に 溝代底 編み方不明		堀之内1
406	縄文土器	深鉢	手摺状の隆帯		P94	458	縄文土器	深鉢	溝代底 編み方不明		後期
407	縄文土器	深鉢	灰色の沈積区画内に深い横状隆帯 横状凹形隆帯 L&R土器		P95	459	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
						460	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P116
408	石類	打製石片	磐石(安山岩) 上部欠損 刃部に磨痕 右側に破れ状 (1.0x0.8x0.3)(4.6x1.2)		P96	461	縄文土器	深鉢	横状凹形隆帯		堀之内1
						462	縄文土器	深鉢	横状凹形隆帯		P116
409	縄文土器	深鉢	縄文土器後沈積区		P97	463	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
						464	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P129
410	縄文土器	深鉢	横状凹形隆帯		P97	465	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
						466	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P129
411	縄文土器	深鉢	横状凹形隆帯		P97	467	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
						468	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P129
412	縄文土器	深鉢	L&R部付文から横状隆帯 断面文を3条の集合沈積で踏く 区画内へ縄文土器		P96	469	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
						470	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P129
413	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	471	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
414	縄文土器	深鉢	横状凹形隆帯		P97	472	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P129
415	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	473	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
416	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	474	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P129
417	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	475	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
418	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	476	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P132
419	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	477	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P132
420	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	478	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
421	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	479	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
422	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	480	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P134
423	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	481	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
424	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	482	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P135
425	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	483	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
426	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	484	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P138
427	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	485	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
428	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	486	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P138
429	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P97	487	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
430	土器類	前	内外面へウエダ 断面 11.2cm		P106	488	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
431	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P107	489	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P138
432	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P107	490	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
433	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P108	491	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P138
434	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P109	492	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
435	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P109	493	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		堀之内1
436	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P109	494	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P138
437	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P109	495	縄文土器	深鉢	壺下の斜形集合沈積		P138

第19表 ビット出土遺物観察表

No. () 品名 最大径・最大厚・最大重・最大長 (mm-g)

No.	種別	品名	文様・調整	備考	出土位置	No.	種別	品名	文様・調整	備考	出土位置
487	縄文土器	深鉢	J字文を取り入れた浅鉢	称名寺	P143	525	縄文土器	鉢	刻み施巻の浅鉢(深さ不明)	堀之内	P156
488	縄文土器	深鉢	所産新製1層	後期前半	P143	526	縄文土器	深鉢	横位押付施巻	後期前半	P158
489	石器	凹石	碓石製品		P143						
490	縄文土器	深鉢	頸位沈線区内側面横溝文J字	称名寺	P144	527	縄文土器	浅口土器	内底小波状L字? 口縁部近く 外反する 頸位L字・横位沈線から 横位沈線	堀之内	P158
491	縄文土器	深鉢	S字状横位把手 把手下縁から横位・ 斜行沈線 口縁下に横位沈線	称名寺	P144	528	縄文土器	鉢	横位形沈線の沈線(内面に)の沈線	堀之内1	P160
492	縄文土器	深鉢	沈線の頸位区画外へ横文L字光環 三角形の平行沈線区画内	称名寺	P144	529	縄文土器	鉢	横位・斜行集合沈線	堀之内1	P160
493	縄文土器	深鉢	横文L字光環	称名寺	P144	530	縄文土器	鉢	横位・斜行集合沈線 磨面横文L字	堀之内2	P161
494	縄文土器	深鉢	横位押付施巻	後期前半	P144	531	縄文土器	深鉢	横文で三角形を構成し文様の 主題も磨面でも感銘しているらしい	堀之内2	P163
495	縄文土器	深鉢	横位押付施巻	後期前半	P144						
496	縄文土器	鉢	突起部内底付文・L字 口唇部 外側出し部分に垂声な円孔と J字横位付文	堀之内1	P144	532	縄文土器	鉢	磨面(全体に磨面) L字横位付文	堀之内1	P153
497	縄文土器	深鉢	3箇の円孔もつ突起 口唇部押圧	堀之内1	P141	533	石器	石鏝	燧石 下部欠損 (2.0) 1.0 0.4 (0.67)		P164
498	縄文土器	深鉢	L字横位の横位沈線	堀之内1	P144	534	石器	削片	燧石 右側に二次加工か? 3.1 1.8 0.7 2.97		P164
499	縄文土器	鉢	横位押付下底をなぞる沈線と2本の 斜行沈線区画内に横文L字光環	堀之内1	P144	535	石器	削片	燧石 2.8 2.1 0.6 3.29		P164
500	縄文土器	深鉢	所産新製1層	後期前半	P144	536	縄文土器	深鉢	横位押付下に横文L字 磨面の未施かみ入	中期末～ 後期初期	P165
501	縄文土器	浅口	内底に内積する 平行口唇下に 口孔をもつ	後期前半	P144	537	石器	凹石	ホムンフルス 上下両面に磨面 13.7 6.7 4.8 708.55		P165
502	縄文土器	鉢	横位L字 2本組1本磨り	後期	P144	538	縄文土器	鉢	口唇部内底 L字に付て1本の沈線	堀之内1	P167
503	石器	打製石片	礫石山岩 上部欠損 刃部付近磨面 (6.8) (6.3) (1.5) (83.96)		P144	539	縄文土器	深鉢	横位斜み施巻	後期前半	P168
504	縄文土器	深鉢	横文L字	後期?	P146	540	縄文土器	深鉢	磨面横文 直径(11.9) 高さ 3.3	後期	P168
505	縄文土器	深鉢	横位L字 2本組1本磨り 磨りにもう一つの 幅み方不明の横位区画あり 直径 10.0cm 高さ (11.0cm)	後期	P146	541	縄文土器	深鉢	横位L字 2本組1本磨り? 磨面 9.9 高さ (18.8)	後期	P168
506	縄文土器	深鉢	横位L字 2本組1本磨り 磨りにもう一つの 幅み方不明の横位区画あり 直径 10.0cm 高さ (11.0cm)	後期	P146	542	縄文土器	鉢	磨面する磨り施巻 磨面磨の集合沈線	堀之内1	P169
507	縄文土器	深鉢	横位L字 2本組1本磨り 磨りにもう一つの 幅み方不明の横位区画あり 直径 10.0cm 高さ (11.0cm)	後期	P146	543	縄文土器	鉢	横位斜み施巻の下底を横位がなぞる その下底沈線の集合沈線	堀之内1	P169
508	石器	磨・磨石	礫石山岩 被熱あり(靨黒褐色色) 正面にすり面 下部部に磨面 (12.3) (7.9) (8.0) (757.70)		P149	544	縄文土器	深鉢	磨面状L字を付した円形割面をもつ円形の 磨石 その磨の方向が割面L字内	堀之内2	P169
509	石器	磨石	礫石山岩 磨面に磨面 9.2 7.5 4.2 329.74		P152						
510	縄文土器	深鉢	横位押付施巻	後期前半	P153	546	石器	打製石片	燧石 磨面 上下欠損 自然面磨面 (6.0) (4.6) (1.2) (27.16)		P170
511	縄文土器	深鉢	磨面施巻下 横位沈線区画外 磨面横文L字	称名寺	P153	547	縄文土器	鉢	横位L字 2本組1本磨り 横位磨面あり 未付磨面	後期	P174
512	縄文土器	深鉢	横位L字 2本組1本磨り 横位磨面あり	堀之内1	P163	548	縄文土器	鉢	磨面L字 磨り方不明 L字磨の磨面施巻あり	後期	P174
513	縄文土器	鉢	横位L字 2本組1本磨り 横位磨面あり	後期	P163	549	縄文土器	深鉢	横文L字	中期末～後期初期	P175
514	縄文土器	浅口	木製仮ある底磨面を加工 作 4cm 厚 1.2cm	後期	P153	550	縄文土器	鉢	斜行する集合沈線	堀之内1	P176
515	石器	凹石	砂岩 被熱あり(全体に黒化) L字横位に磨面		P153	551	縄文土器	深鉢	口唇部内底 沈線	称名寺	P178
516	石器	削片	灰色チャート 自然面を磨る削片 3.1 2.2 0.6 2.94		P153	552	縄文土器	深鉢	L字下底横位磨面	称名寺?	P179
517	縄文土器	深鉢	横位斜み施巻	後期前半	P156	553	縄文土器	深鉢	磨面施巻をなぞる沈線 横文L字施巻後 沈線でL字 沈線磨面が磨面状に 磨り上がる	称名寺	P179
518	縄文土器	深鉢	文字状集合沈線の中心に2箇の円形部 割面 そこから左右に2本の横位沈線	堀之内1	P156	554	縄文土器	深鉢	L字横位付 横位押付施巻	後期前半	P180
519	縄文土器	鉢	くびれ部の円形割付文から横位 磨面をなぞる沈線	堀之内1	P156	555	縄文土器	深鉢	内外面より磨面を試みたのだろうか? 未磨面の円形磨面あり	後期前半	P180
520	縄文土器	鉢	くびれ部2本の横位沈線 その下底横位・横位沈線	堀之内1	P156	556	石器	削片	灰色チャート 二次加工不明 3.8 2.9 0.8 7.32		P182
521	縄文土器	鉢	横位・斜行沈線区画内に 横文L字光環	堀之内1	P155	557	縄文土器	深鉢	磨面状L字による横位施巻	堀之内1	P183
522	縄文土器	鉢	横位施巻 円孔をなぞる沈線 磨りに近い 横位沈線 斜行斜み施巻 内底にL字をなぞる沈線	堀之内2	P155	558	縄文土器	深鉢	内底にL字に付て横位沈線	堀之内2	P185
523	縄文土器	鉢	横位磨面	後期	P156	559	縄文土器	土器片内底	割面? 磨面磨 径 4.0 厚 0.7	後期	P186
524	石器	打製石片	礫石山岩 上部欠損 刃部付近磨面 (7.4) (7.7) (1.4) (109.56)		P155	560	石器	打製石片	礫石山岩 上部欠損 刃部付近磨面 (5.7) (6.0) (1.6) (73.54)		P188
						561	縄文土器	深鉢	横位沈線区画内に磨面付文	称名寺	P189
						562	縄文土器	深鉢	磨面状L字による横位施巻	堀之内1	P189



西近津Ⅷ遺跡近景（南西より）



西近津Ⅷ遺跡から長野県埋文センター調査地点西近津遺跡群を眺む（北西より）



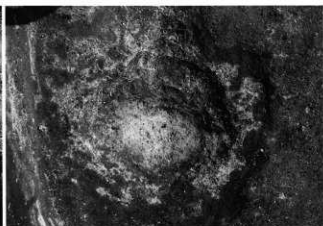
H1号住居址 南より



H1号住居址掘り方 南より



H1号住居址遺物出土状況



H1号住居址炉



H2号住居址遺物出土状況



H2号住居址カマド



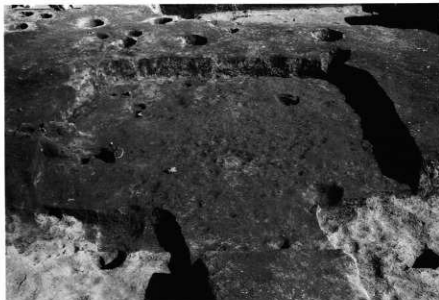
H2号住居址カマド



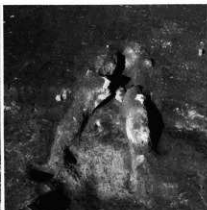
H2号住居址掘り方 西より



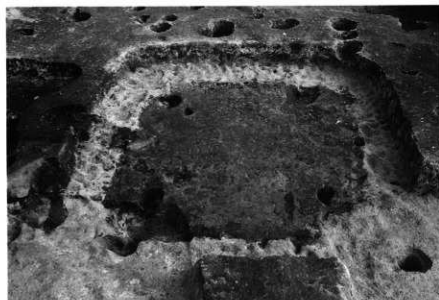
H2号住居址カマド掘り方



H3号住居址 西より



H3号住居址カマド



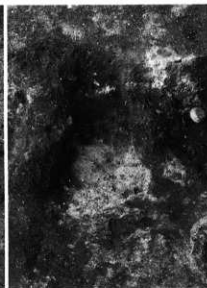
H3号住居址カマド石組状況



H3号住居址遺物出土状況



H4号住居址 東より



H4号住居址カマド



H14号住居堀り方 南より



H4号住居址カマド割り方



H5号住居址 東より



H6号住居址 西より



H5号住居址掘り方 東より



H7号住居址遺物出土状況



H5号住居址カマド



H5号住居址カマド割り方



H7号住居址 東より



H17号住居址炉



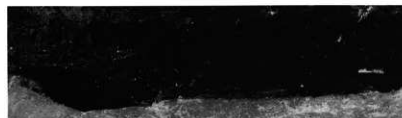
H18号住居址 東より



H9号住居址 東より



H12号住居址掘り方 北より



H10号住居址 東より



H11号住居址 北より



H11号住居址掘り方 北より



H12号住居址 北より



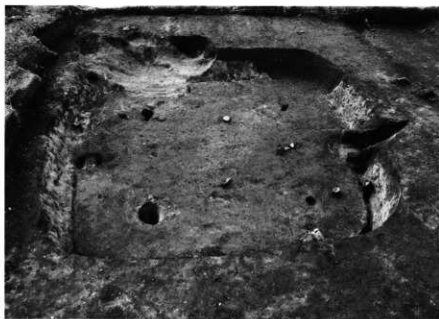
H13号住居址 東より



H13号住居址掘り方 東より



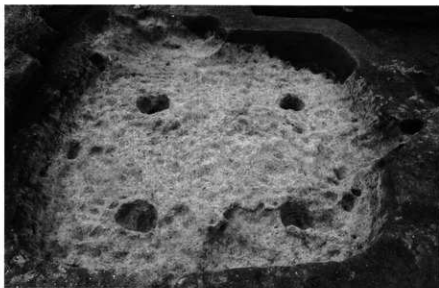
H13号住居址カマド



H14号住居址 東より



H14号住居址カマド



H14号住居址掘り方 東より



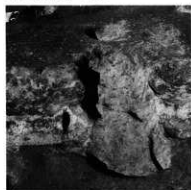
H14号住居址遺物出土状況



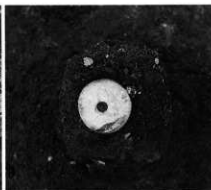
H15号住居址 南より



H15号住居址石組状況



H15号住居址カマド掘り方



H15号住居址遺物出土状況



H15号住居址遺物出土状況



H15号住居址遺物出土状況



H15号住居址遺物出土状況



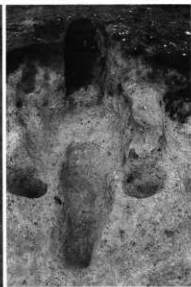
H16号住居址 北より



H16号住居址掘り方 北より



H17号住居址 南より



H17号住居址カマド廻り方



H17号住居址掘り方 南より



H17号住居址カマド



H17号住居址遺物出土状況



H17号住居址遺物出土状況



H18号住居址 南より



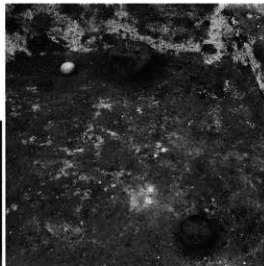
H18号住居址廻り方 南より



H18号住居址遺物出土状況



H18号住居址
遺物出土状況



H18号住居址遺物出土状況



H19号住居址 南より



H19号住居址遺物出土状況



H20号住居址 南より



H21号住居址遺物出土状況



H21号住居址 南より



H22号住居址 南より



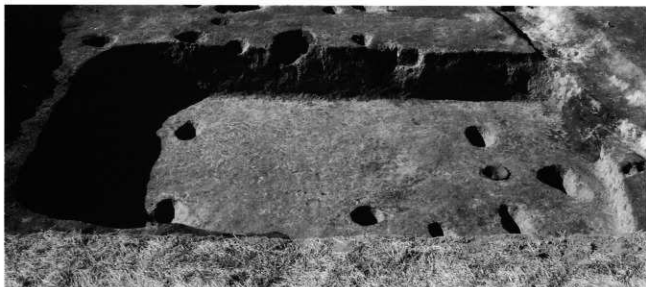
H22号住居址掘り方 南より



H23号住居址 西より



H24号住居址掘り方 南より



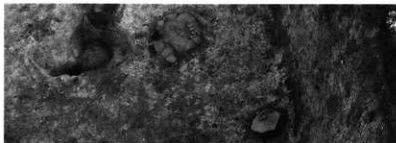
H25号住居址 東より



H25号住居址 北より



H25号住居址炉



H25号住居址遺物出土状況



H25号住居址炉掘り方



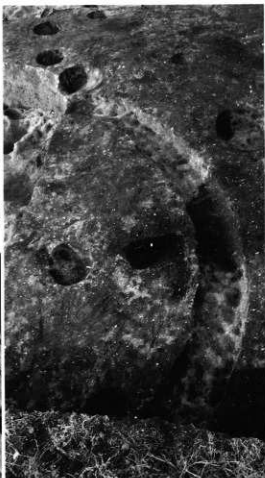
H25号住居址入り口部



H25号住居址炉2掘り方



円形周溝1 北より



円形周溝2 南より



円形周溝1 西より



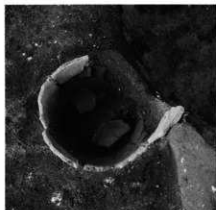
調査風景



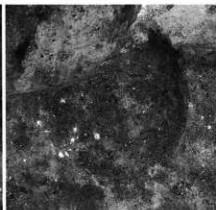
円形周溝1 東より



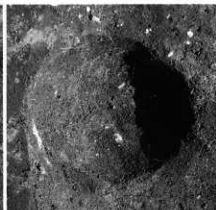
B区調査風景



D1号土坑遗物出土状况



D1号土坑



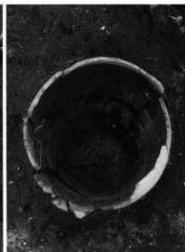
D2号土坑



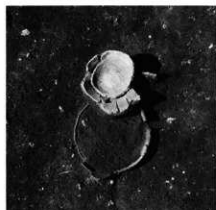
D2号土坑遗物出土状况



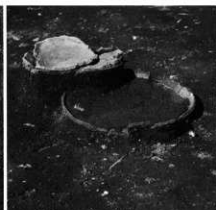
D2号土坑遗物出土状况



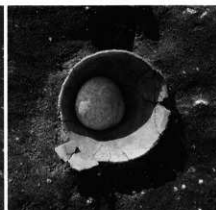
D2号土坑遗物出土状况



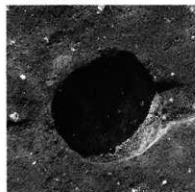
D3号土坑遗物出土状况



D3号土坑遗物出土状况



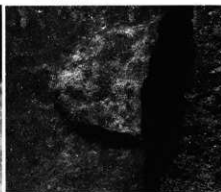
D3号土坑遗物出土状况



D3号土坑



D4号土坑



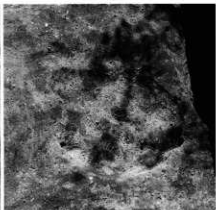
D5号土坑



D6号土坑



D7号土坑遗物出土状况



D8号土坑



D9号土坑



D11号土坑



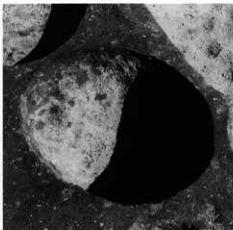
D13号土坑



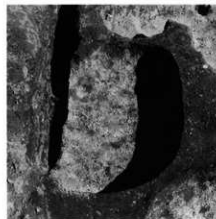
D13号土坑遗物出土状况



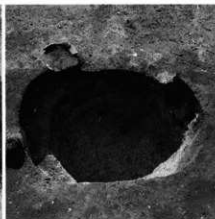
D14号土坑



D15号土坑



D16号土坑



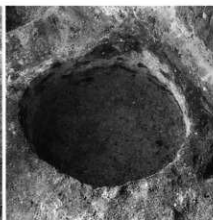
D17号土坑



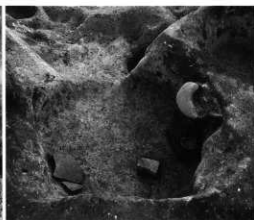
D19号土坑



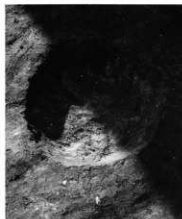
D20号土坑



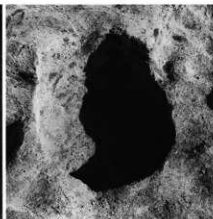
D21号土坑



D22号土坑器物出土状况



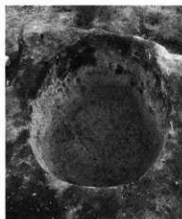
D23号土坑



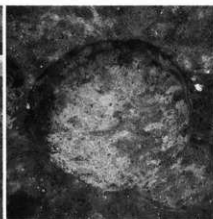
D25号土坑



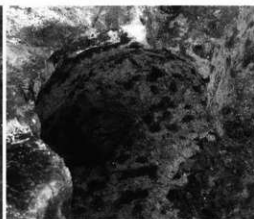
D26号土坑



D27号土坑



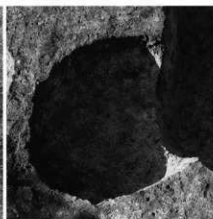
D28号土坑



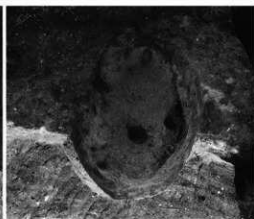
D29号土坑



D30号土坑



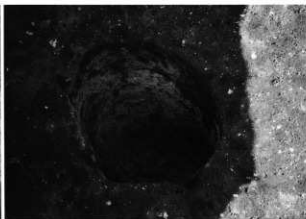
D31号土坑



D32号土坑



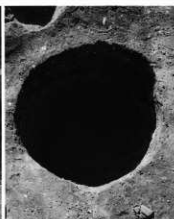
D33号土坑



D34号土坑



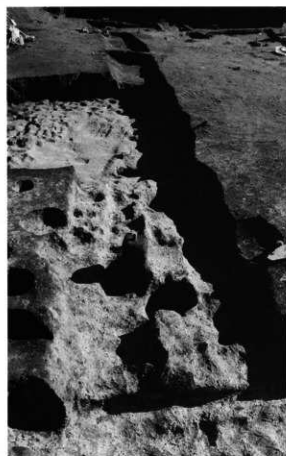
D35号土坑



D37号土坑



D36号土坑



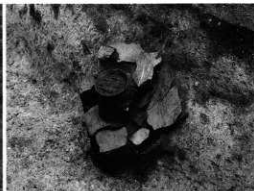
M1号溝状遺構 西より



M3号溝状遺構 南より



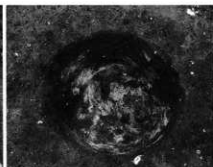
M3号溝状遺構 西より



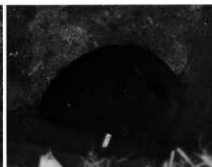
M3号溝状遺構遺物出土状況



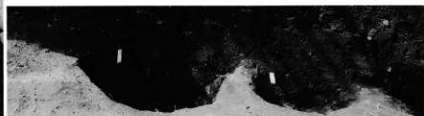
P1, P2, P3付近



P4



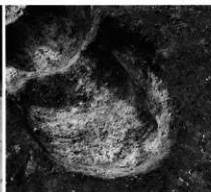
P7



P12, P13



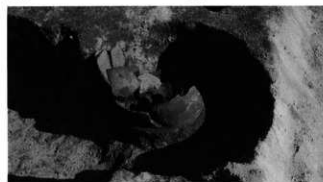
P14



P15



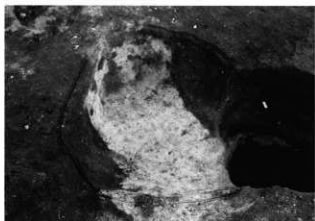
P22



P97遺物出土状況



P106遺物出土状況



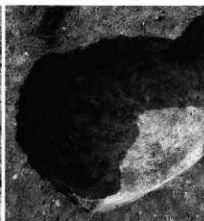
P98



P165



P178



P180



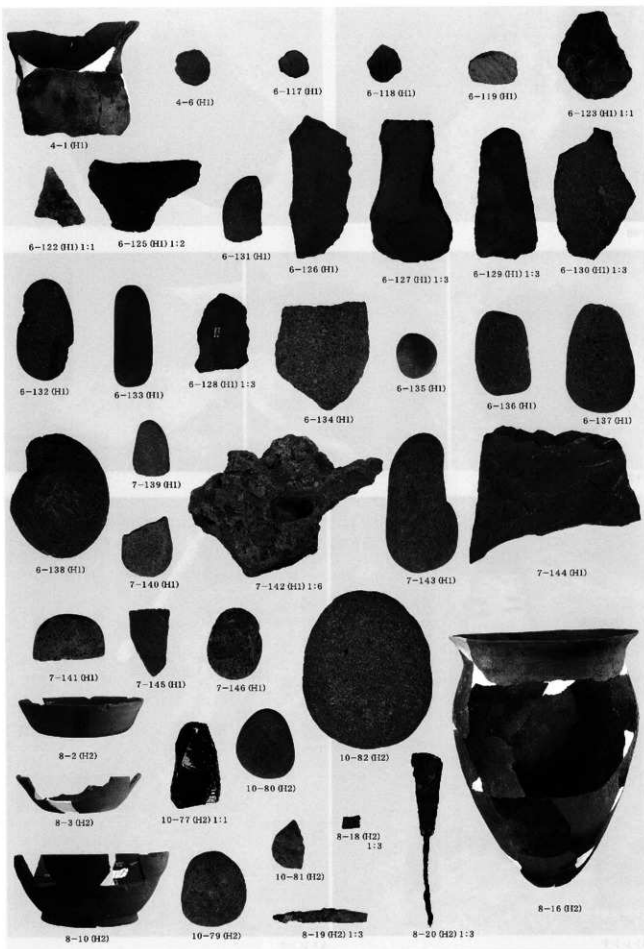
P189



Bトレンチ



Aトレンチ





12-1 (G13)



12-2 (G13)



12-3 (G13)



12-7 (G13)



12-10 (G13)



12-10 (G13)



12-5 (G13)



12-13 (G13)



12-16 (G13)



12-17 (G13)



12-18 (G13)



13-25 (G13)



13-32 (G13) 1:3



15-150 (G13)



15-157 (G13) 1:1



15-166 (G13) 1:1



15-173 (G13)



15-174 (G13)



15-169 (G13) 1:3



15-170 (G13)



15-171 (G13)



15-172 (G13)



15-176 (G13)



15-177 (G13)



15-178 (G13)



15-179 (G13)



15-182 (G13)



15-175 (G13)



15-180 (G13)



15-183 (G13)



15-181 (G13)



15-184 (G13)



15-185 (G13)



15-186 (G13)



15-187 (G13)



15-188 (G13)



16-189 (I3)



16-190 (I3) 1:6



16-191 (I3) 1:6



16-192 (I3)



16-193 (I3)



16-194 (I3) 1:1



17-3 (II4)



19-15 (II4)



20-93 (II4)



16-195 (I3)



16-196 (I3)



17-5 (II4)



20-92 (II4) 1:2



20-95 (II4) 1:1



20-94 (II4) 1:1



20-96 (II4) 1:1



20-97 (II4) 1:1



20-103 (II4) 1:3



20-104 (II4) 1:3



20-107 (II4) 1:3



20-105 (II4) 1:3



20-108 (II4)



20-109 (II4)



20-110 (II4)



22-20 (I15)



22-17 (II5)



22-16 (II5)



22-25 (II5) 1:1



22-26 (II5) 1:1



1:1
22-27 (II5)



23-85 (II5) 1:1



23-86 (II5) 1:1



23-87 (II5) 1:1



22-28 (II5)



23-89 (II5) 1:3



23-91 (II5)



23-94 (II5)



23-93 (II5)



23-90 (II5) 1:3



23-88 (II5) 1:1



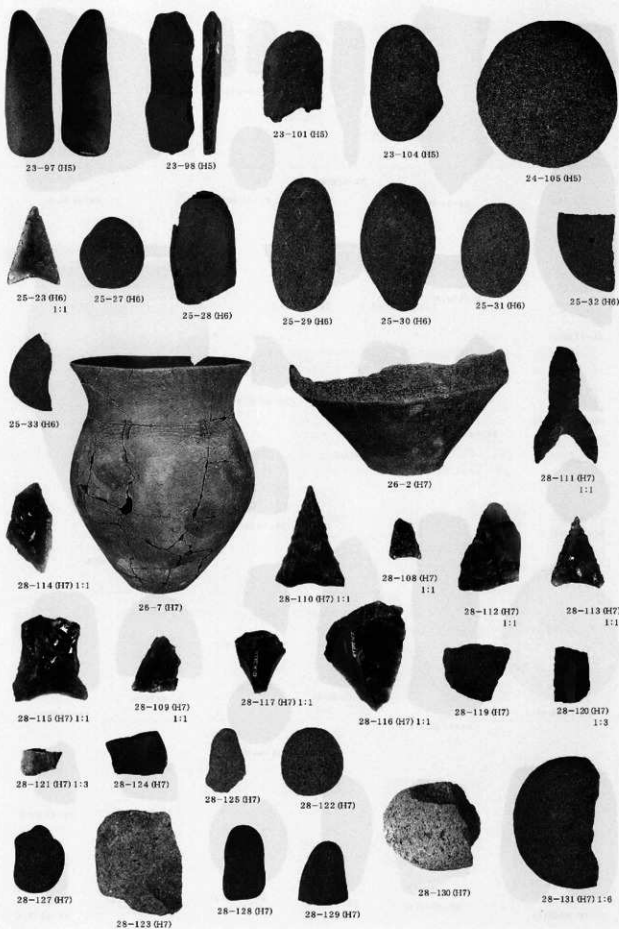
23-96 (II5)

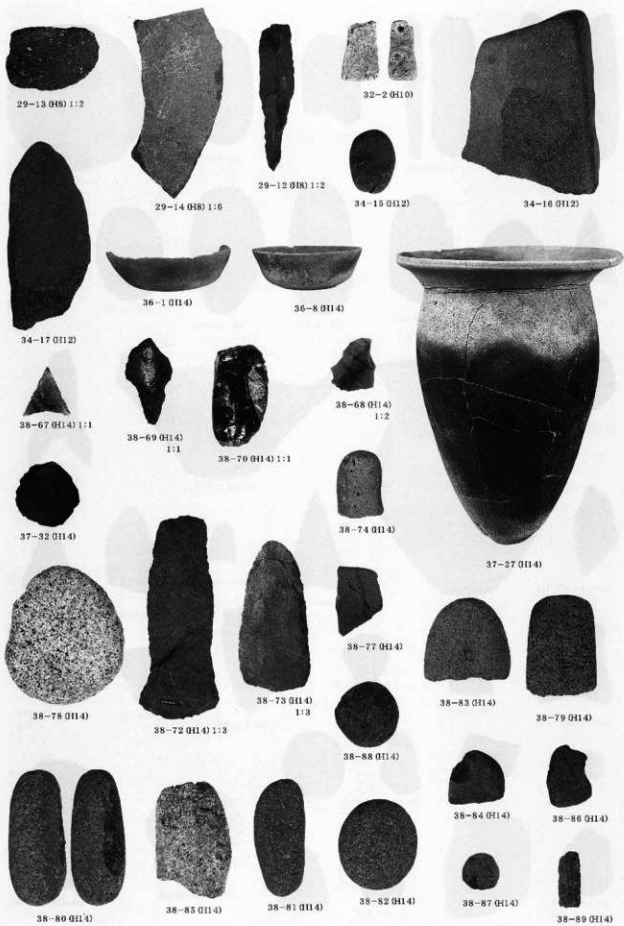


23-99 (II5)



23-100 (II5)







39-1 0H15)



40-10 0H15)



41-19 0H15)



41-18 0H15)



42-49 0H15)



42-51 0H15)



41-20 0H15) 1:2



42-58 0H15) 1:1



42-60 0H15) 1:1



42-59 0H15) 1:1



42-64 0H15) 1:2



42-67 0H15)



42-68 0H15)



42-77 0H15) 1:6



42-72 0H15)



42-74 0H15)



42-66 0H15) 1:3



42-73 0H15)



42-69 0H15)



42-75 0H15)



42-76 0H15)



44-4 0H16)



45-1 0H17)



45-2 0H17)



45-4 0H17)



45-6 0H17)



45-5 0H17)



45-7 (H17)



45-13 (H17)



47-21 (H17)



45-12 (H17)



45-11 (H17)



45-14 (H17)



47-18 (H17)



47-19 (H17)



47-17 (H17)



47-23 (H17) 1:1



48-76 (H17)



48-81 (H17)



49-7 (H18)



49-12 (H18) 1:2



48-77 (H17)



48-80 (H17)



48-79 (H17)



48-84 (H17)

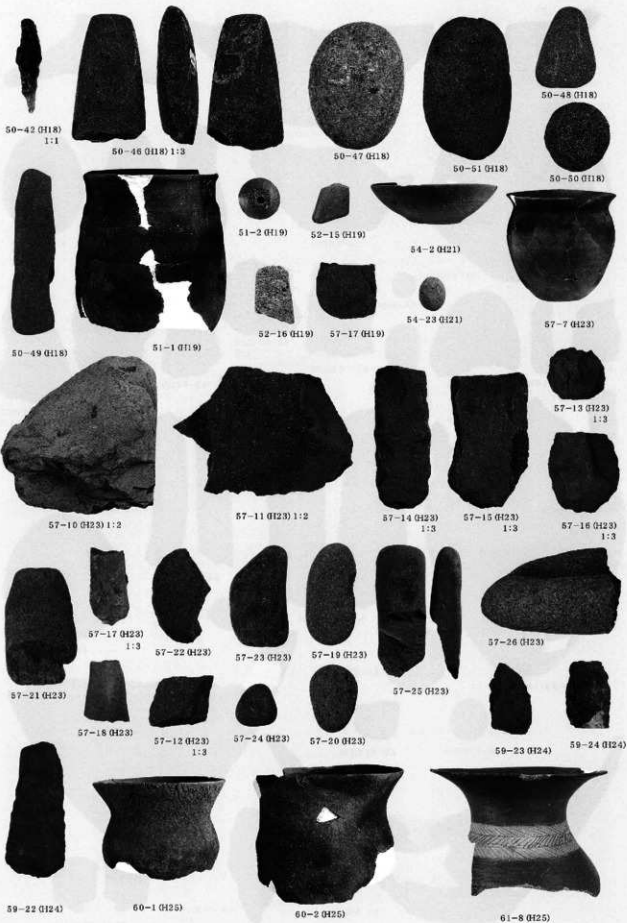


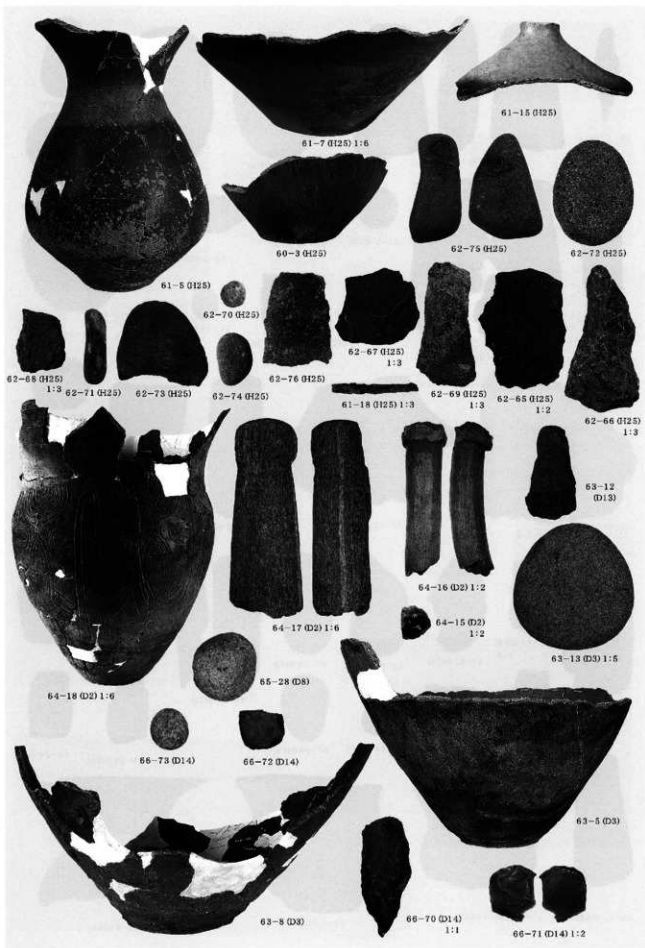
49-6 (H18)

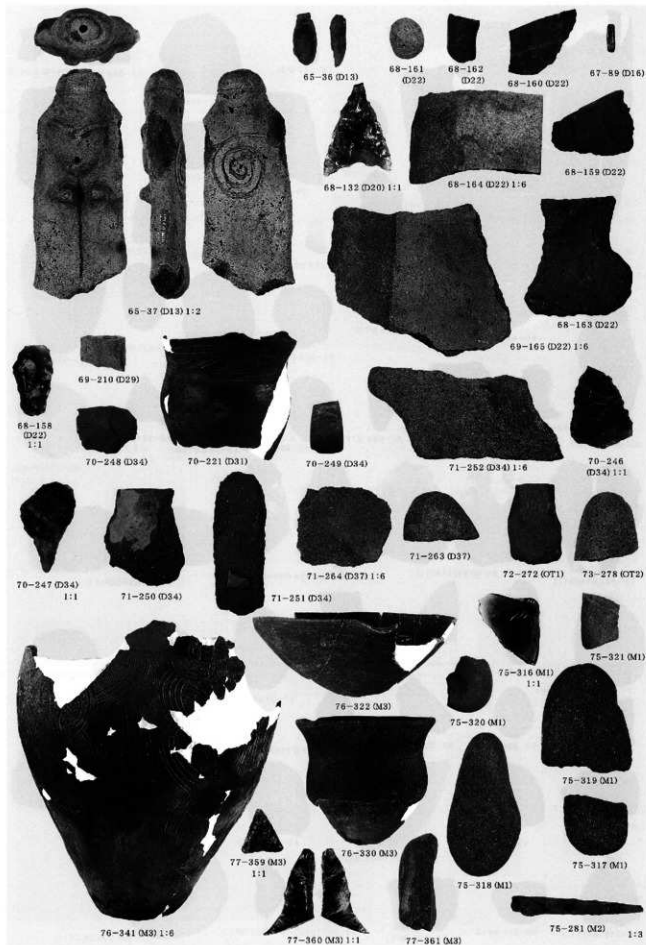


49-13 (H18) 1:1

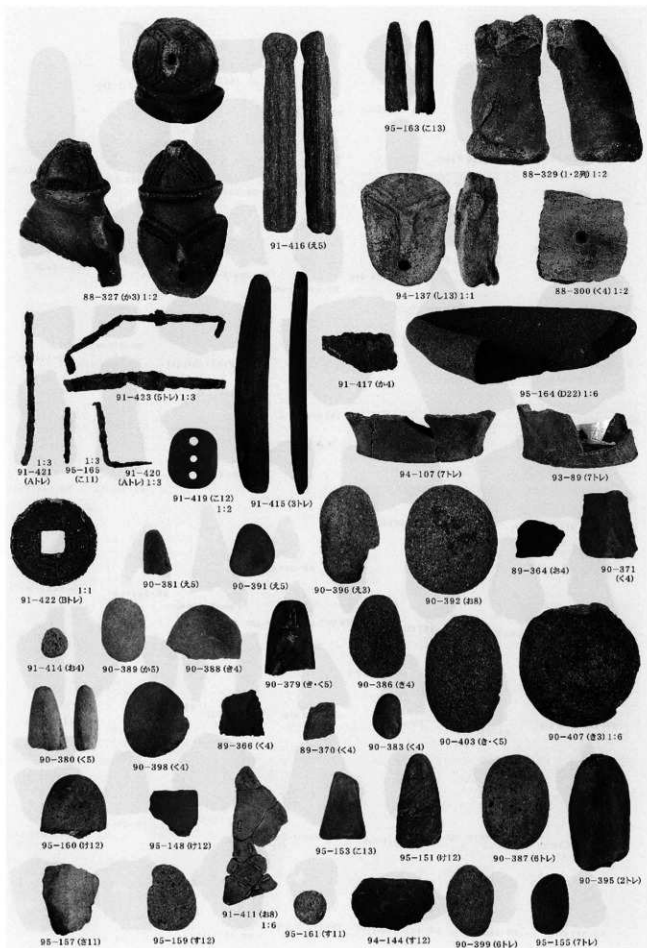
49-14 (H18) 1:3

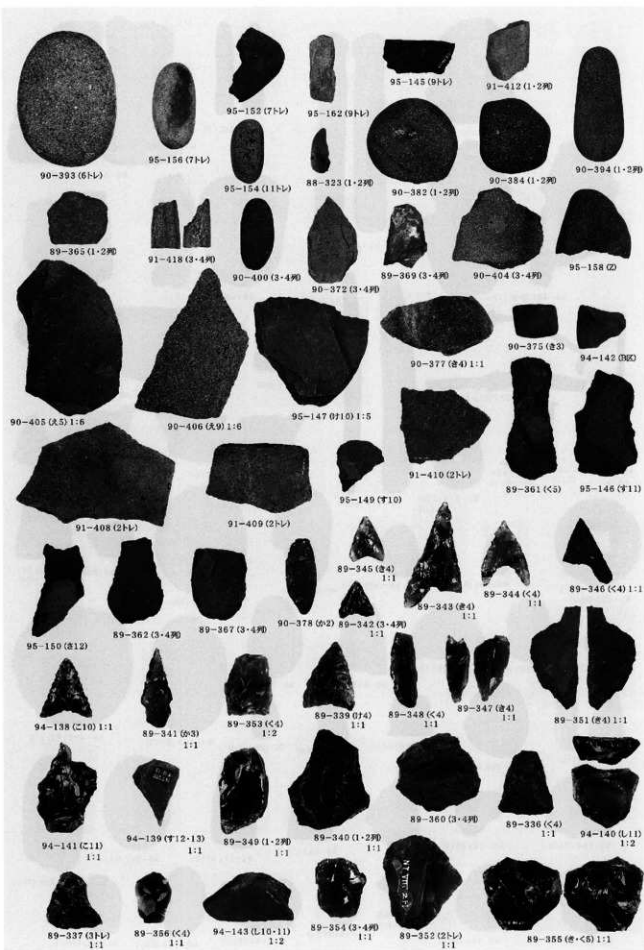












第三章 西近津遺跡群 西近津遺跡IX

第1節 調査体制

調査担当者 上原 学
調査員 浅沼勝男 江原富子 小幡弘子 風間敏 木内勇 小井戸秀元
小林百合子 清水澄生 滝沢三男 土屋武士 中嶋フクジ
比田井久美子 日向昭次 武者幸彦 渡辺長子 渡辺学

第2節 調査日誌

平成23年度

- 7月20日 文化財保護法93条に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出。
- 11月 8日 試掘調査。(住居址・ピット発見)
- 11月10日～文化財保護協議。
遺跡の破壊される建物部分の発掘調査を実施することとなった。
- 11月22日 平成23年度埋蔵文化財委託契約。
- 11月24日 発掘調査開始。重機による表土剥ぎ。(原因者による) 機材搬入。
- 11月25日～機材搬入・遺構検出・掘り下げ・図面作成・写真撮影
- 11月28日 基準杭設定。(原因者による)
- 12月 8日 調査終了。機材撤収。
- 12月 7日～平成24年 3月16日 報告書作成。



西近津遺跡群 西近津遺跡IX全景(南西から)

(遺物=遺物洗浄・注記作業・接合復元作業・実測図作成・トレース・写真撮影・図版作成、遺構=図面修正・写真整理・トレース・図版作成・原稿作成)

1月20日 平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約の変更契約。

3月16日 平成23年度発掘調査作業完了・請求。

平成24年度

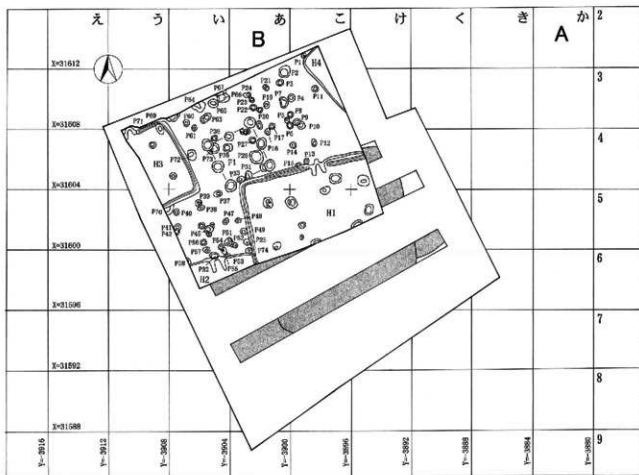
6月29日 平成24年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。

1月～ 報告書原稿入稿。校正。図面・遺物整理作業。

3月 報告書刊行。

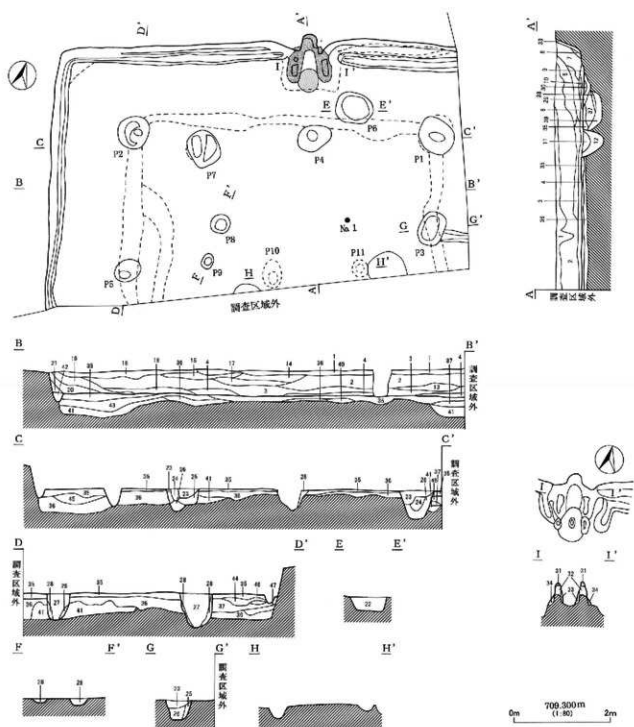
第3節 発見された遺構と遺物

- 遺 構 竪穴住居址 4軒(弥生時代1・古墳時代3)
 掘立柱建物址 1棟(奈良・平安時代)
 ビット
- 遺 物 縄文土器
 弥生土器
 土師器(坏・甕・鉢)
 須恵器(坏・甕・壺)
 石製品(すり石・編物石・敲石)



第96図 調査遺構・試掘トレンチ配置図 (1:250)

第4節 竪穴住居址 (H)
H1号住居址



- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 黒褐色土 (10YR2/3) ロ-ム、軽石、炭化物含む。 | 5 暗赤褐色土 (2.5YR3/3) 全体的に焼土化、ロ-ム・暗褐色土の混合土。 |
| 2 暗褐色土 (10YR3/2) ロ-ム、軽石、炭化物含む。 | 6 赤灰色土 (2.5YR5/1) 灰層。 |
| 3 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土少量含む。 | 7 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 焼土化した粘土。ロ-ム・暗褐色土の混合土。 |
| 4 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、粘土粒、羨土、ロ-ム、軽石含む。 | 8 赤灰色土 (2.5YR5/1) 灰層。 |

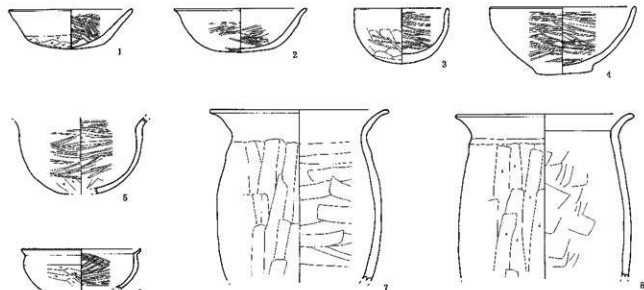
第97図 H1号住居址実測図

- 9 赤灰色土 (2.5YR6/1) 灰層、炭化物、焼土含む。
 10 赤褐色土 (2.5YR4/6) 焼土層。
 11 褐色土 (7.5YR4/3) ローム多く、焼土、炭化物含む。
 12 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム多く、焼土、炭化物含む。
 13 黒褐色土 (10YK2/2) 黒色土ブロック、軽石、炭化物、ロームブロック含む。
 14 暗褐色土 (10YK3/4) 黒褐色土ブロック、軽石、炭化物含む。
 15 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム多い、軽石、炭化物含む。
 16 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、炭化物、軽石含む。
 17 黒褐色土 (10YR2/3) 黒色土と暗褐色土の混合物。炭化物、焼土含む。
 18 黒褐色土 (10YR2/3) 黒色土と暗褐色土の混合物。炭化物、焼土含む。
 19 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム、炭化物、軽石含む。
 20 暗褐色土 (10YR3/3) 黒色土とロームの混合物。マブツ状。
 21 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石、炭化物含む。
 22 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石や多い。
 23 褐色土 (10YR4/4) ローム多い、軽石含む。
 24 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石含む。しまりなし。
 25 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ローム主体。
 26 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、焼土、炭化物少量含む。
 27 暗褐色土 (10YR3/4) ローム、軽石や多い。
 28 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム多い、軽石含む。

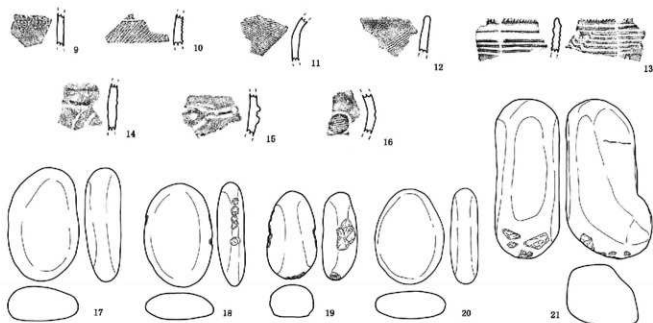
- 29 褐色土 (7.5YR4/3) 焼土、炭化物少量含む。
 30 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 焼土含む。
 31 にぶい赤褐色土 (2.5YR5/4) 焼土化した粘土。
 32 暗赤褐色土 (5YR2/4) 焼土化した粘土。
 33 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 硬質、焼土化した粘土。
 34 暗赤褐色土 (5YR3/4) 粘土。
 35 褐色土 (7.5YR4/3) 硬質、貼り床、ローム多い。
 36 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム主体、暗褐色土含む。
 37 暗褐色土 (7.5YR2/3) ローム、炭化物含む。
 38 褐灰色土 (10YR5/1) 白色粘土、焼土含む。
 39 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム主体。炭化物含む。
 40 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土ブロック、炭化物、焼土含む。
 41 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム主体、暗褐色土粒、炭化物含む。
 42 暗褐色土 (10YR3/4) しまりなし、周壁。
 43 黒褐色土 (10YK2/3) 黒色土、ローム、褐色土の混合物。
 44 褐色土 (10YR4/6) ローム主体、褐色土少量含む。
 45 褐色土 (10YR4/4) ローム主体、褐色土含む。
 46 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム主体、褐色土含む。
 47 褐色土 (10YR4/6) ローム主体。

遺構は調査区南東のB-あ-5グリッド周辺に位置する。遺構の南及び東側の一部は調査区域外となる。調査規模は、南北5.2m、東西8.6m、確認面から床面までの深さは65cm内外を測る。試掘調査の結果を考えると、一辺10mを越える大型の住居址である。平面形態は調査状況から方形と思われる。床面は壁際の一部を除き土間状の貼り床が認められ、硬質である。壁際には幅20cm内外、深さ15cm内外の溝が巡っている。カマド両脇の壁溝北側には北壁に沿って、幅5~20cmのテラスが存在した。ピットは床面上で9個、掘方で2個が認められた。P1~P2が北側の支柱穴で、大型の住居址であることから、支柱穴間で補助的なP3・4・5が立てられたと考えられる。ピットの深さは、いずれも50cm以上を測る。P6は位置的にカマド脇の貯蔵穴の役割があった可能性が窺える。カマドは北壁の中央と思われる位置に構築されている。カマドの土台は地山のロームで削り出し、これを粘土で覆う構造である。天井部は崩落しているが、袖部分は比較的良好な状態で確認できた。袖に挟まれた火床部分には、直径50cm、厚さ8cmの焼土が堆積していた。

遺物は土師器の坏・鉢、甕、須恵器の坏、編物石・敲石が出土した。このほかに混入品として、破片だが縄文土器・弥生土器が出土している。縄文土器については、本報告書と合冊である西・本柳遺跡Ⅷから形状の窺える縄文後期の土器が出土している。本住居址は6世紀、古墳時代としたい。



第98図 II-1号住居址遺物穴断面図(1)



第99図 H1号住居址遺物実測図(2)

番号	品種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	杯	12.6	丸底気味	4.9	外面気味及び両辺部へつ削り・内面横ナジ	70	外面7.5YR6/6褐色
2	土師器	杯	13.1	丸底気味	4.2	外面気味から表面へつ削り・口縁横ナジ	40	外面7.5YR6/4Cに近い褐色
3	土師器	杯	[10]	丸底気味	5.9	外面気味より上部・断面気味・口縁横ナジ	40	外面7.5YR6/3Cに近い褐色
4	土師器	鉢	16.5	6	7.1	外面へつ削り・内面横ナジ	80	外面7.5YR6/3Cに近い褐色
5	土師器	鉢	—	—	30	外面へつ削り・口縁横ナジ	40	外面5YR4/2灰褐色
6	土師器	杯	[12.6]	—	(4.3)	外面へつ削り・口縁横ナジ	30	外面7.5YR6/6赤褐色
7	土師器	甕	[19]	—	(18.2)	外面へつ削り・口縁横ナジ	—	口縁～胴部片 外面5YR6/6褐色
8	土師器	甕	[18.9]	—	(17.3)	外面へつ削り・口縁横ナジ	—	口縁～胴部片 外面5YR6/6赤褐色
9	野生土器	壺	—	—	—	外面赤色塗彩。山形文内刷突文	—	胴部破片 外面10R3/4暗赤褐色 器入遺物
10	野生土器	壺	—	—	—	外角平行比喩内彫斜線文	—	胴部破片 外面10YR7/4Cに近い黄褐色 器入遺物
11	野生土器	甕	—	—	—	外面磨蝕状文	—	胴部破片 外面7.5YR7/6褐色 器入遺物
12	野生土器	甕	—	—	—	口縁横ナジ後外面磨蝕状文	—	胴部破片 外面7.5YR4/2灰褐色 器入遺物
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	口唇部刻み 外面横刷状文 内面横刷状文・沈線文	—	口縁破片 外面10YR6/4Cに近い黄褐色 器入遺物 横文刷状文・沈線文
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	外面横・新比喩 やや表面磨蝕 磨面割離	—	胴部破片 外面10YR4/2灰赤褐色 器入遺物 横文刷状文・沈線文
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	外面横刷状文・内面横刷状文	—	胴部破片 外面7.5YR7/4Cに近い黄褐色 器入遺物 横文刷状文・沈線文
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	外面内面沈線内縄文	—	胴部破片 外面7.5YR7/4Cに近い黄褐色 器入遺物 横文刷状文・沈線文
番号	品種	器形	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調査・文様	重量(g)	備考
17	石器	磨物石	12	7.4	3.7	板熱なし 裏面なめらか、すりに使用か?	525.62	I区出土
18	石器	磨物石	11	7.1	2.8	板熱なし 右側に隆行直	294.88	I区出土
19	石器	磨物石	9.5	5.1	3.5	やや赤み・黒色化。磨熱あり?両面に抉り状の刻線	328.05	II区出土
20	石器	磨物石	10	7.3	3	板熱なし 表面なめらか、すりに使用か?	262.56	II区出土
21	石器	磨石	16.8	9	6.8	全体に赤褐色 板熱あり? 下部に縦行直	1416.42	全体に赤褐色

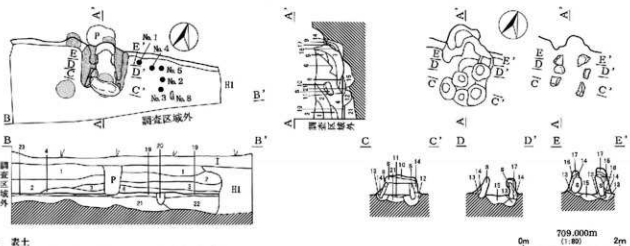
第24表 H1号住居址遺物観察表

H2号住居址

遺構は調査区南西のB-1-6グリッドに位置し、東側をH1に切られ、カマドなど一部を単独ピットに切られる。南及び西側は調査区域外となる。調査規模は最大で南北1.7m、東西4.4m、確認面から床面までの深さは60cmを測る。平面形態は試掘調査の状況から方形と思われる。調査範囲での床面は壁際の一部を除き、全体に貼り床され硬質である。壁溝と考えられる明確な掘り込みは認められなかった。ピットは確認できなかった。カマドは北壁に構築され、芯材に石を利用し、粘土で覆って構築していた。天井部は崩落しているが、両袖及び焚口部の天井石が残存していた。カマドの内壁と煙道部への立ち上がり壁面は熱により硬質化していた。焚口部の天井石直下に径40cm、深さ5cmの掘土が堆積していた。また、カマド西側には床面上に円形の焼け込みと北壁部に挟り込むように粘土が張り付

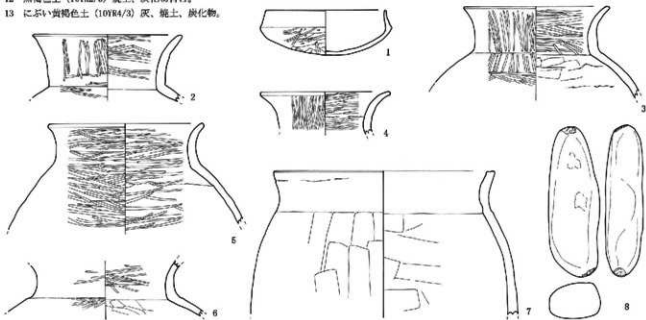
いていることから、以前は西側にカマドが存在し、東側に造り替えた可能性が考えられる。カマド東脇からは、形状の残る土器が出土した。掘方は10~20cmを測り、3cm内外の硬質な貼床直下に極暗赤褐色土と褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・甕、敲石及び炭化米が出土した。カマド横から出土した土器は、甕の胴上半部から口縁部までを輪切りにした状態で土器の器台として使用していた可能性が窺える。坏は体部途中に明瞭な稜を伴う坏である。時期は坏の特徴から6世紀、古墳時代後期としたい。

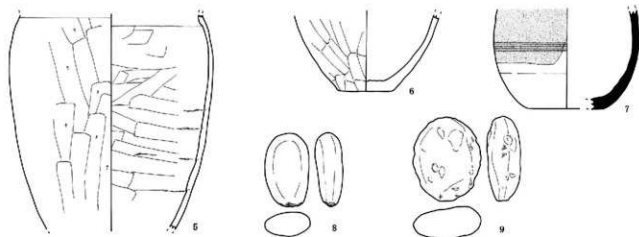


1 表土

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 軽石、ローム、黒色土ブツが含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 褐色土ブツがやや多い、ローム、軽石、炭化物含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色土ブツが、炭化物含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石、炭化物、粘土ブツが、焼土含む。
- 5 にぶい赤褐色土 (5YR5/4) 焼土化した粘土ブツが。
- 6 暗褐色土 (2.5YR3/4) 焼土化した粘土ブツが、炭化物・灰多い、しまりなし。
- 7 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 粘土、炭土、灰、炭化物多い。
- 8 乳灰色土 (7.5YR5/1) 白色粘土層。
- 9 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土、炭化物含む。
- 10 暗赤褐色土 (2.5YR3/3) 焼土化した粘土。
- 11 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 焼土層。
- 12 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭化物含む。
- 13 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 灰、焼土、炭化物。
- 14 灰褐色土 (7.5YR4/2) 焼土層。
- 15 黒褐色土 (10YR2/3) 黒色土とロームの混合土。焼土、炭化物含む。
- 16 にぶい赤褐色土 (2.5YR4/3) 焼土化した粘土層。
- 17 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 焼土化した粘土層。
- 18 にぶい赤褐色土 (5YR4/3) 焼土、炭化物含む。
- 19 暗褐色土 (7.5YR3/3) 床面、硬質。
- 20 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石、炭化物含む。
- 21 極暗赤褐色土 (5YR2/3) 黒色土とロームの混合土。
- 22 褐色土 (7.5YR4/4) ローム主体、暗褐色土含む。
- 23 灰褐色土 (7.5YR4/2) 床面、硬質。



第100図 H2号住居址遺構・遺物実測図



第102図 H3号住居址遺物実測図

遺構は調査区北西のBー4グリッドに位置し、西側の約半分は調査区域外となる。調査規模は南北5.3m、東西2.9m、確認面から床面までの深さは60cmを測る。平面形態は方形と思われる。床面は壁際を除き貼り床が施され、硬質である。壁際には幅10cm内外、深さ15cm内外の溝がある。ピットは床面上で2個、掘方で2個確認できた。P1・2は主柱穴である。主柱穴は、床面上で柱痕部のみ軟質で、周辺の掘方部上面は貼り床され硬質であった。カマドは北壁に構築され、土台を地山のロームを削り出し、これを粘土で覆うように構築されている。天井部は崩落しているが、袖部は比較的良好な状態であった。火床部分には径40cm、厚さ10cmの焼土が堆積していた。掘方は15~25cmを測り、3cm内外の硬質面直下に、にぶい褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の壺、すり石、敲石が出土した。時期は体部に明瞭な稜を伴う土師器坏、甕の形状から6世紀、古墳時代後期とした。

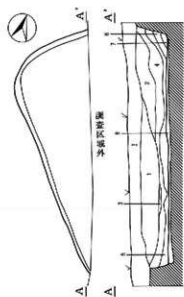
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	[11.4]	丸底	4.6	口縁ナデ 外面へら削り埃ミガキ 内面ミガキ	25	外面5YR5.6明赤褐色
2	土師器	坏	[13.4]	丸底	(3.9)	口縁ナデ 外面へら削り埃ミガキ 内面ミガキ	体部~口縁破片	外面7.5YR4/3褐色
3	土師器	坏	[12.6]	丸底	(6.3)	口縁外面ナデ 底部から体部へら削り 内面ミガキ	体部~口縁破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色
4	土師器	甕	22	-	(29.6)	口縁ナデ 外面へら削り・埃肌・表面粘土付着 内面ミガキ	70	外面7.5YR6/2灰褐色
5	土師器	甕	-	-	(22.7)	外面へら削り 内面へらナデ 薄緑斑	胴部破片	外面5YR5.4/1にぶい赤褐色
6	土師器	甕	-	[5.7]	(8.1)	外面へら削り 内面へらナデ 表面炭粉・粘土付着	底部~胴部破片	外面2.5YR4/2灰赤色
7	須恵器	壺	-	[7.7]	(8)	内外面クロコナデ 底部及び胴部へら削り 自然釉付着	底部~胴部破片	外面5Y8/1灰色
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大径(cm)	最大厚(cm)	調査・文様	重量(g)	備考
8	石器	敲石	7.8	4.6	2.8	先端部取直	130.3	
9	石器	すり石	9	7.2	3.4	全体にすり直	76.3	

第26表 H3号住居址遺物観察表

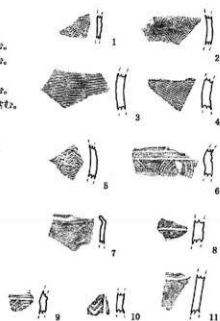
H4号住居址

遺構は調査区北東のAー3グリッドに位置する。遺構東側の大半は調査区域外である。調査規模は、北壁1.8m、西壁4.6m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。床面はやや硬さを持つ。壁溝、ピットは確認できなかった。貼床の硬質面直下は地山となり、明確な掘り込みは認められなかった。

遺物は縄文土器(後期)、弥生土器(赤色塗彩された壺、櫛波状文の甕)、土師器甕、須恵器坏が出土した。いずれも小破片である。弥生時代と異なる時期の遺物が出土しているが、掘方の認められない床の状況等から弥生時代の可能性が高い。新しい土器は、山林になる以前に行われた耕作等によって混入したと考えられる。



- I 表土
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ロ-ム、軽石、炭化物含む。
 - 2 黒褐色土 (10YR2/2) ロ-ム、軽石、炭化物含む。
 - 3 黒褐色土 (10YR2/2) ロ-ム粒、軽石含む。
 - 4 黒褐色土 (10YR2/3) ロ-ム、軽石、炭化物含む。
 - 5 褐色土 (10YR4/4) ロ-ム多い、軽石、炭化物含む。
 - 6 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石やや多い、ロ-ム、炭化物含む。
 - 7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロ-ム多い、軽石、炭化物含む。
 - 8 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 硬質、床面。



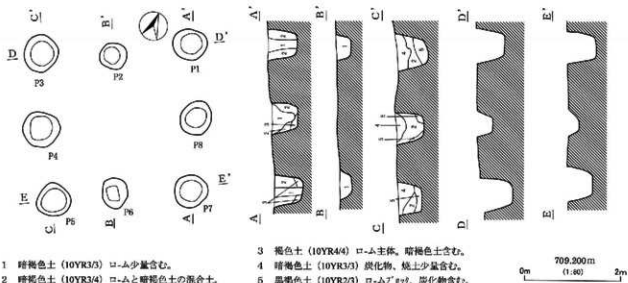
第103図 H4号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	面整・文様	残存率・部位	備考
1	弥生土器	甕	-	-	-	外面彫刻線状文	片断破片	外面10YR7/4にぶい黄褐色
2	弥生土器	甕	-	-	-	外面彫刻線状文	片断破片	外面10YR7/4にぶい黄褐色
3	弥生土器	甕	-	-	-	外面彫刻線状文	片断破片	外面7.5YR7/6褐色
4	弥生土器	甕	-	-	-	外面彫刻線状文	片断破片	外面10YR7/4にぶい黄褐色
5	弥生土器	甕	-	-	-	外面彫刻線状文	片断破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面横平行沈線、底波状凸	破片	外面10YR6/4にぶい黄褐色
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	内外面ナデ	破片	外面7.5YR6/4にぶい暗褐色
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面沈線文	破片	外面10YR2/3にぶい黄褐色
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面横・斜沈線文	破片	外面10YR3/3にぶい黄褐色
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面横・斜沈線文	破片	外面10YR3/3にぶい黄褐色
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	外面沈線文	破片	外面10YR6/4にぶい黄褐色

第27表 H4号住居址遺物観察表

第5節 掘立柱建物址 (F)

F1号掘立柱建物址



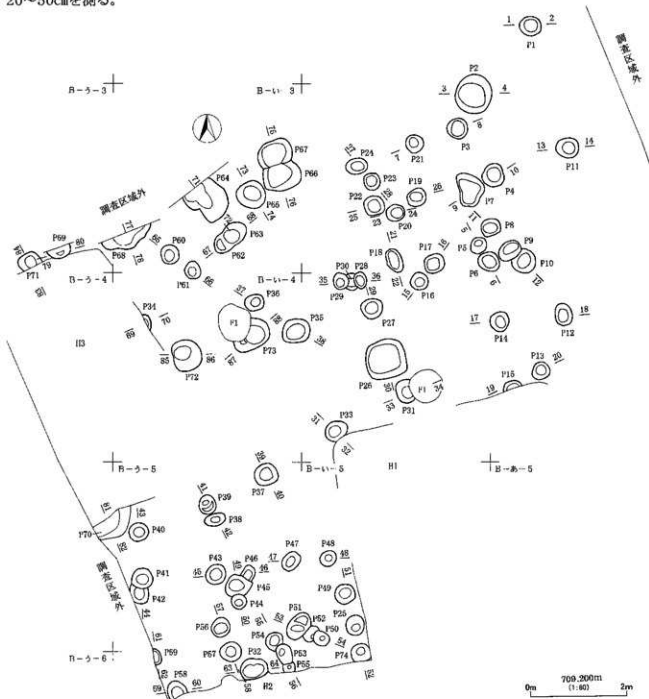
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ロ-ム少量含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ロ-ムと暗褐色土の混合土。
- 3 褐色土 (10YR4/4) ロ-ム主体、暗褐色土含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、焼土少量含む。
- 5 黒褐色土 (10YR2/3) ロ-ムアツク、炭化物含む。

第104図 F1号掘立柱建物址実測図

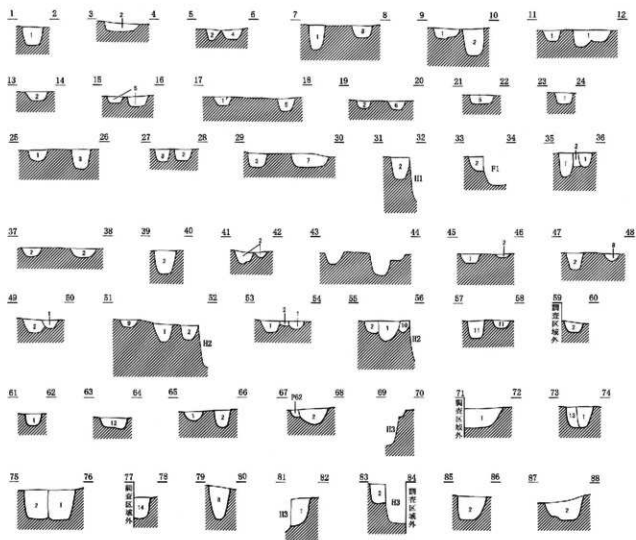
遺構は調査区中央のB-あ-4グリッドに位置する。2間×2間の側柱である。P2とP6は他のピットに比べ浅いことから補助的なピットである可能性も考えられる。全体規模は南北3.8m、東西3.8mを測る。ピットの形状は円形で、規模は径70cm内外、深さはP2・6が30cm、それ以外は60cm内外を測る。遺物はピット内から弥生土器、土師器・甕の破片等が出土した。時期は、古墳時代の住居址を切り、奈良・平安時代の土器が含まれることから、奈良・平安時代としたい。

第6節 ピット (P)

規則性の配列が認められないピットを単独ピットとして取り扱った。平面形態は基本的には円形又は楕円形である。覆上は黒褐色土、暗褐色土が認められる。規模は大半が径40cm内外を測り、深さは20~50cmを測る。



第105図 ピット実測図



- 1 黒褐色土 (10YR2/3)
- 2 暗褐色土 (10YR3/3)
- 3 黒褐色土 (10YR2/2)
- 4 黒褐色土 (10YR3/2)
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) ロームやや多い。
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) ローム多い。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック多い。

- 8 暗褐色土 (10YR3/4)
- 9 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
- 10 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石多い。
- 11 黒褐色土 (10YR2/3) 軽石多い。
- 12 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム、軽石、粘土、炭化物含む。
- 13 褐色土 (10YR4/6)
- 14 暗褐色土 (10YR3/3) 斑状。

第106図 ビット実測図



西近津道跡群西近津道跡区全景 (北から)



西近津道跡群西近津道跡区全景 (南から)



調査風景1 (南から)



調査風景2 (南東から)



H1号住居址全景 (西から)



H1号住居址カマド全景 (南から)



H1号住居址カマド遠方 (南から)



H1号住居址概方 (南西から)



H1号住居址カマド造り出し (南から)



H2号住居址全景 (東から)



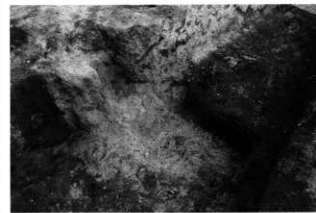
H2号住居址カマド (南から)



H2号住居址カマド焚き口天井石除去後 (南から)



H2号住居址遺物出土状況



H2号住居址カマド堀方 (南西から)



H2号住居址掘方 (北西から)



H3号住居址全景 (南から)



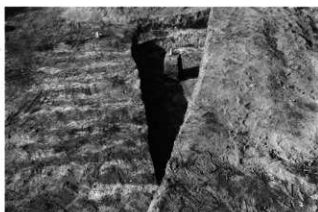
H3号住居址カマド (南から)



H3号住居址カマド堀方 (南から)



H3号住居址掘方（南から）



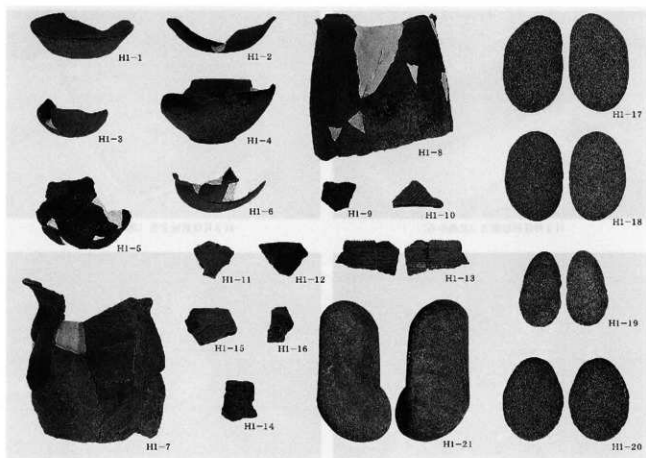
H4号住居址全景（南から）



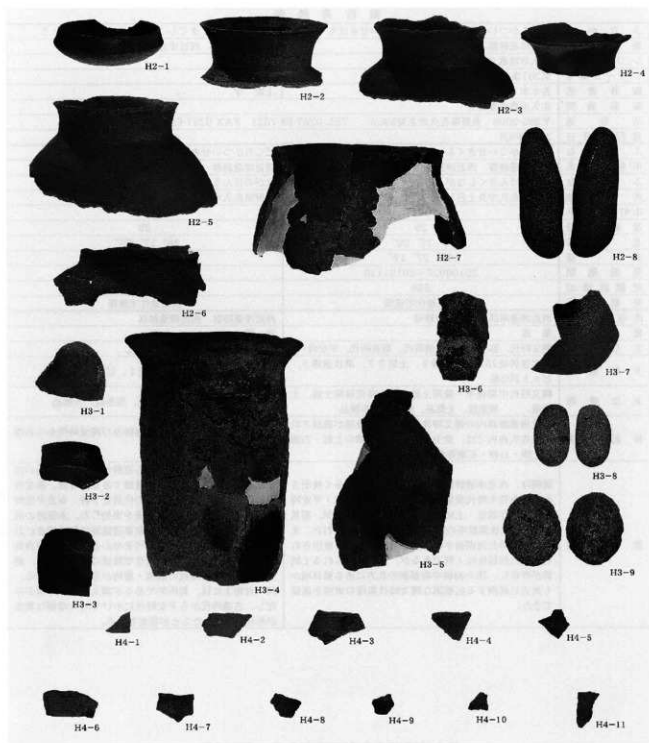
H4号住居址掘方（北から）



F1号掘立柱建物址全景（東から）



H1号住居址出土遺物



II 2・3・4号住居址出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきはち	にしちかついせきぐん にしちかついせきぎゅう
書名	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅳ	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅴ
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書	
シリーズ番号	第207集	
編著者名	佐々木 宗昭 林 幸彦	上原 学
編集機関	佐久市教育委員会	
所在地	〒385-0006 長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323	
発行年月日	2013年3月	
ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきはち	にしちかついせきぐん にしちかついせきぎゅう
所収遺跡名	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅳ	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅴ
ふりがな	ながのけんさくしながとろ	ながのけんさくしながとろ
所在地	長野県佐久市長上呂1796-2、1796-4	長野県佐久市長上呂1764-1、1764-15
市町村コード	20217	20217
遺跡番号	29	29
北緯	36° 17' 02"	36° 17' 06"
東経	138° 27' 19"	138° 27' 24"
発掘期間	20100927～20101126	20111124～20111208
発掘面積㎡	598	170
発掘原因	長屋建住宅建築	長屋建住宅建築
所収遺跡名	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅳ	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅴ
種別	集落	集落
主な時代	縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代	弥生時代、古墳時代、平安時代
主な遺構	竪穴住居址25、円形周溝3、土坑37、溝状遺構3、ピット202基	竪穴住居址4、独立柱建物址1、ピット
主な遺物	縄文時代中期後半・後期土器、弥生時代後期土器、土師器、須恵器、土製品、鉄製品、石製品	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石製品
特記事項	西近津遺跡群内の縄文時代後期集落の東端が確認された。佐久市内では、希少な縄文時代後期の土器・石器・土偶・石棒・石剣等が出土した。	弥生時代から古墳時代の集落跡及び縄文時代から古墳時代の遺物が発見された。
要約	遺構は、西近津遺跡群や周辺の遺跡群で数多く検出されている弥生時代後期・古墳時代・奈良時代・平安時代の竪穴住居址・土坑・溝状遺構等であったが、初見の縄文時代後期前半の竪穴住居址が1軒確認された。また、縄文時代後期前半の遺構と遺物が多数検出された。竪穴住居址は1軒であるが、墓坑とみられる土坑群が存在し、JR小海線中佐都駅の北方にある鷺林城から東方に展開する広範囲な縄文時代集落の東端を確認できた。	佐久地域特有の浅間山麓から放射状に伸びる細長い田切地形の台地上に展開する遺跡である。今回、弥生時代の住居址1軒、古墳時代の住居址3軒、奈良平安時代の独立柱建物址1棟の調査を実施した。本遺跡の周辺では、東側の中部横断自動車道建設に伴う調査において、弥生時代から平安時代を中心とする遺構が多数検出され、両側では長屋建住宅建設に伴う調査で、縄文時代から平安時代の遺構・遺物が発見されている。同一台地上には、局所的であるが縄文時代の集落が存在し、古墳時代から平安時代にかけては大規模な集落が形成されていたことが想定される。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第207集

西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅳ

西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅴ

2013年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限公司社

